

継続的な改善活動のために！

2018

在学生・卒業生・教職員

KIT総合アンケート調査結果 [報告書 (抜粋)]

学校法人 金沢工業大学

KIT総合アンケート調査結果について

学長 大澤 敏

平成30年の大学進学率は過去最高の53.3%に達し、大学教育のユニバーサル化が続いています。このような中で学生の考え方、気質も大きく変化しています。これに予測困難な社会情勢が加わり、社会から必要とされる大学を標榜する本学は、常に教育の質を分析し、不断の改革を行う必要があります。科学技術立国として世界の中で日本が発展するための理工系総合大学として存続し続けるためには、社会の変化に対応しながら、イノベーションを創出できる人材の育成が不可欠です。一方で、教育の質保証や卒業生や在学生の本学に対する満足度等に関しては、従来から不明な点が多いのが現状であります。新入生から卒業生までを網羅したKIT総合アンケート結果は、本学の教育の改善に対して多くの示唆を与えるものです。

金沢工業大学の教育目標は、「自ら考え行動する技術者の育成」です。学生は本学の教育システムの中で学び、基礎知識と技能を確実に身につけ、それを基に、思考力・判断力・表現力を養い、主体的に行動する人材として社会で活躍することになります。最も大切なことは、1日150科目以上開講される授業と課外活動の質、それに係わる教職員の行動であり、これが学生の成長にどのようにつながっているのかについて、学生・卒業生・教員・職員の区分で分析し、如何なる改善をなすべきかを知り、それを基にした教育改革を進める必要があります。

通常、この種のアンケートは自己点検・自己評価の下に行われる訳ですが、本学では第三者である(有)アイ・ポイントにアンケートの設計から調査結果の評価並びに分析に至るまで全てを依頼いたしましたので、より客観性のある報告書になり得たものと考えております。

本アンケートはこれからも継続して実施すると共に、今回得られた結果を踏まえて本学の工学教育・技術者教育へフィードバックしながら、卒業生・修了生・在学生の更なる満足度の向上に資することに致したく思っておりますので、忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いです。

最後になりましたが、本アンケートにご協力いただきました関係各位に対しまして、心より感謝申し上げます。

目次

※本報告書(抜粋)のページ番号は、報告書(全文)の目次に対応しているため、連動しておりません。

<1>	本調査の全体像	1
<2>	在学生、卒業・修了生の基本属性	9
<3>	在学中の目的・目標意識	15
<4>	大学に対する満足度	21
<5>	授業・学習支援の評価	45
<6>	課外活動に関して	79
<7>	勉強、課外活動に費やした時間に関して	95
<8>	大学院進学に関して	105
<9>	教職員と大学の改善取り組み状況の評価	121
<10>	KIT-IDEALSに関して	129
<11>	卒業時の能力	137
<12>	卒業・修了生アンケートの分析結果	143
<13>	新入生アンケートの分析結果	153
<14>	教職員アンケートの分析結果	183
<15>	全体のまとめ	197
<16>	調査票見本	207

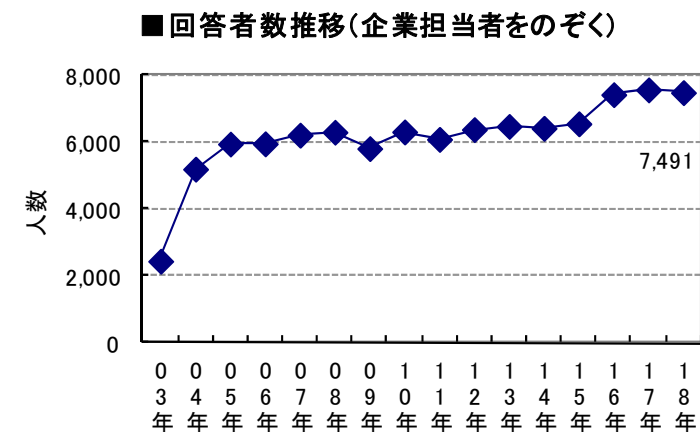
<1-1> 調査の目的と概略

■ 調査目的

- 本調査は金沢工業大学(以下、KIT)を取り囲む関係者の中から、「在学生(新生～卒業・修了直前)」「卒業・修了生」「教員」「職員」を対象として、KITに対する評価や満足度を聞き、過去の回答と比較しながら現状を把握することを主目的としている。
- 上記の各層が「KITをどのように見ているか?」「各々の見方にはどのような違いがあるのか?」「以前とどのように変わっているのか?」といった基礎的な情報を把握し、今後の学校運営、広報の検討に活用できるようとりまとめている。
- 本調査は2003年より実施しており、今回が16回目となる。同一内容で比較できる設問に関しては時系列変化で分析している。

■ 調査方法

調査時期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2018年2月～4月に実施。 ・ 在学生への調査期間は、2005年の調査より、年度当初(4月)から年度末(2月)に変更している。
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「在学生」は学内で配布、「教職員」はメールで配信し、回収ボックスで回収した。「卒業・修了生」は郵送によって配布、回収した。 ・ すべて『無記名式』とした。
回収数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の全回収数は7,491サンプルであった。 ・ 属性別の回収数は下記の通り。
調査主体	学校法人 金沢工業大学
集計分析	(有)アイ・ポイント



■ 年度別回収数

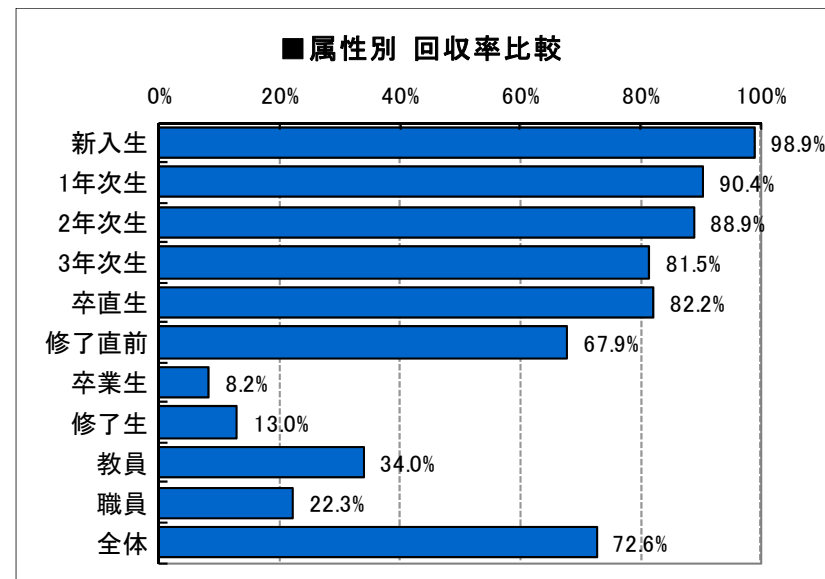
対象者	調査時点での属性	03年回収数	04年回収数	05年回収数	06年回収数	07年回収数	08年回収数	09年回収数	10年回収数	11年回収数	12年回収数	13年回収数	14年回収数	15年回収数	16年回収数	17年回収数	18年回収数
新生	入学直後	724	1,672	1,610	1,747	1,642	1,652	1,568	1,723	1,607	1,745	1,886	1,614	1,664	1,604	1,541	1,641
1年次生	1年次終了時点	106	1,007	1,379	1,364	1,505	1,461	1,369	1,293	1,411	1,299	1,562	1,587	1,447	1,519	1,361	1,384
2年次生	2年次終了時点	49	792	1,533	1,313	1,267	1,455	1,146	1,185	1,022	1,321	1,059	1,337	1,545	1,439	1,497	1,422
3年次生	3年次終了時点	106	449	441	599	768	793	643	760	781	756	741	769	744	1,520	1,312	1,350
卒業・修了直前	卒業・修了直前	976	914	610	549	669	664	711	960	808	873	829	790	865	970	1,509	1,364
卒業・修了生	卒業・修了生	163	107	97	80	90	57	110	137	149	146	144	104	125	124	121	138
教員	在職中の教員	143	133	151	157	136	118	118	112	115	108	118	131	80	134	127	106
職員	在職中の職員	187	131	134	153	144	109	155	148	202	139	143	93	91	122	106	86
企業担当者	卒業生の就職企業	—	—	485	—	—	660	—	—	686	—	—	872	—	—	846	—
全体(企業除く)		2,454	5,205	5,955	5,962	6,221	6,309	5,820	6,318	6,095	6,387	6,482	6,425	6,561	7,432	7,574	7,491

※2014年より、「卒業・修了直前」は「卒業直前」と「修了直前」に、「卒業・修了生」は「卒業生」と「修了生」に分けて調査票を作成したが、件数としては合わせた数で表示している。

■属性別回収率

属性	配布数	回収数	回収率
新入生	1,659	1,641	98.9%
1年次生	1,531	1,384	90.4%
2年次生	1,600	1,422	88.9%
3年次生	1,656	1,350	81.5%
卒業直前	1,498	1,231	82.2%
修了直前	196	133	67.9%
卒業生	1,438	118	8.2%
修了生	154	20	13.0%
教員	312	106	34.0%
職員	386	86	22.3%
全体	10,430	7,574	72.6%

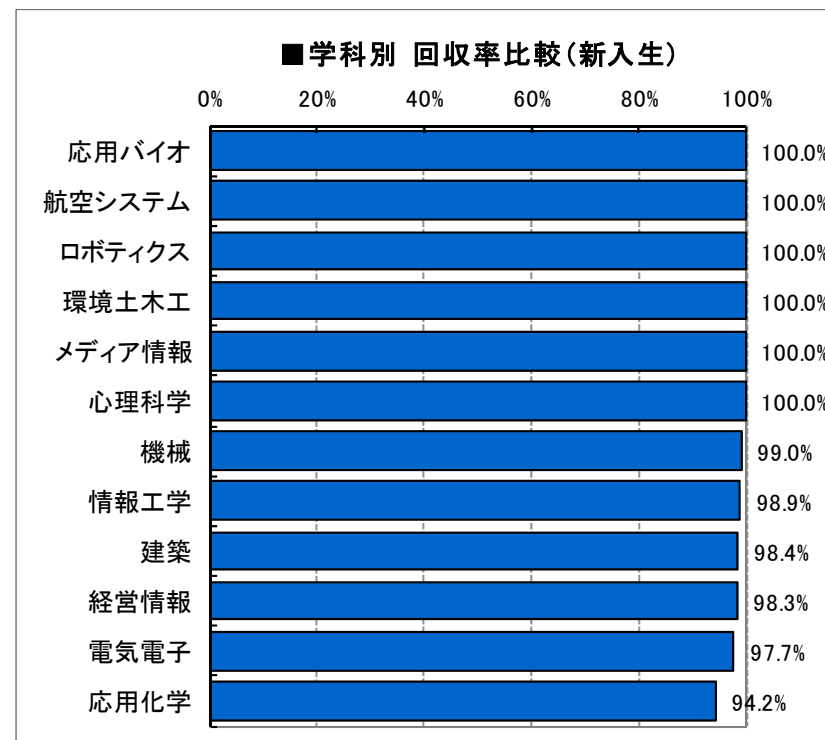
※属性別回収率の「配布数」は実際に調査票を配布した数となる。



■学部別・学科別回収率(新入生)

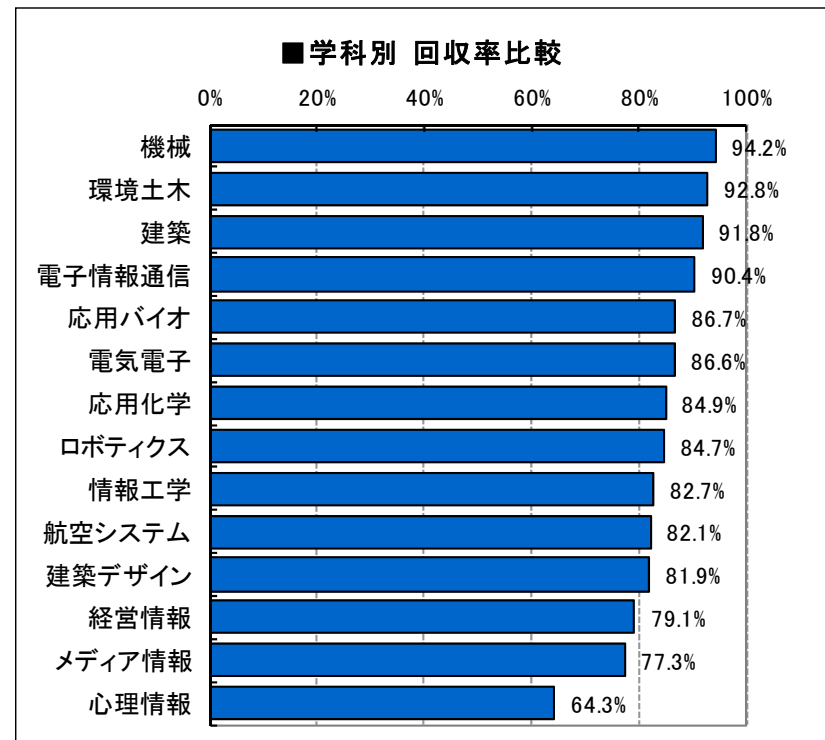
学部	学部別 在籍者数	学部別 回収数	学部別 回収率	学科	学科別 在籍者数	学科別 回収数	学科別 回収率
工学部	1,003	992	98.9%	機械	201	199	99.0%
				航空システム	69	69	100.0%
				ロボティクス	117	117	100.0%
				電気電子	257	251	97.7%
				情報工学	261	258	98.9%
				環境土木工	98	98	100.0%
情報 フロンティア 学部	268	267	99.6%	メディア情報	155	155	100.0%
				経営情報	58	57	98.3%
				心理科学	55	55	100.0%
建築学部	249	245	98.4%	建築	249	245	98.4%
バイオ・化学部	139	136	97.8%	応用化学	69	65	94.2%
				応用バイオ	70	71	100.0%
全体	1,659	1,640	98.9%	全体	1,659	1,640	98.9%

※2018年から新入生の学部・学科構成が変更になったため、今回から別に集計している。



■学部別・学科別回収率(1年次生、2年次生、3年次生、卒業直前)

学部	学部別 在籍者数	学部別 回収数	学部別 回収率	学科	学科別 在籍者数	学科別 回収数	学科別 回収率
工学部	3,325	2,898	87.2%	機械	830	782	94.2%
				航空システム	229	188	82.1%
				ロボティクス	490	415	84.7%
				電気電子	733	635	86.6%
				電子情報通信	198	179	90.4%
				情報工学	845	699	82.7%
情報 フロンティア 学部	1,003	750	74.8%	メディア情報	541	418	77.3%
				経営情報	235	186	79.1%
				心理情報	227	146	64.3%
建築学部	1,338	1,177	88.0%	建築デザイン	553	453	81.9%
				建築	452	415	91.8%
				環境土木	333	309	92.8%
バイオ・化学部	619	532	85.9%	応用化学	272	231	84.9%
				応用バイオ	347	301	86.7%
全体	6,285	5,357	85.2%	全体	6,285	5,357	85.2%



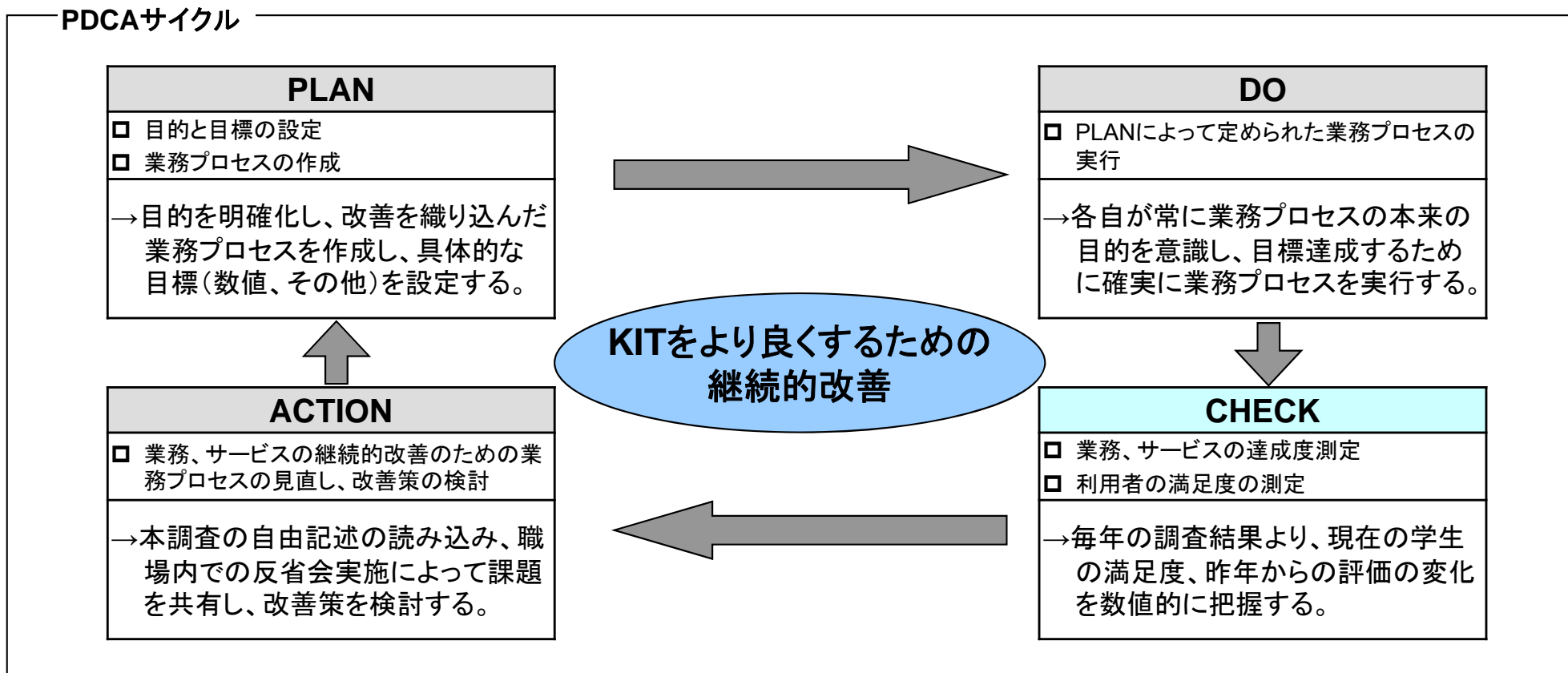
■集計に関して

分野	注意点
無回答に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・ 無回答はすべて集計から除外した。 ・ 割合を見る分析、加重平均を見る分析ともに、無回答は除外して集計した。
加重平均に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各調査項目を属性毎に比較するため、加重平均値を多く活用している。 ・ 今回の調査では、選択肢を「そう思う～どちらかといえばそう思う～どちらかといえばそう思わない～そう思わない」などのように4択式で構成した。なお、「あてはまらない、分からない」は無回答として処理した。 ・ 加重平均は上記の選択肢に、+10点、+5点、-5点、-10点を掛けて回答者数で除して算出した。従って、最高点が10点で最低点がマイナス10点となる。 ・ 「あてはまらない、分からない」「無回答」は回答者数に含めていない。
グラフに関して	<ul style="list-style-type: none"> ・ 折れ線グラフは主に時系列変化を見る際に利用されるが、この報告書では加重平均を属性毎に比較する際に本来の棒グラフでは見にくくなるため、折れ線グラフで表現しているものもある。
誤差に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・ 報告書内のデータの「集計値」や「合計値」は小数点第1位までの表示となっているが、これは小数点第2位を四捨五入したものとなっている。「肯定的な意見の合計値」なども、このルールに従っているため、「集計値」と「合計値」の四捨五入の判断が異なり、最大で0.1の差となっているケースもあるが、これは誤差として、そのままとしている。
属性別比較に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・ 報告書内では属性別比較を行っているが、「全体集計」と「属性別比較」の結果が異なっているケースもある。これは、「全体集計」では全てのデータが集計対象となるが、属性が未回答の場合は「属性別集計」では集計対象とならないためであり、これらの数値は、そのまま表示している。

<1-2> 調査の位置づけ

■PDCAサイクルの中での本報告書の位置づけ

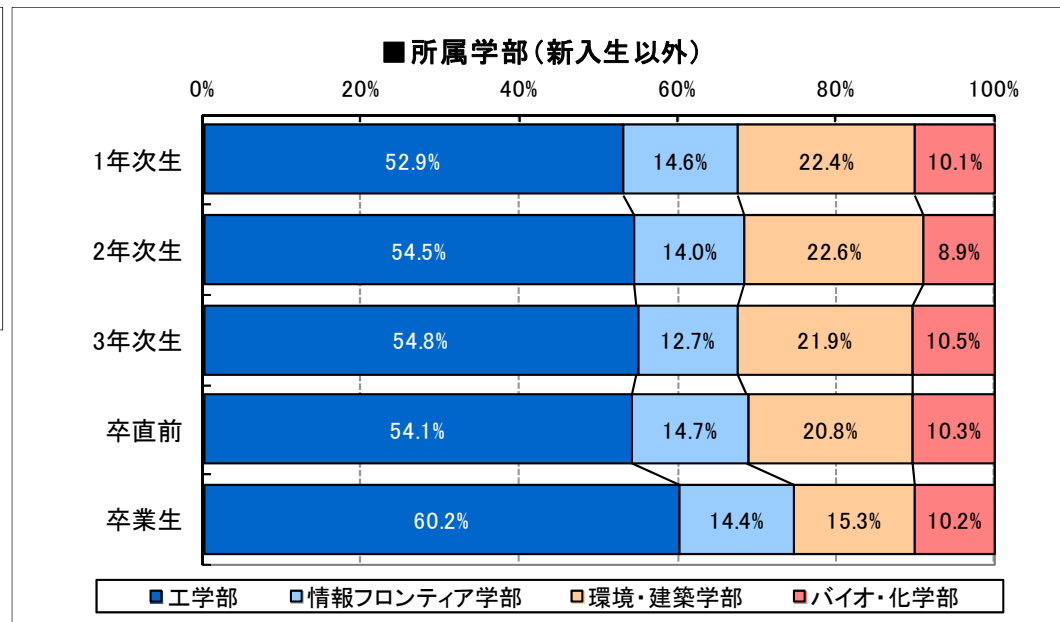
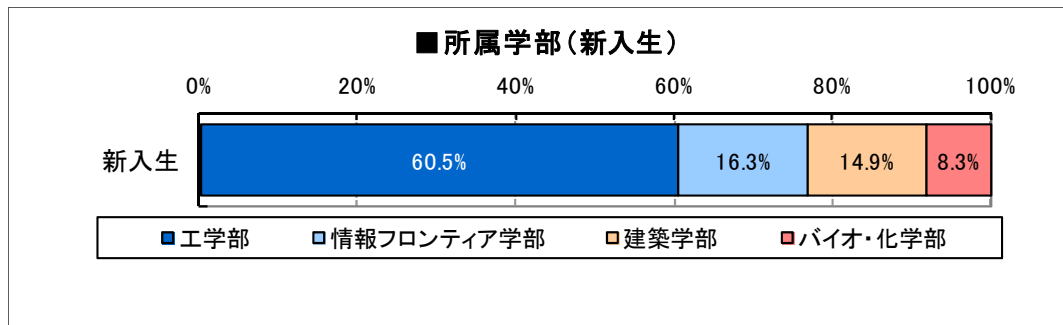
本報告書は前出の目的に基づいて作成されているが、具体的なPDCAサイクルの中では下記のように位置づけられる。



- 今回の調査によって得られた「KIT関係者のKITに対する評価、満足度」は、上記「PDCAサイクル」の中の「CHECKステップ」に相当する。
- 「PDCAサイクル」は一時的なものではなく、継続的な改善を目指すものである。従って「他の施設や機能と比較して評価がどうであったか？」という相対的な結果を見るよりも、「昨年と比較して評価がどう変化したのか?」「自らが設定した目標は達成したのか?」といった変化を見る方が、よりPDCAのサイクルに則した見方ができるものと思われる。
- また、今後の改善策を検討するためには「自由記述」が有効であり、多くのヒントが含まれているものと思われる。
- 本調査企画は昨年から改善を重ねて内容を見直しているため、質問方法、選択肢などが異なる部分もあるが、今後はこれらの違いをできるだけ少なくし、より比較検討が行いやすい内容にしていく予定である。

<2-1> 在学生、卒業・修了生の基本属性

■ 所属学部、学科



■ 所属学科

	機械工学科	航空システム工学科	ロボティクス学科	電気電子工学科	情報工学科	環境土木工学科	メディア情報学科	経営情報学科	心理科学科	建築学科	応用化学科	応用バイオ学科	総計
新入生	12.1%	4.2%	7.1%	15.3%	15.7%	6.0%	9.5%	3.5%	3.4%	14.9%	4.0%	4.3%	100.0%

	機械工学科	航空システム工学科	ロボティクス学科	電気電子工学科	電子情報通信工学科	情報工学科	メディア情報学科	経営情報学科	心理情報学科	建築デザイン学科	建築学科	環境土木工学科	応用化学科	応用バイオ学科	総計
1年次生	14.6%	3.9%	7.2%	11.3%	2.5%	13.4%	10.3%	2.0%	2.3%	9.5%	6.7%	6.2%	4.4%	5.6%	100.0%
2年次生	13.6%	3.5%	7.1%	12.8%	2.6%	15.0%	9.0%	2.7%	2.3%	8.7%	7.8%	6.1%	4.3%	4.7%	100.0%
3年次生	14.9%	3.3%	9.8%	12.1%	2.9%	11.9%	4.7%	4.5%	3.6%	8.2%	8.6%	5.1%	4.7%	5.8%	100.0%
卒直前	15.5%	3.3%	6.8%	11.2%	5.5%	11.7%	7.1%	4.9%	2.8%	7.3%	7.9%	5.6%	3.8%	6.5%	100.0%
卒業生	16.9%	4.2%	9.3%	16.1%	1.7%	11.9%	5.1%	4.2%	5.1%	2.5%	7.6%	5.1%	4.2%	5.9%	100.0%

■出身地域

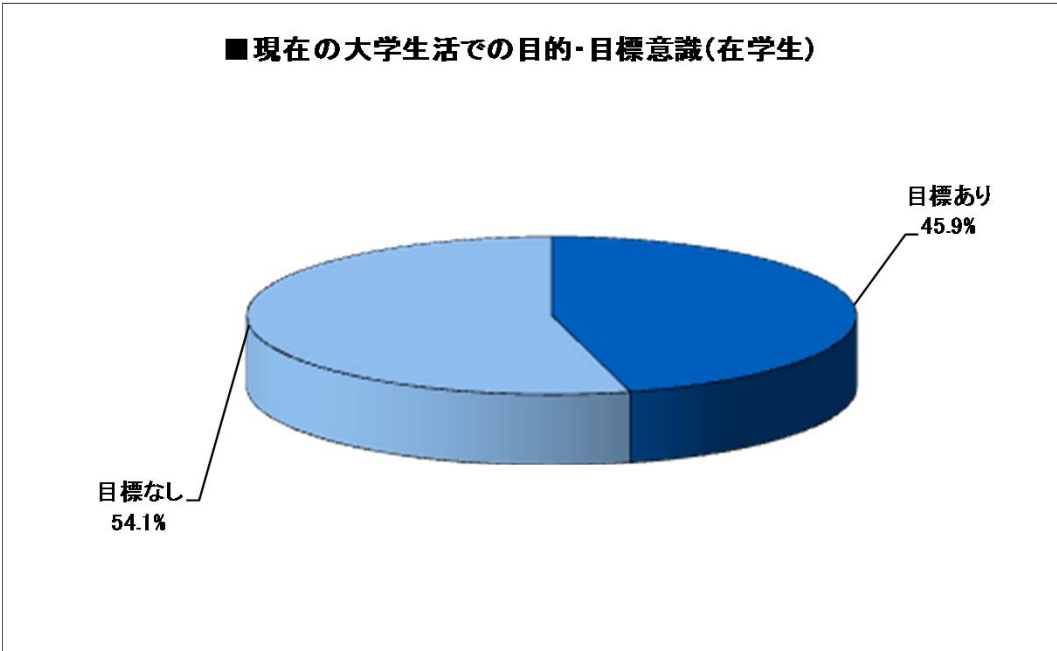
■在学生の出身地域

	北海道・東北	関東	甲信越	北陸	東海	関西	中国・四国	九州・沖縄	全体
1年次生	53	71	201	668	203	110	44	19	1,369
	3.9%	5.2%	14.7%	48.8%	14.8%	8.0%	3.2%	1.4%	100.0%
2年次生	51	67	221	651	219	141	40	19	1,409
	3.6%	4.8%	15.7%	46.2%	15.5%	10.0%	2.8%	1.3%	100.0%
3年次生	51	61	176	614	230	129	44	25	1,330
	3.8%	4.6%	13.2%	46.2%	17.3%	9.7%	3.3%	1.9%	100.0%
卒業直前	6	10	21	44	29	11	7	3	131
	4.6%	7.6%	16.0%	33.6%	22.1%	8.4%	5.3%	2.3%	100.0%
修了直前	49	49	177	551	195	119	51	38	1,229
	4.0%	4.0%	14.4%	44.8%	15.9%	9.7%	4.1%	3.1%	100.0%
全体	210	258	796	2528	876	510	186	104	5,468
	3.8%	4.7%	14.6%	46.2%	16.0%	9.3%	3.4%	1.9%	100.0%

<3-1> 在学中の目的・目標意識

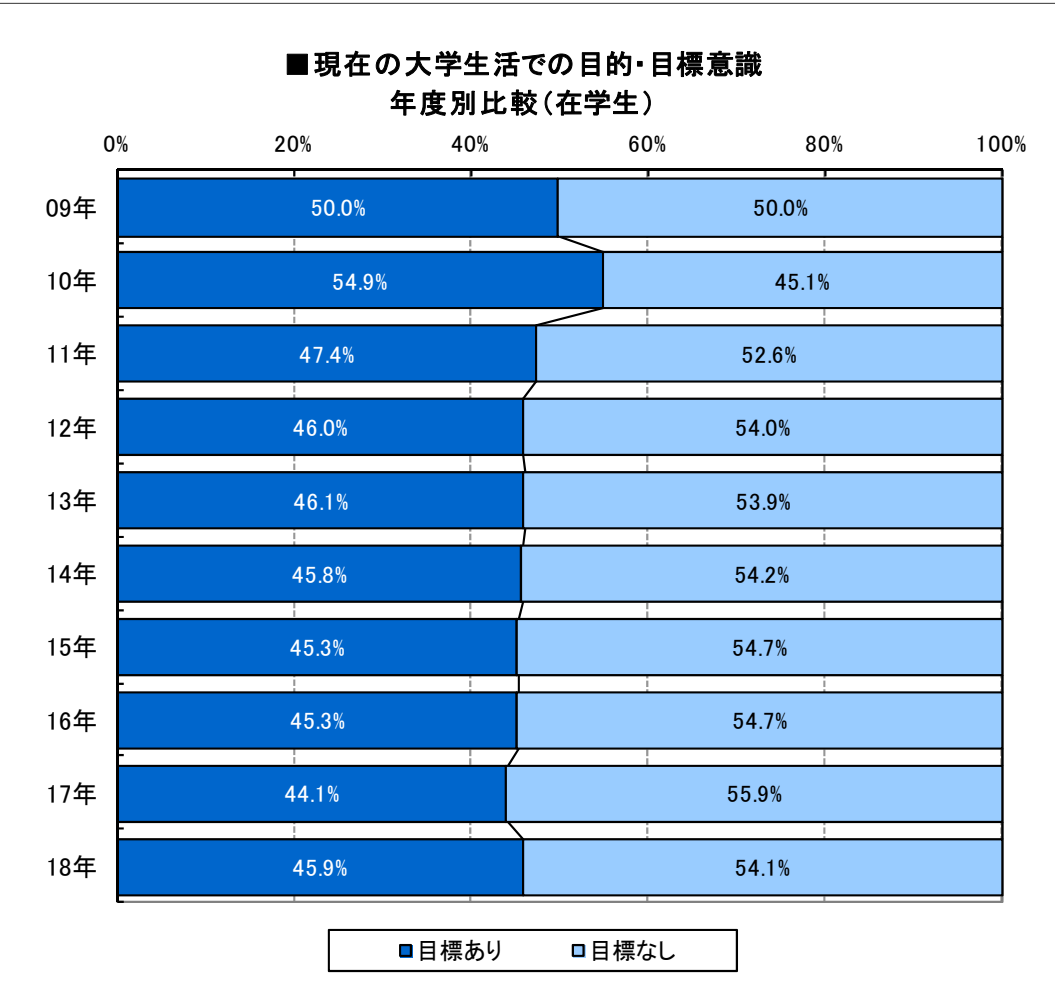
■現在の目的・目標意識

- 「大学生活を送る上での目的・目標の有無」に対しては、「目標あり」が45.9%、「目標なし」が54.1%であり、「目標なし」の方が8.2ポイント多かった。
- 年度別に比較すると、「目標あり」は前回は1.8ポイント上回っていた。そして、10年から続いていた「目標あり」の減少傾向が止まっていた。



目標あり(45.9%) < 目標なし(54.1%)

※この質問は「新入生」「在学生(卒・修直前を含む)」「卒業生」「修了生」に聞いているが、このページのグラフは年度別の比較が可能な「在学生」のみを対象として比較しており、次項のグラフは「新入生」「卒業生」「修了生」も含めて比較をしている。
また、学科別比較は「新入生」と「新入生以外の在学生」(卒業生・修了生を含まない)としている。

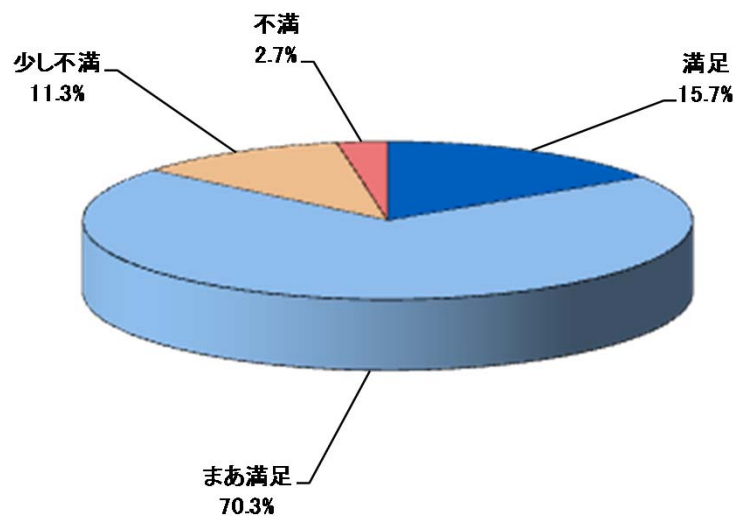


<4-1> KITの総合満足度

■KIT全体に関する満足度

- 「KIT全体に関する満足度」に関しては「満足」が15.7%、「まあ満足」が70.3%であり、合わせると86.0%が満足と回答していた。一方、不満という回答の合計は14.0%であった。
- 総合満足度は08年までは「今のKITに満足していますか?」と聞いており、09年には質問自体を削除している。そして、10年からは「KIT全体に関する満足度」として「満足」～「不満」を選ぶ聞き方になっている。
- 聞き方が統一された10年以降を見ると、満足という回答の合計は12年頃までは70%後半で横這いとなり、13年からは増加する傾向が続いていた。前回(17年)は前々回(16年)をわずかに下回ったものの、今回(18年)は前回は1.3ポイント上回って、わずかな差ではあるが過去最高の満足度となった。

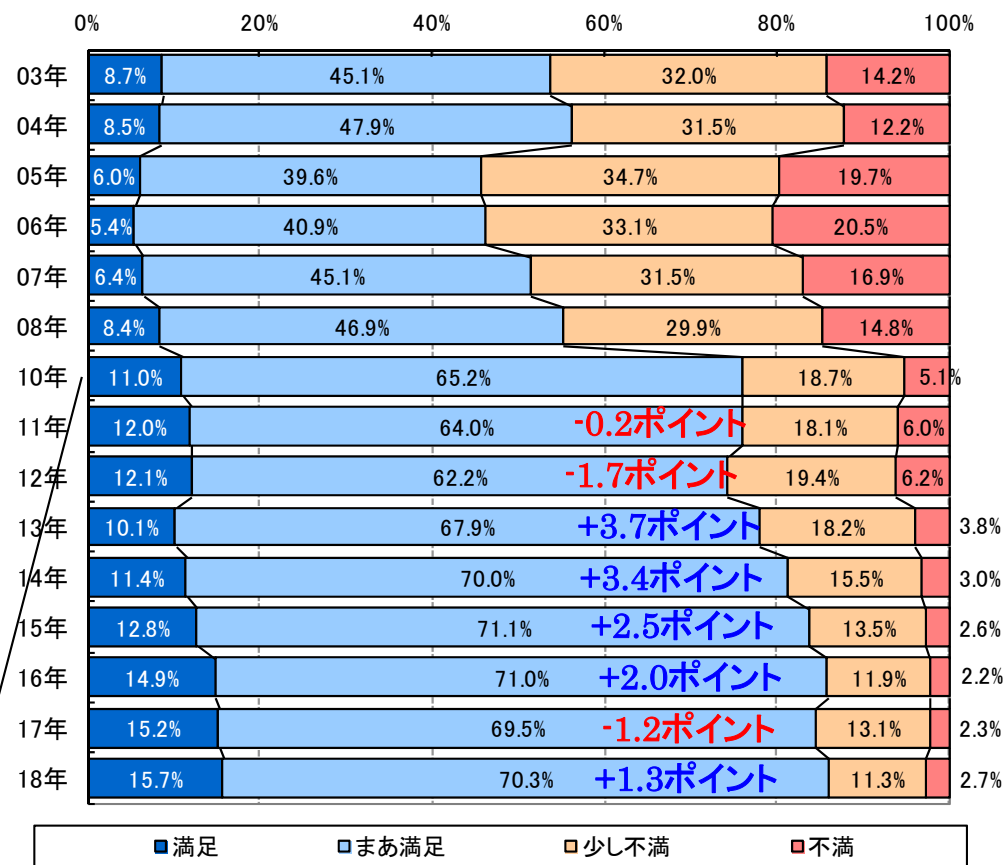
■KIT全体に関する満足度(在学生)



満足している(86.0%) > 不満を持っている(14.0%)

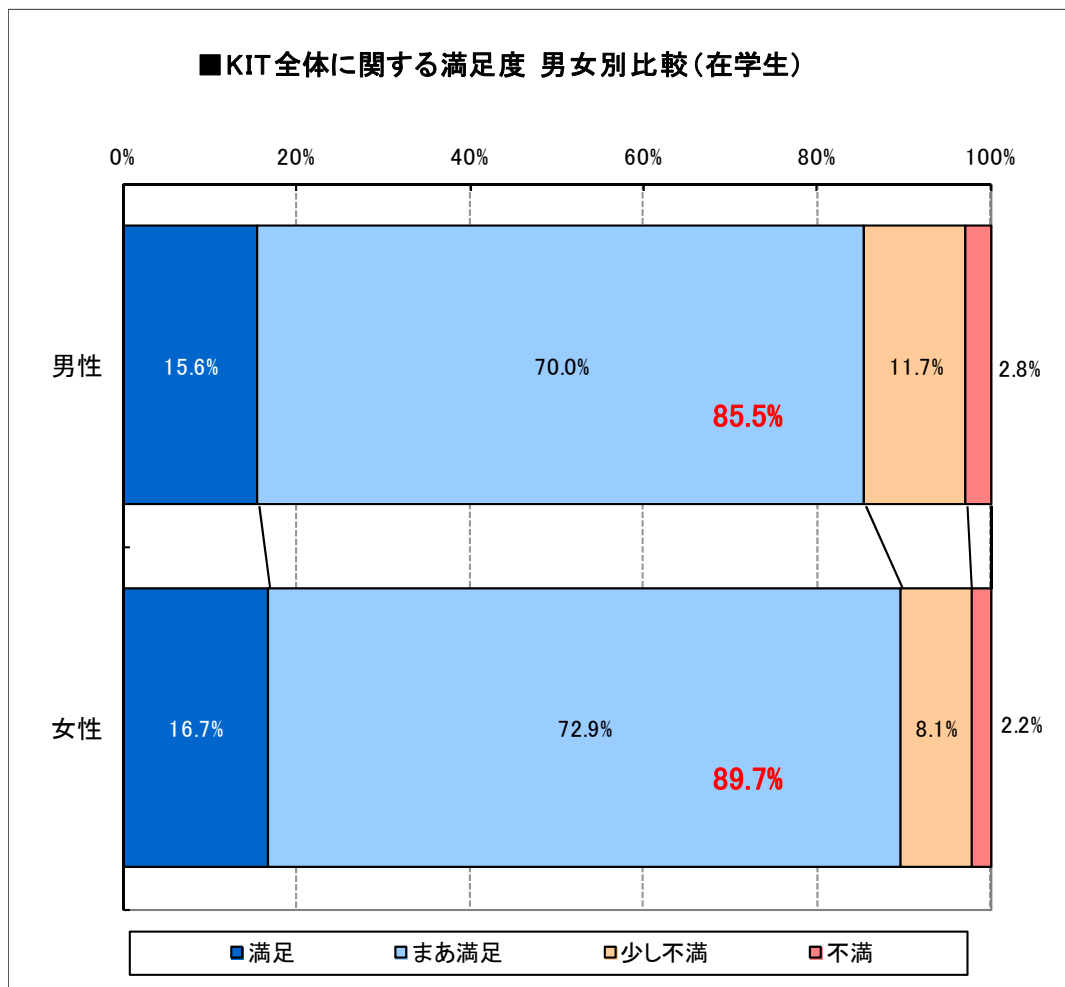
10年から聞き方が変わっている

■KIT全体に関する満足度 年度別比較(在学生)



■KIT全体に関する満足度 男女別比較

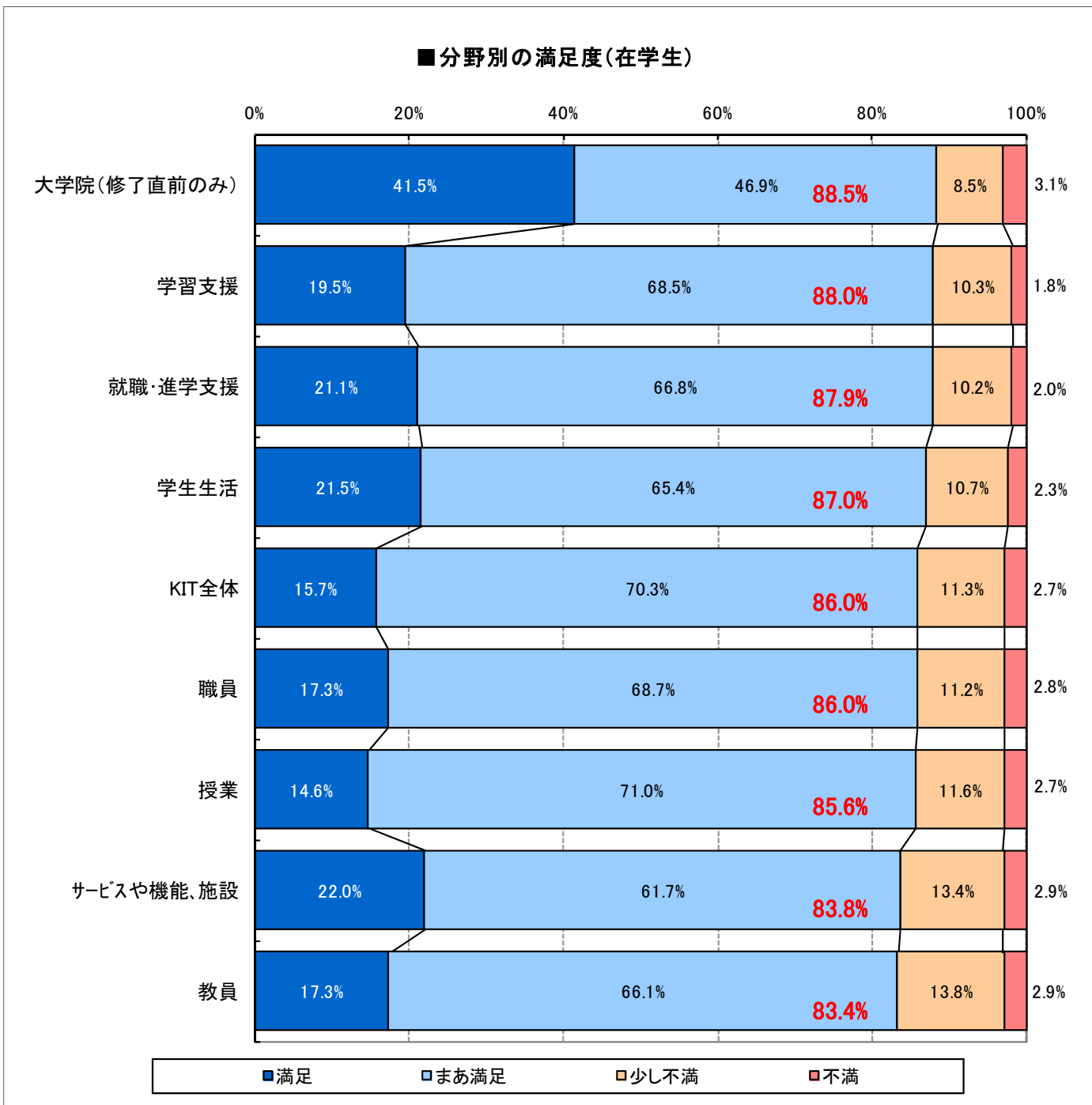
- 男女別に満足度を比較すると、満足という回答の合計は「男性」では85.5%、「女性」では89.7%であり、「女性」の方が満足度が高かった。



<4-2>分野別の満足度

■分野別満足度

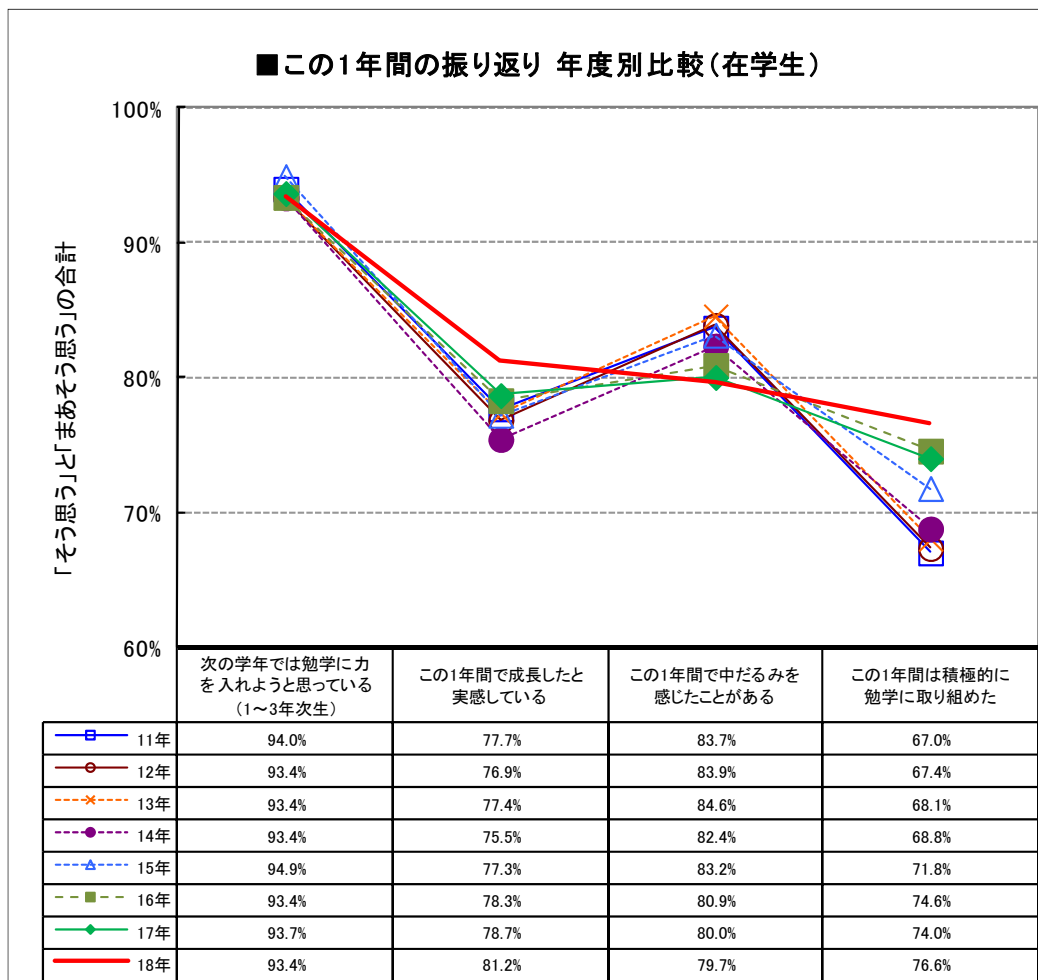
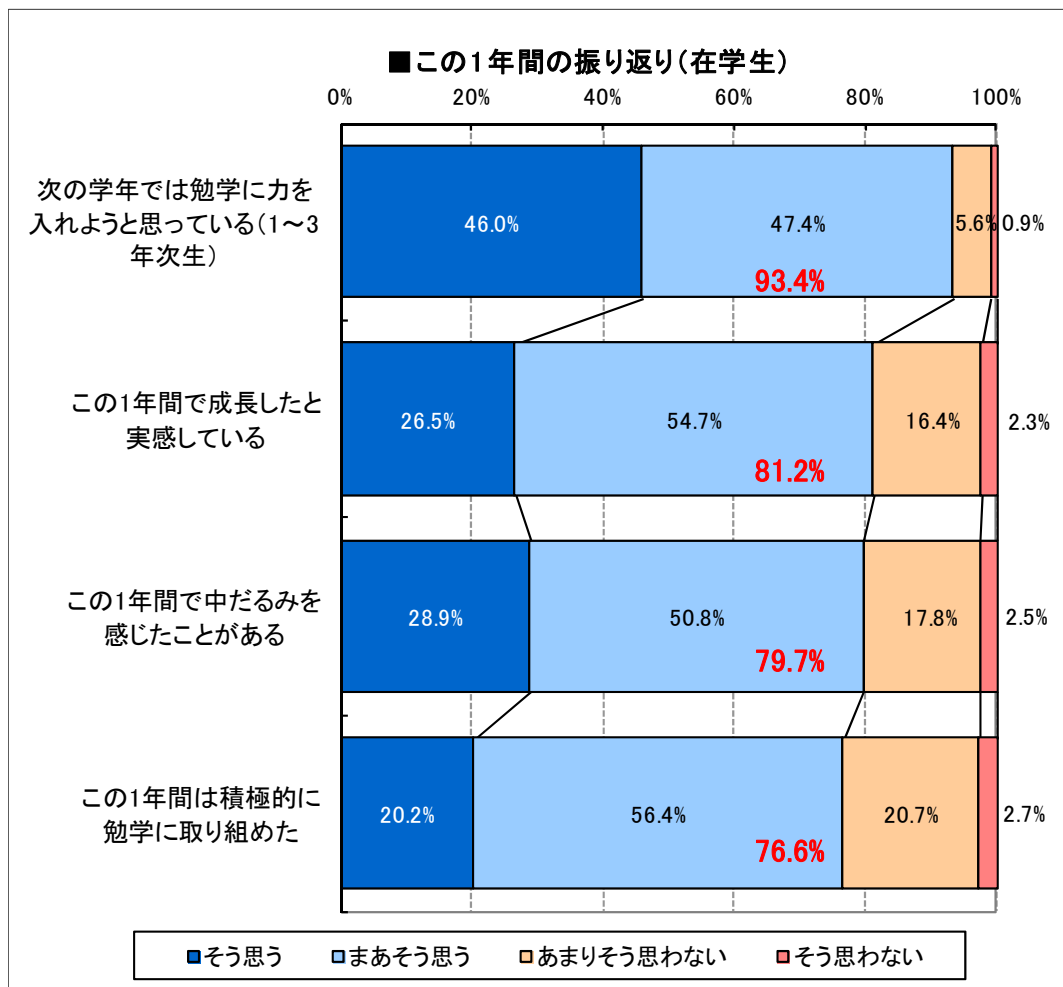
- 分野別の満足度で、最も満足度が高かったのは「大学院」の88.5%であった。「大学院」についての評価は「修了直前」にだけ聞いたものであるが、「満足」が41.5%と非常に多く、強く満足していることがわかった。
- 上記に次いで、「学習支援」が88.0%、「就職・進学支援」が87.9%、「学生生活」が87.0%と続いていた。
- 一方、最も満足度が低かったのは「教員」であったが、満足している割合は83.4%であり、決して低いものではなかった。そして、「サービスや機能、施設」が83.8%であったが、「満足」が22.0%であり、強く満足している学生が多いことがわかった。



<4-3>この1年間の振り返り

■この1年間の振り返り 年度別比較

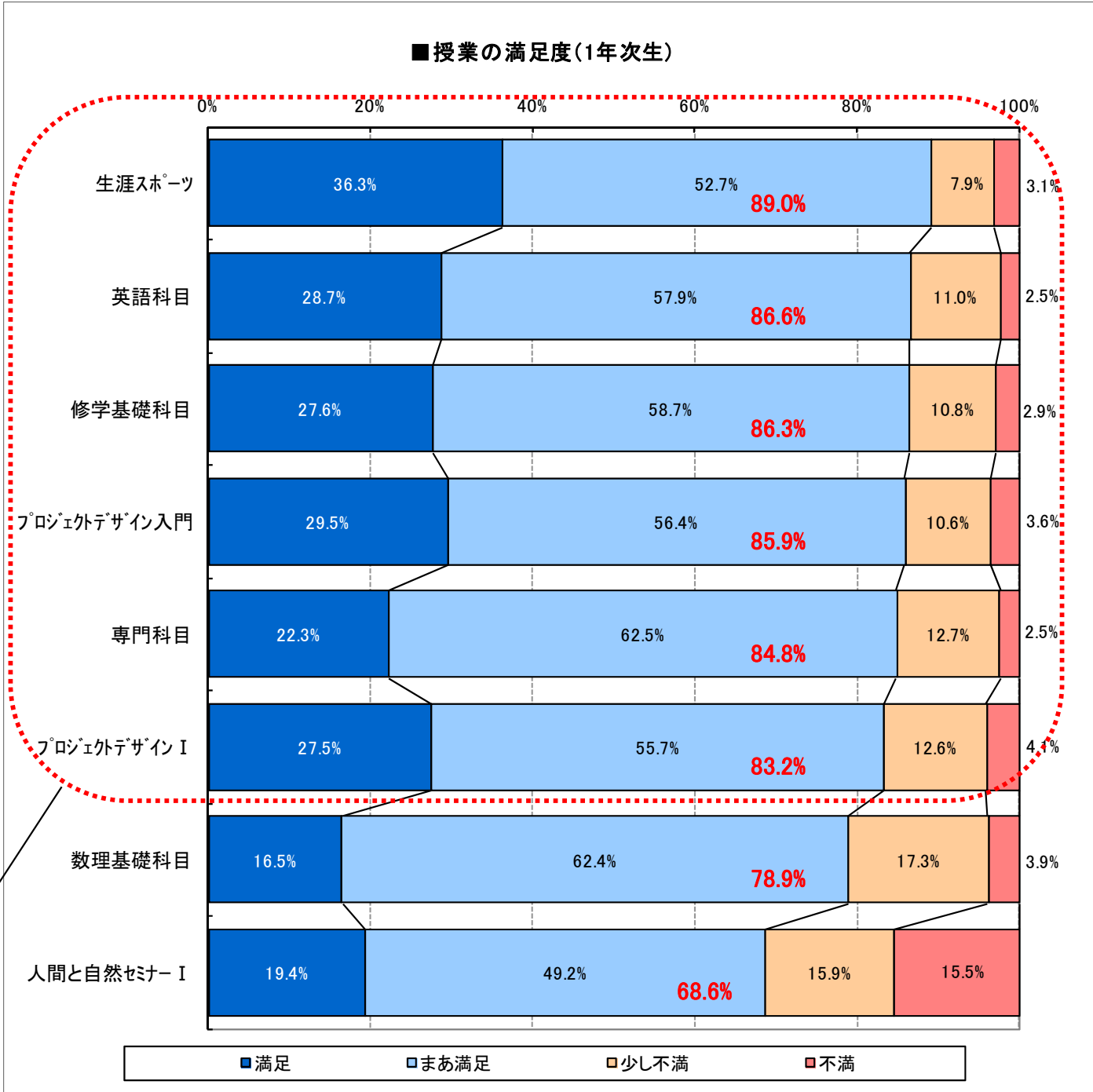
- 「この1年間の振り返り」で肯定的な意見が最も多かったのは「次の学年では勉学に力を入れようと思っている」の93.4%であり、「そう思う」が46.0%と多く、次の学年にかける思いが感じられた。
- 上記に次いで、「この1年間で成長したと実感している」が81.2%と積極性が感じられたが、「この1年間で中だるみを感じたことがある」に対しては79.7%が肯定的であり、8割が中だるみを感じたと答えていた。
- 年度別比較を見ると、「この1年間で成長したと実感している」と「この1年間は積極的に勉学に取り組めた」の2項目は前回は上回っていた。そして、「次の学年では勉学に力を入れようと思っている」と「この1年間で中だるみを感じたことがある」はわずかな差ではあるが、前回は下回った。
- 前回の17年までは変化が非常に小さかったが、今回はやや大きな変化となっていた。そして、「この1年間は積極的に勉学に取り組めた」は15年から徐々に良い方向に進んでおり、「この1年間で中だるみを感じたことがある」では徐々に肯定的な意見が減少する傾向が見られた。



<5-1> 授業の満足度

■ 授業の満足度 1年次生

- 「1年次生」の授業満足度を見たところ、「数理基礎科目」と「人間と自然セミナー I」の2科目を除き、満足度が8割を超えていた。
- 満足度が最も高かったのは「生涯スポーツ」の89.0%であり、次いで、「英語科目」が86.6%、「修学基礎科目」が86.3%となっていた。
- 一方、満足度が最も低かったのは「人間と自然セミナー I」の68.6%であった。次に低かったのは「数理基礎科目」であったが、満足度は78.9%であり、決して低いものではなかった。

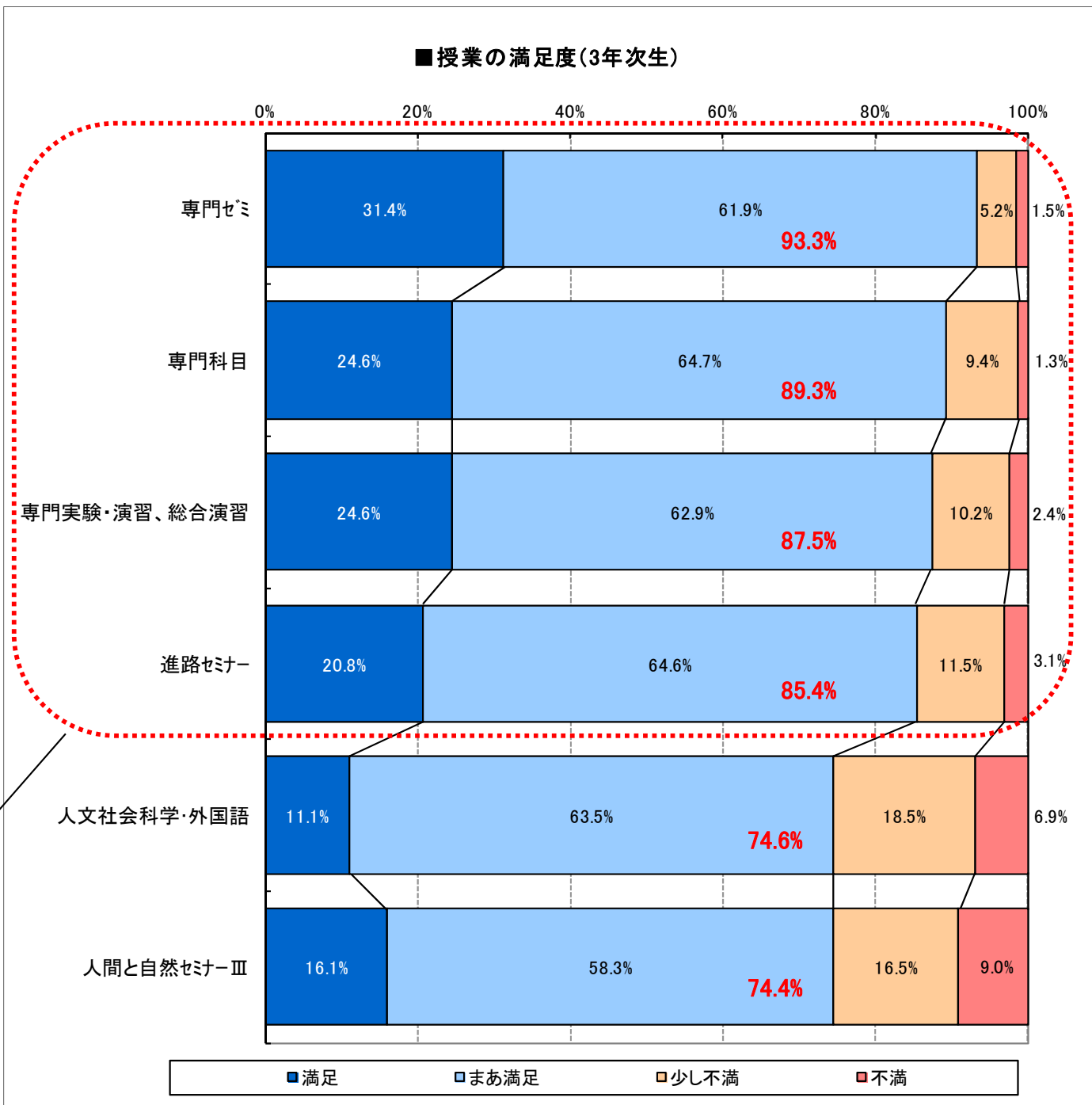


満足している層が8割以上



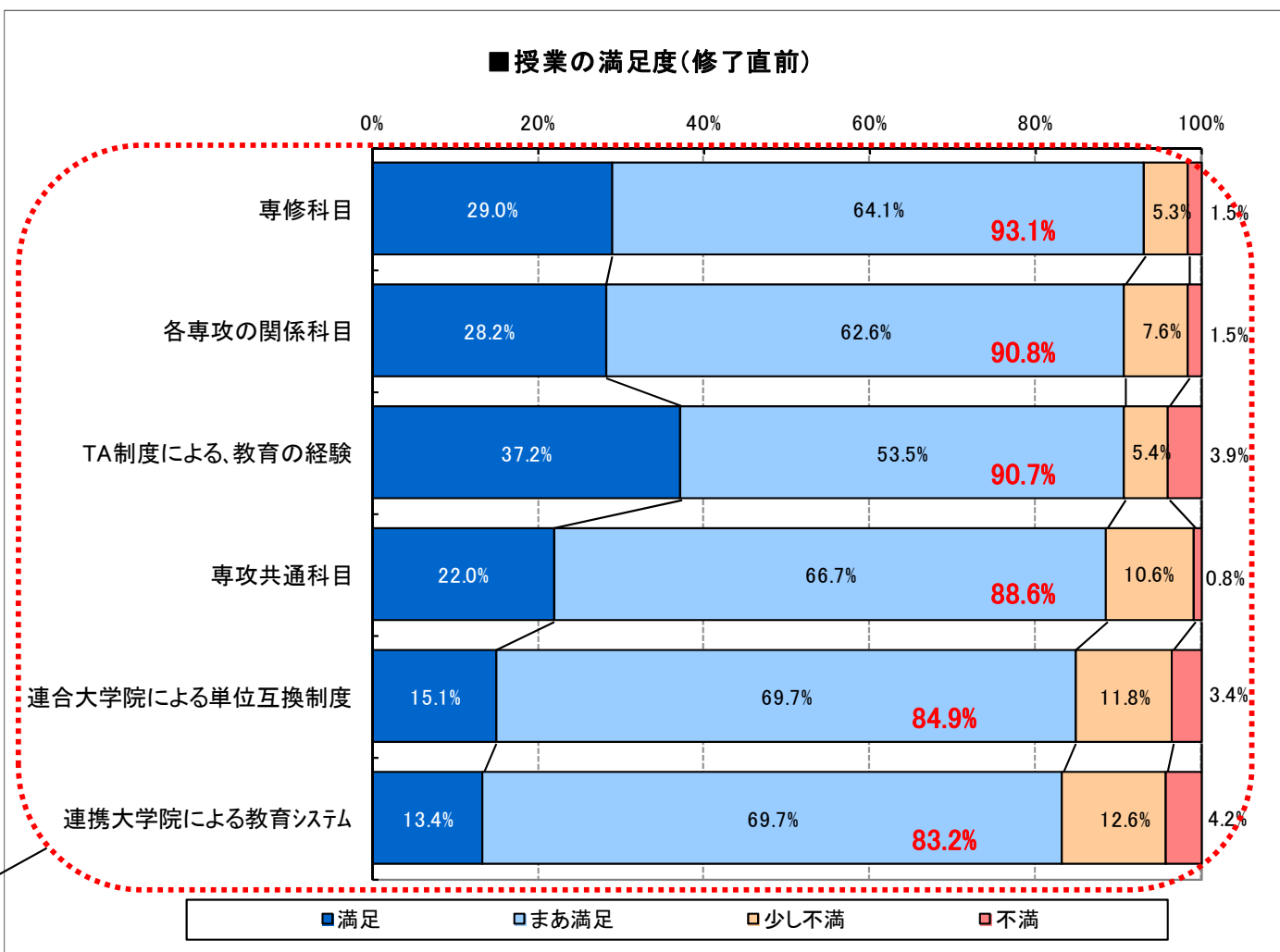
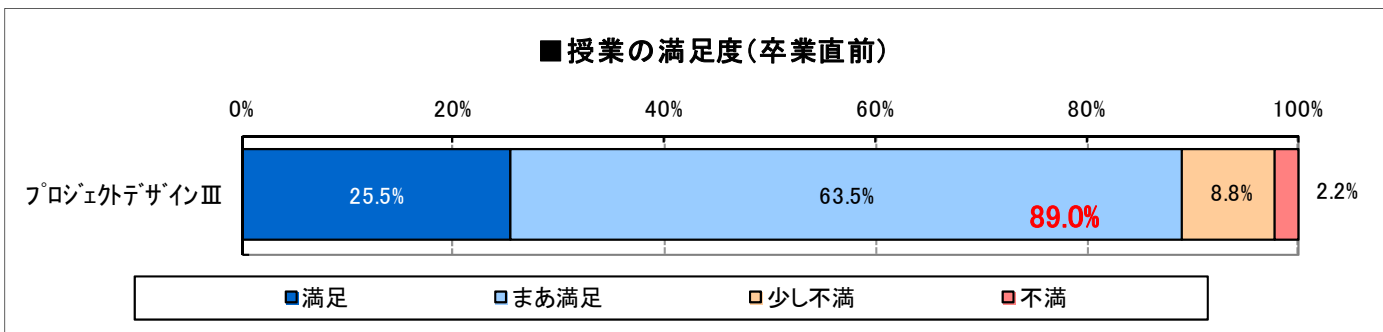
■授業の満足度 3年次生

- 「3年次生」の授業満足度では「専門ゼミ」の満足度が93.3%で最も高かった。次いで、「専門科目」が89.3%、「専門実験・演習、総合演習」が87.5%、「進路セミナー」が85.4%であり、ここまでの4科目では満足という回答が8割を超えていた。
- 上記以外では「人文社会科学・外国語」が74.6%、「人間と自然セミナーⅢ」が74.4%であり、ほぼ同じ満足度であった。



■授業の満足度 卒業・修了直前

- 「卒業直前」には「プロジェクトデザインⅢ」だけを聞いているが、満足度は89.0%であった。
- 「修了直前」の満足度は全科目で8割を超えており、最も高かったのは「専修科目」の93.1%であった。
- 一方、最も満足度が低かったのは「連携大学院による教育システム」の83.2%であったが、この満足度も十分に高いと言える。



<5-2> 授業の仕組み評価

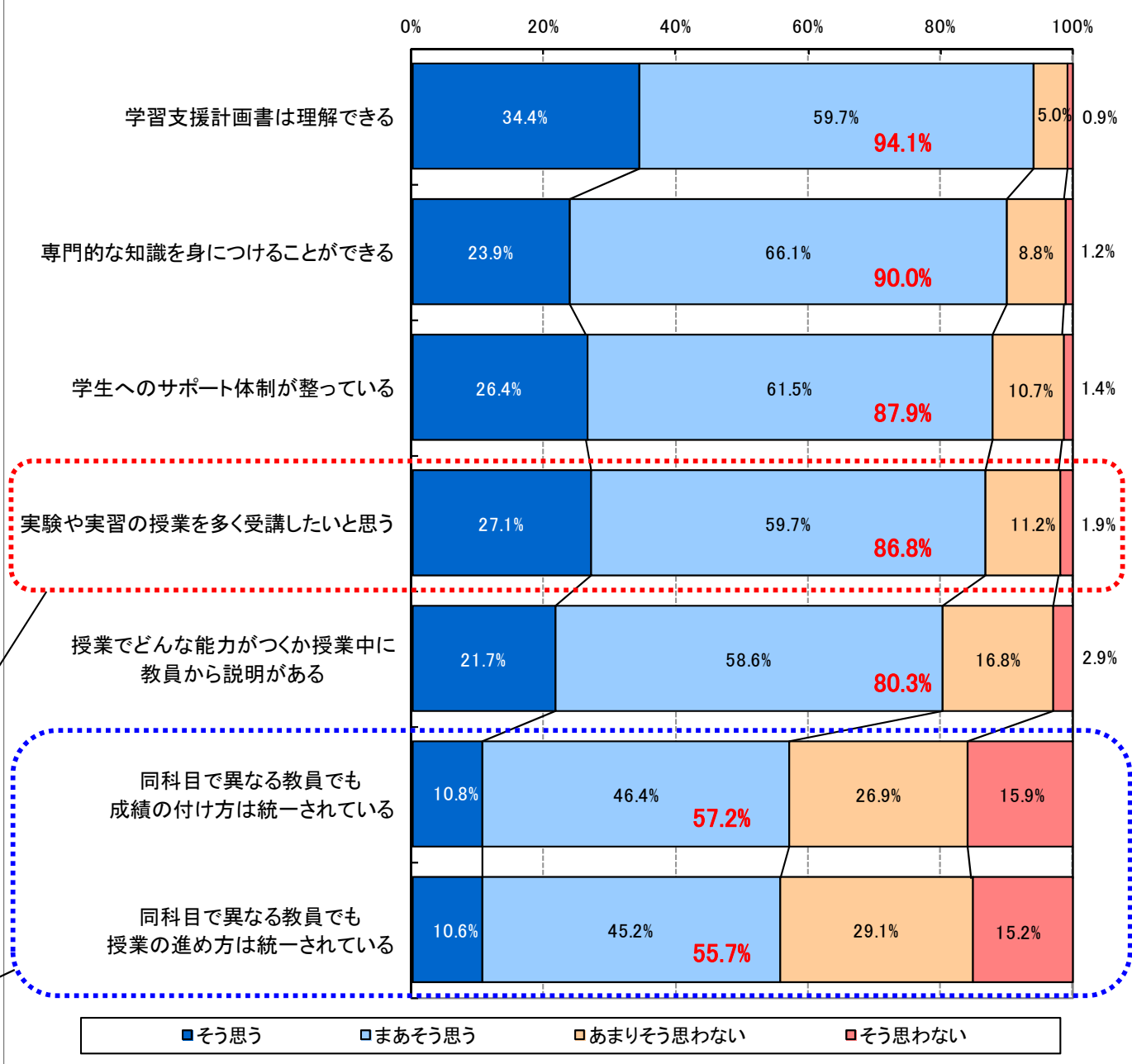
■ 授業の仕組み評価

- 授業の仕組みの評価には、現状の評価を聞く質問と要望を聞く質問が混在している。
- 現状の評価に関して肯定的な意見が最も多かったのは「学習支援計画書は理解できる」の94.1%であった。次いで、「専門的な知識を身につけることができる」が90.0%、「学生へのサポート体制が整っている」が87.9%であり、これらに関してはほぼ9割が肯定的な意見であり、高い評価であった。
- 一方、最も評価が低かったのは「同科目で異なる教員でも授業の進め方は統一されている」の55.7%であり、次いで、「同科目で異なる教員でも成績の付け方は統一されている」が57.2%となっており、これらを見ると同科目で異なる教員の対応に大きな不満を持っている様子が見えられた。
- 要望を聞く質問として、「実験や実習の授業を多く受講したいと思うか？」と聞いているが、これに対しては86.8%が肯定的な意見であり、多くの要望があることがわかった。

要望を聞く質問

「同科目で異なる教員」の対応に大きな不満が見られる

■ 授業の仕組み評価(在学生)

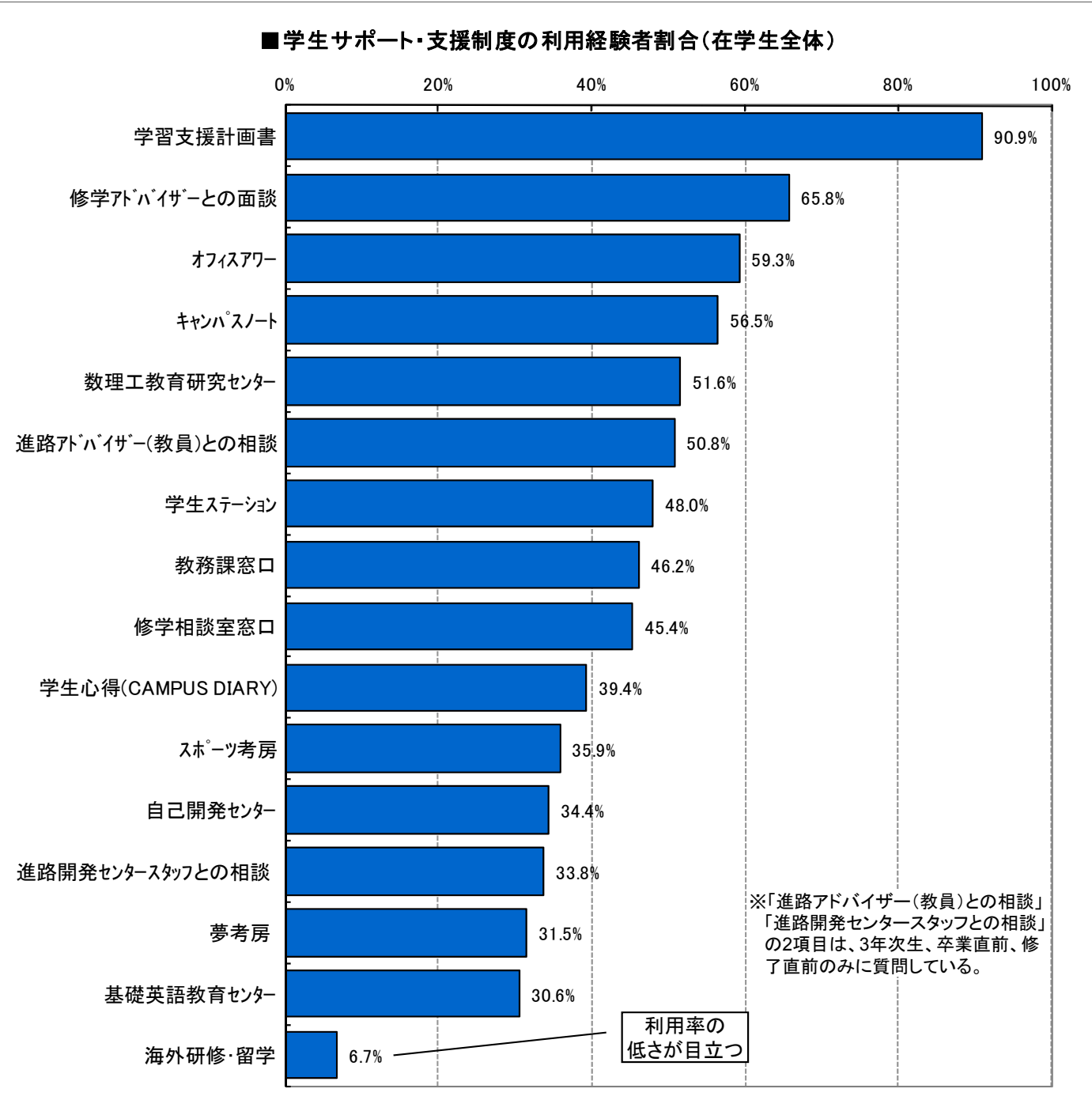


■ そう思う □ まあそう思う □ あまりそう思わない □ そう思わない

<5-3> 学生サポート・支援制度の利用状況

■ 学生サポート・支援制度の利用経験者割合

- 学生サポート・支援制度の利用経験者を見たところ、最も多かったのは、履修の際に全員が使うと思われる「学習支援計画書」の90.9%であった。
- 上記に続いて、「修学アドバイザーとの面談」が65.8%、「オフィスアワー」が59.3%、「キャンパスノート」が56.5%と続いていた。
- 一方、利用経験者が最も少なかったのは「海外研修・留学」の6.7%であり、利用率の低さが目立っていた。

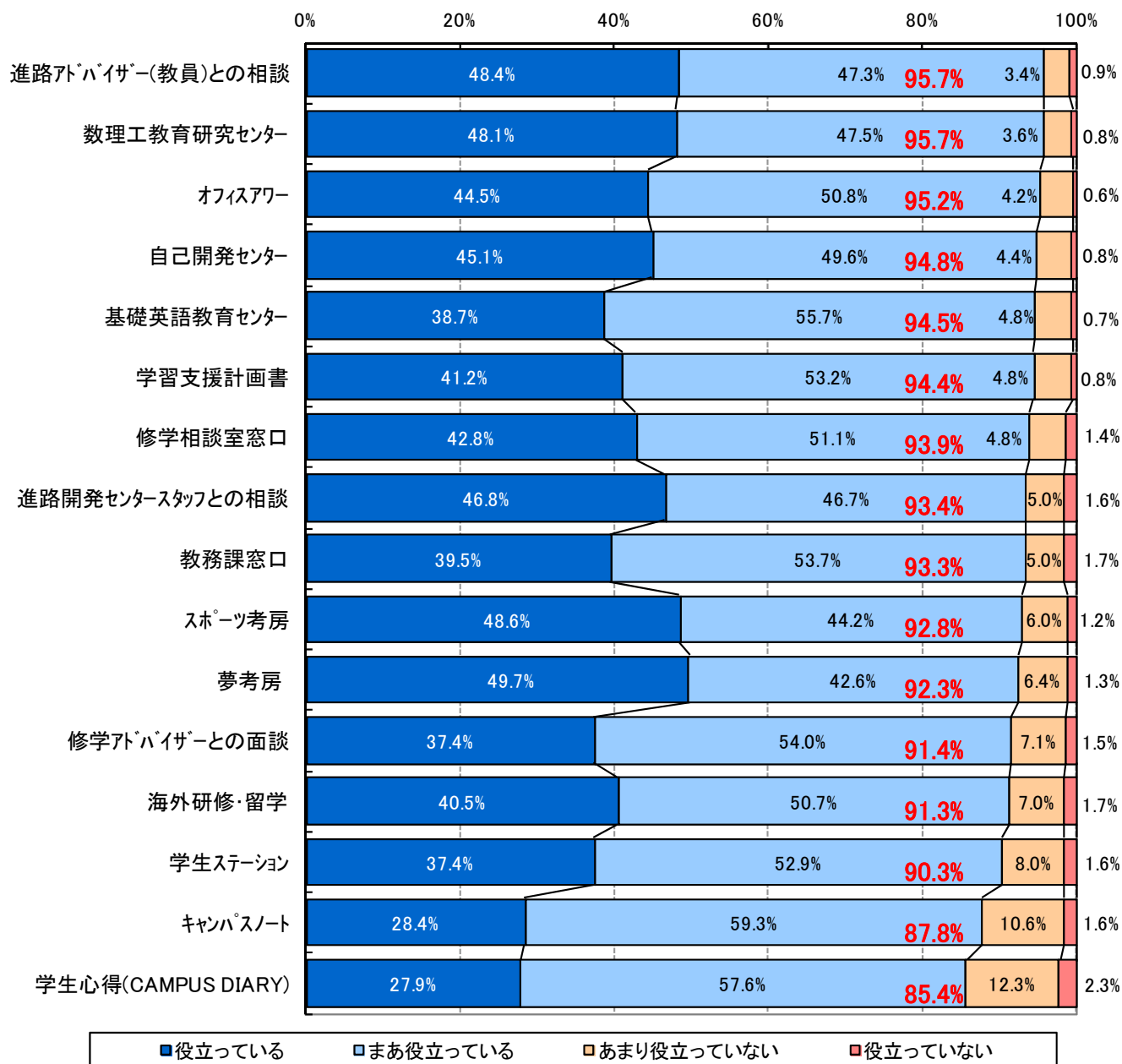


<5-4> 学生サポート・支援制度の評価

■ 学生サポート・支援制度の評価

- 前項までの「学生サポート・支援制度」の利用者に対して、機能が役立っているかを聞いた。
- 肯定的な意見の合計を見ると、2項目を除いて9割以上が役立っているという意見であり、評価は非常に高いと言える。
- 最も評価が高かったのは「進路アドバイザーとの相談」と「数理工教育研究センター」の95.7%であり、次いで、「オフィスアワー」が95.2%、「自己開発センター」が94.8%と続いていた。
- 「役立っている」だけを見ると、「夢考房」が49.7%、「スポーツ考房」が48.6%となっており、高い評価の多さが目立っていた。
- 一方、最も評価が低かったのは「学生心得」の85.4%であり、「キャンパスノート」の87.8%とともに、9割を下回っていたが、決して低い評価ではなかった。

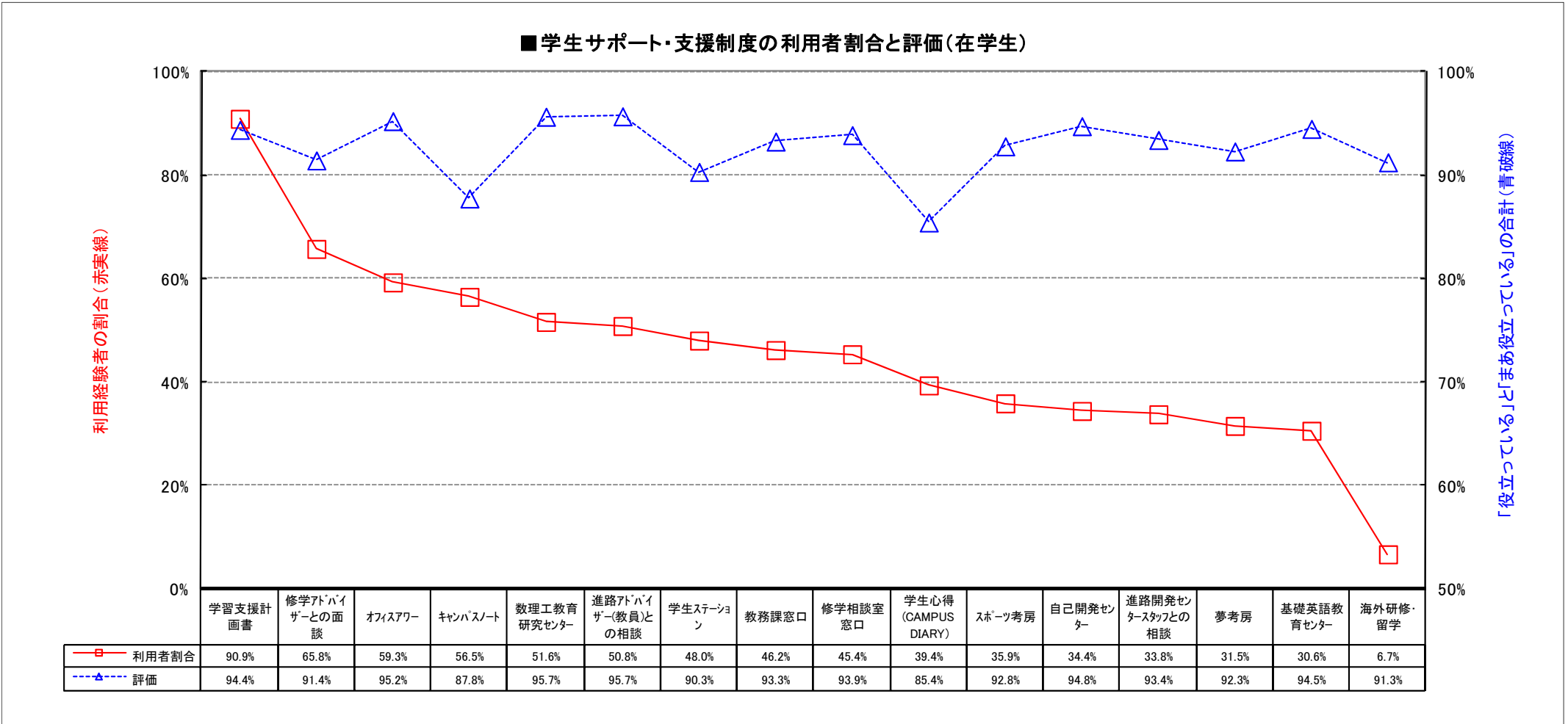
■ 学生サポート・支援制度の評価(在学生)



<5-5> 学生サポート・支援制度の利用者割合と評価

■ 学生サポート・支援制度の利用者割合と評価の比較

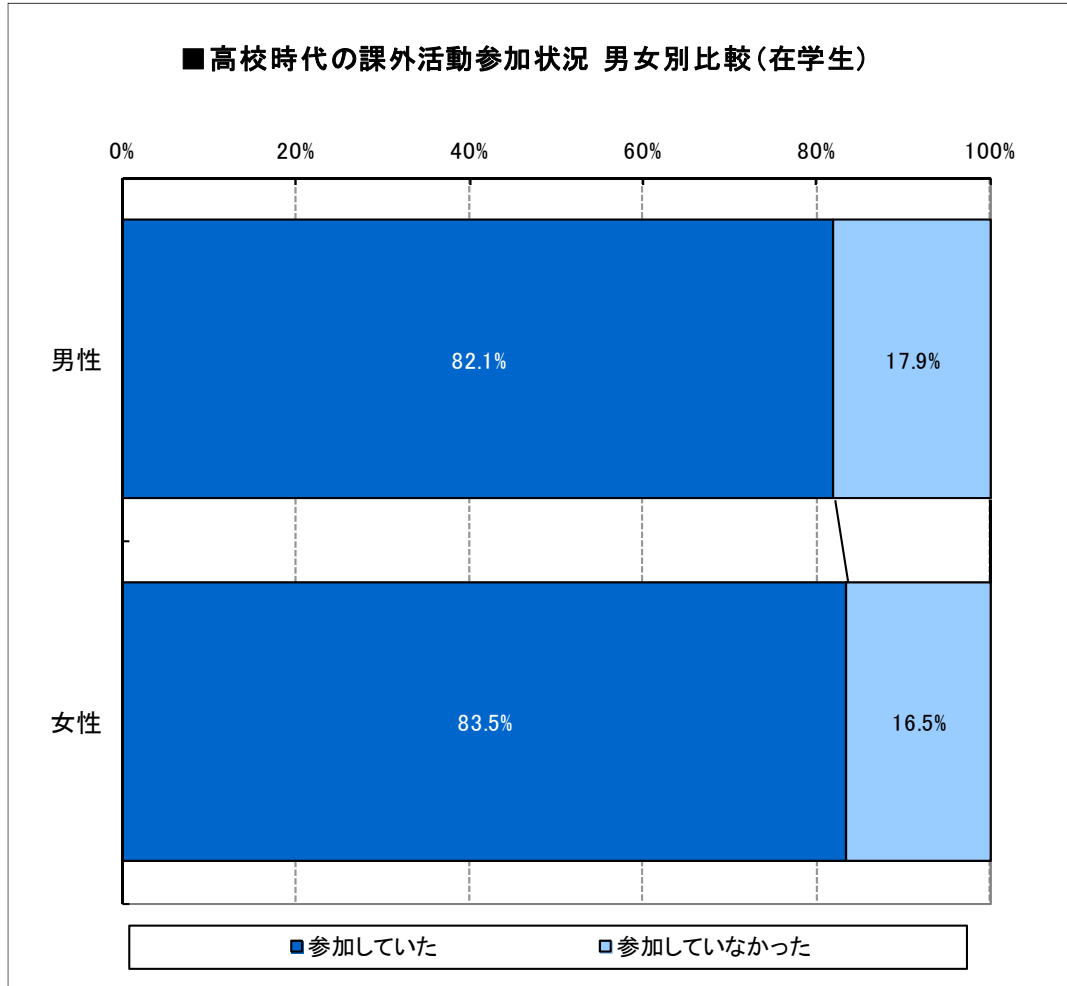
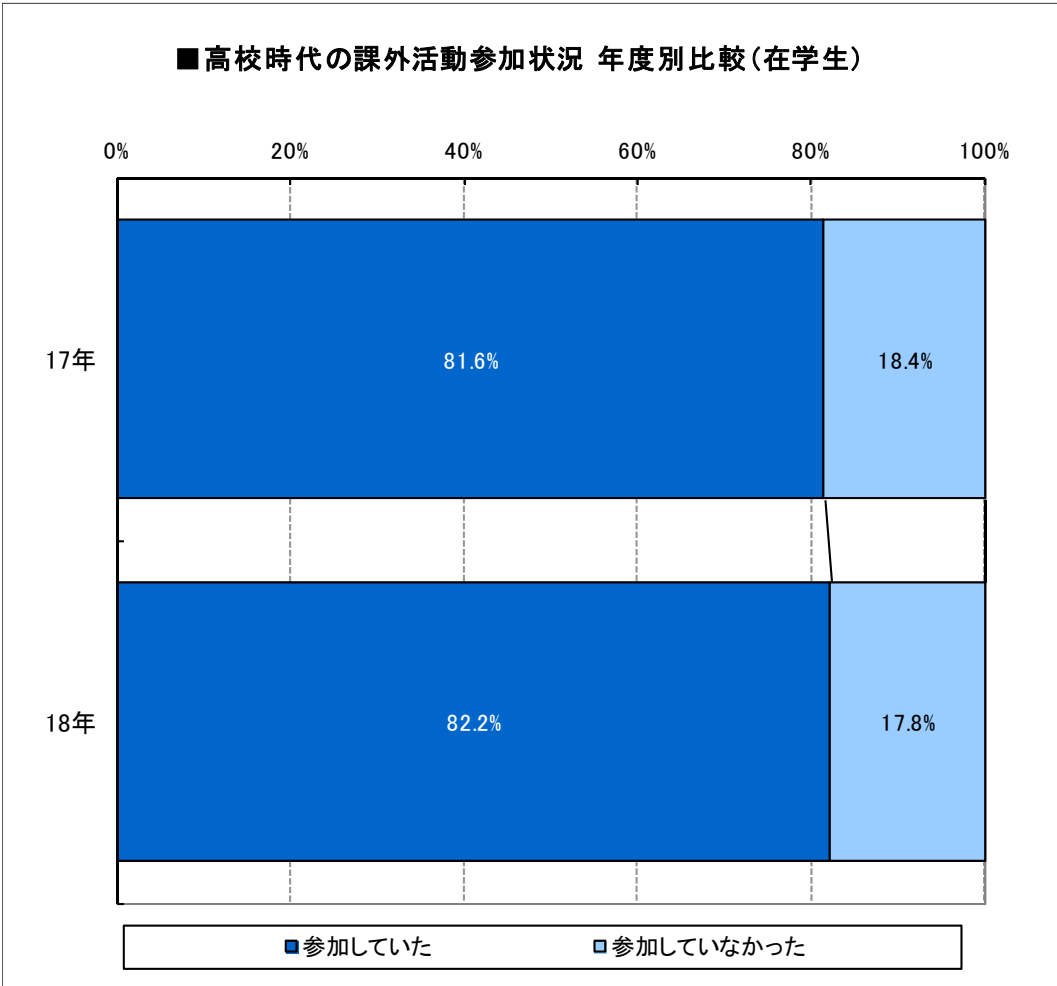
- 学生サポート・支援制度の利用経験者の割合と内容評価を1つのグラフにまとめた。赤い実線が利用経験者の割合で、グラフの左側の数値軸に対応しており、青い破線は「役立っている」と「まあ役立っている」の合計で、右の数値軸に対応している。
- 利用経験者の割合は、「学習支援計画書」の90.9%から、「海外研修・留学」の6.7%まで非常に大きな差が見られたが、各々の評価に関してはほとんどの項目で9割以上が肯定的な評価であり、利用者の多少に関わらず、各々の評価は非常に高かった。



<6-1> 高校時代の課外活動への参加状況

■ 高校時代の課外活動参加状況、男女別比較

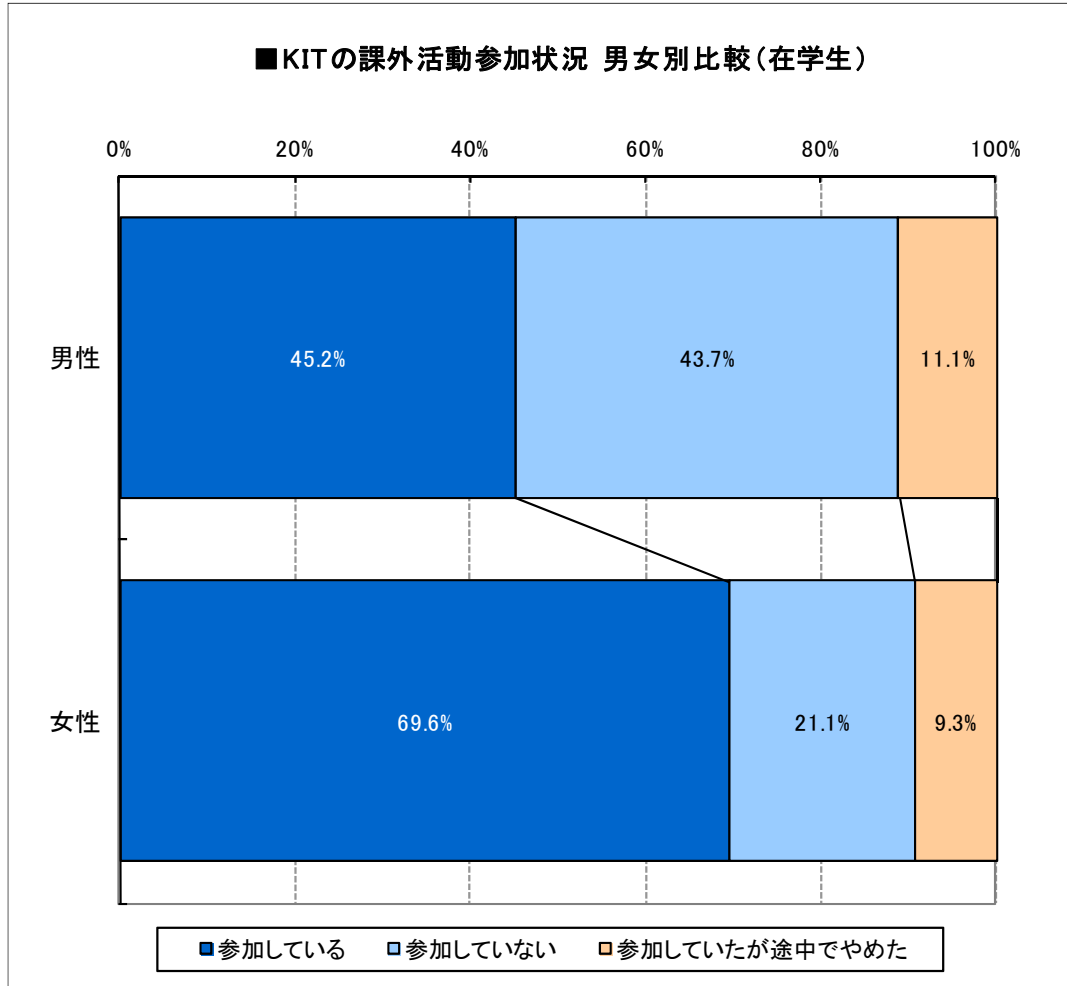
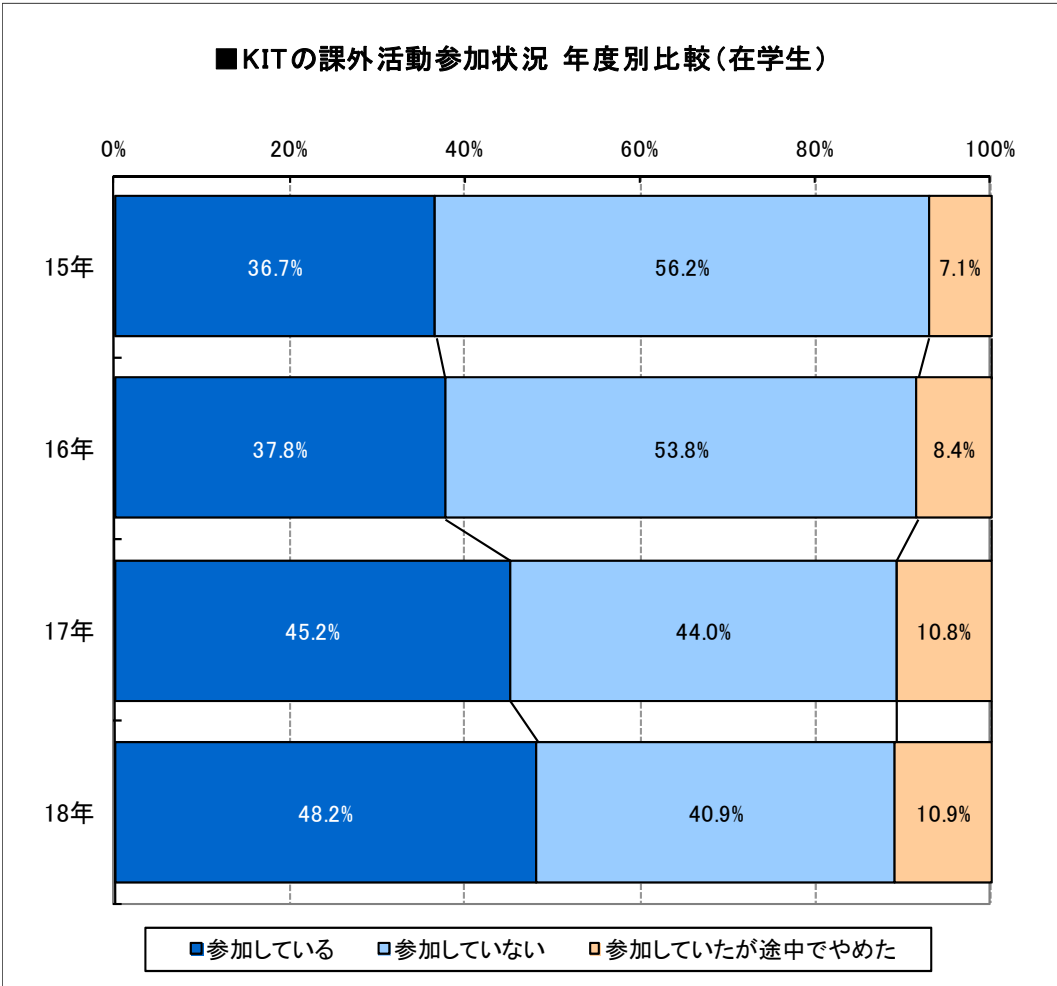
- 高校時代の課外活動の参加状況は、「参加していた」が82.2%で前回は0.6ポイント上回っていた。
- 男女別に「参加していた」の割合を比較したところ、「男性」では82.1%、「女性」では83.5%であり、「女性」の方が1.4ポイント高かった。



<6-2> 課外活動への参加状況

■ 課外活動への参加状況、男女別比較

- 現在の課外活動への参加状況を見ると、「参加している」が48.2%、「参加していない」が40.9%、「参加していたが途中でやめた」が10.9%であり、課外活動の参加率は前回は3.0ポイント上回って過去最高となった。
- 男女別に比較すると、「参加している」は「男性」が45.2%、「女性」が69.6%であり、差は24.4ポイントと非常に大きかった。しかし、「参加していたが途中でやめた」は男女ともに1割程度を占めており、差は少なかった。

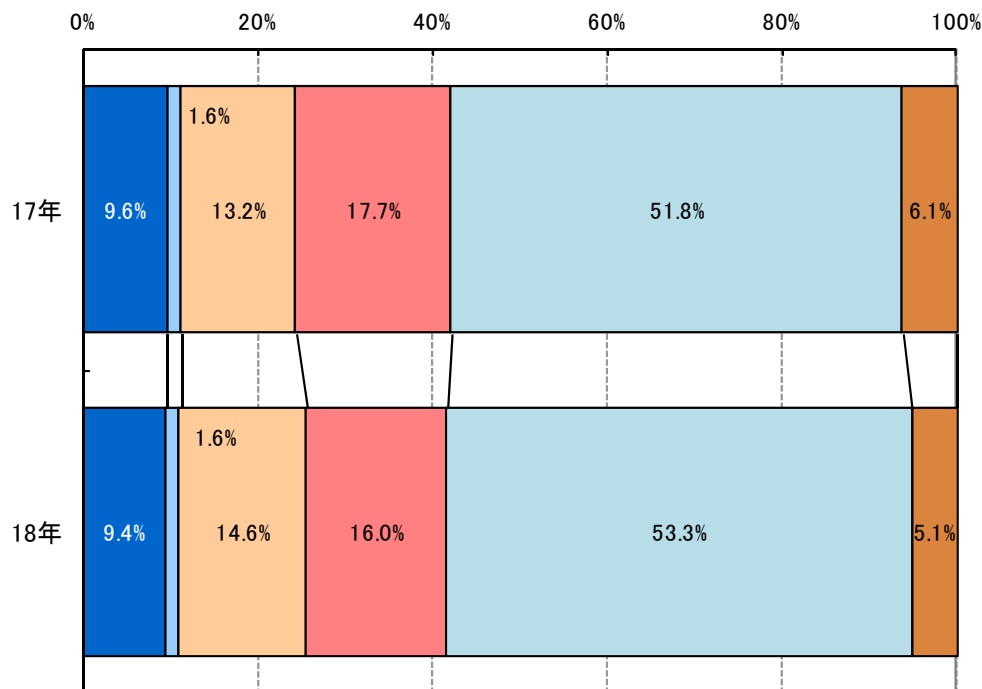


<6-3> 課外活動の内容

■ 課外活動の内容、男女別比較

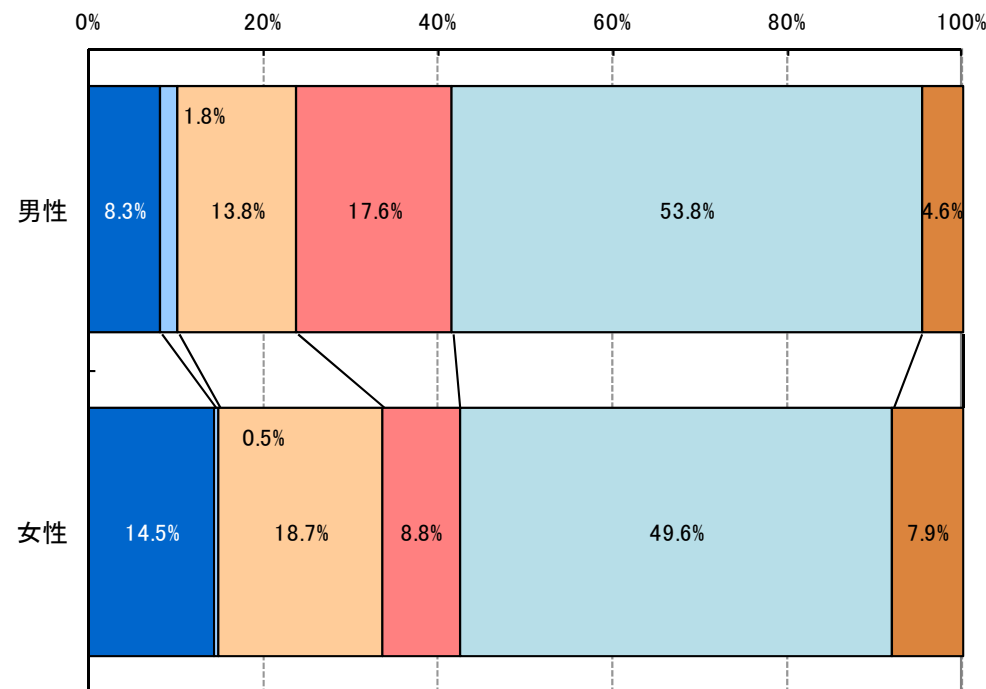
- 参加している課外活動の内容で最も多かったのは「学友会関連(部活・サークル・委員会)」の53.3%であり、次いで「夢考房関連」が16.0%、「産学・地域連携教育研究関連」が14.6%と続いていた。
- 前回と比較してもあまり大きな差は見られず、「学友会関連(部活・サークル・委員会)」がわずかに増加し、「夢考房関連」がわずかに減少していた。
- 男女別に比較すると、「男性」は「夢考房関連」の多さが目立っており、「学友会関連(部活・サークル・委員会)」もやや多めであった。一方、「女性」は「学科・課程・研究室関連」の多さが目立っており、「産学・地域連携教育研究関連」と「学生スタッフ関連(TA、SAを含む)」もやや多かった。

■ 参加している課外活動の内容 年度別比較(参加者のみ)



■ 学科・課程・研究室関連 ■ 教育支援センター関連
■ 産学・地域連携教育研究関連 ■ 夢考房関連
■ 学友会関連(部活・サークル・委員会) ■ 学生スタッフ関連(TA、SAを含む)

■ 参加している課外活動の内容 男女別比較(参加者のみ)

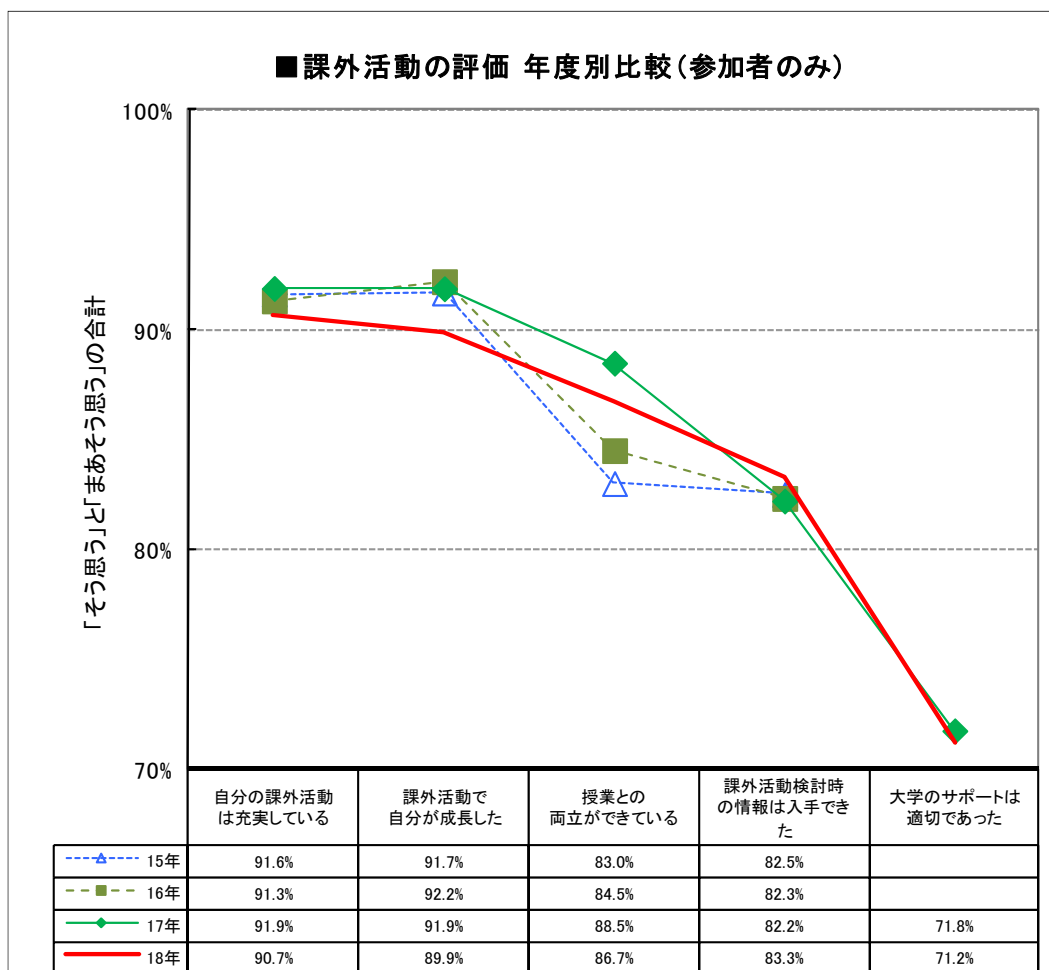
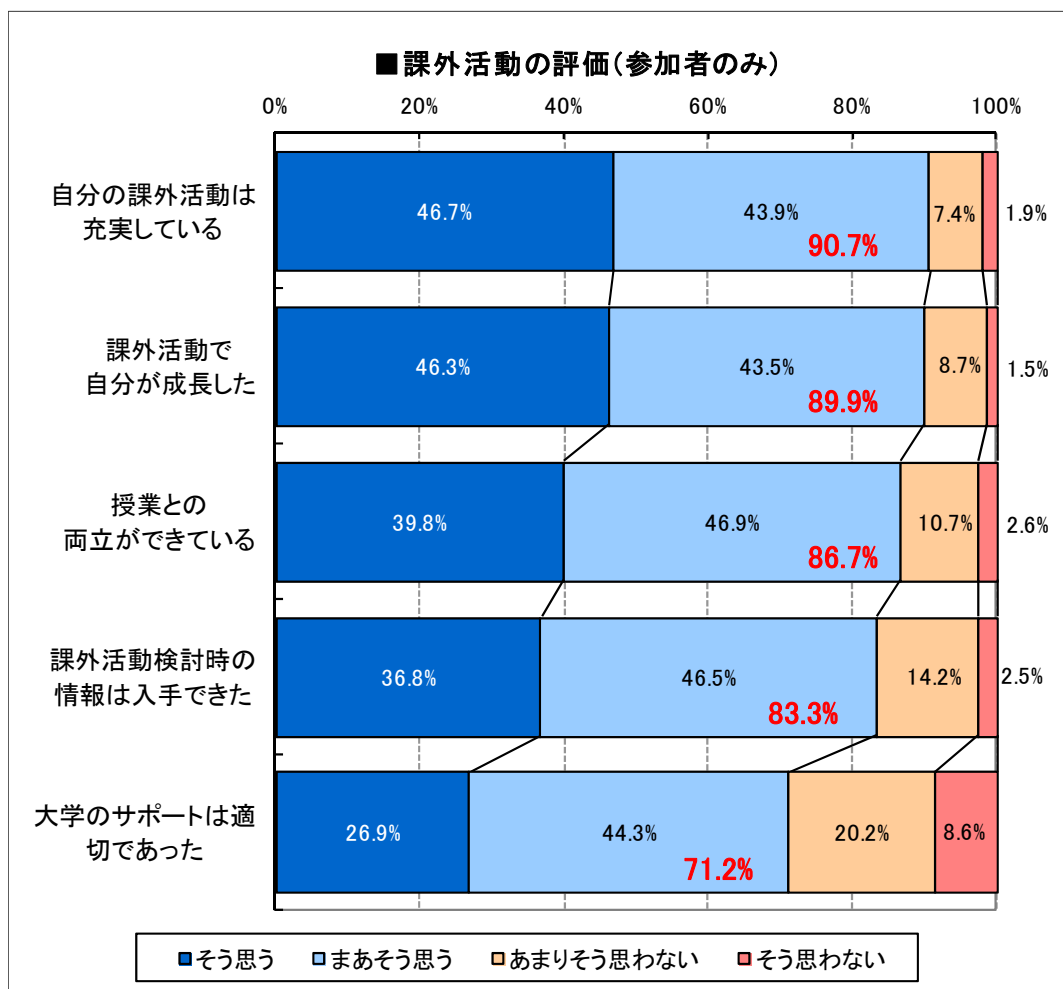


■ 学科・課程・研究室関連 ■ 教育支援センター関連
■ 産学・地域連携教育研究関連 ■ 夢考房関連
■ 学友会関連(部活・サークル・委員会) ■ 学生スタッフ関連(TA、SAを含む)

<6-4> 課外活動の評価

■ 課外活動の評価 年度別比較

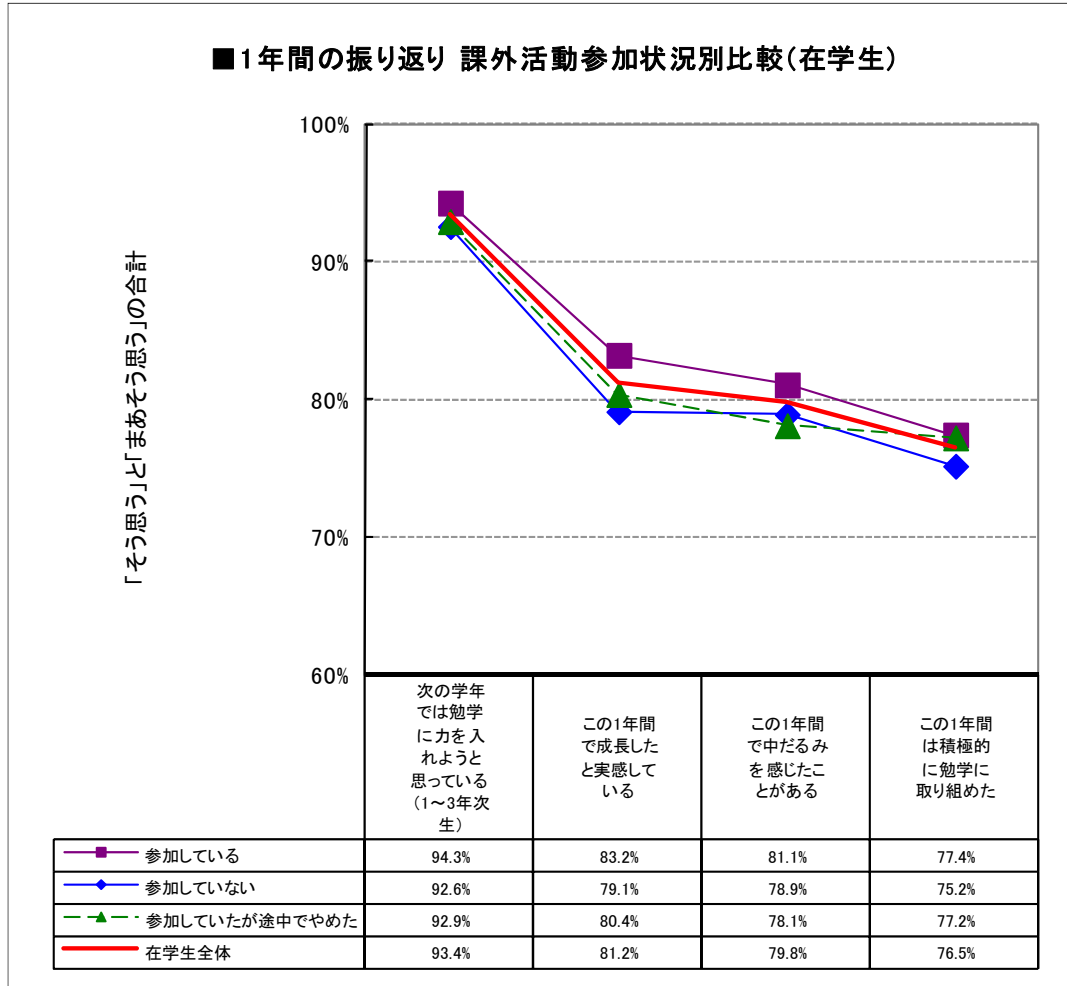
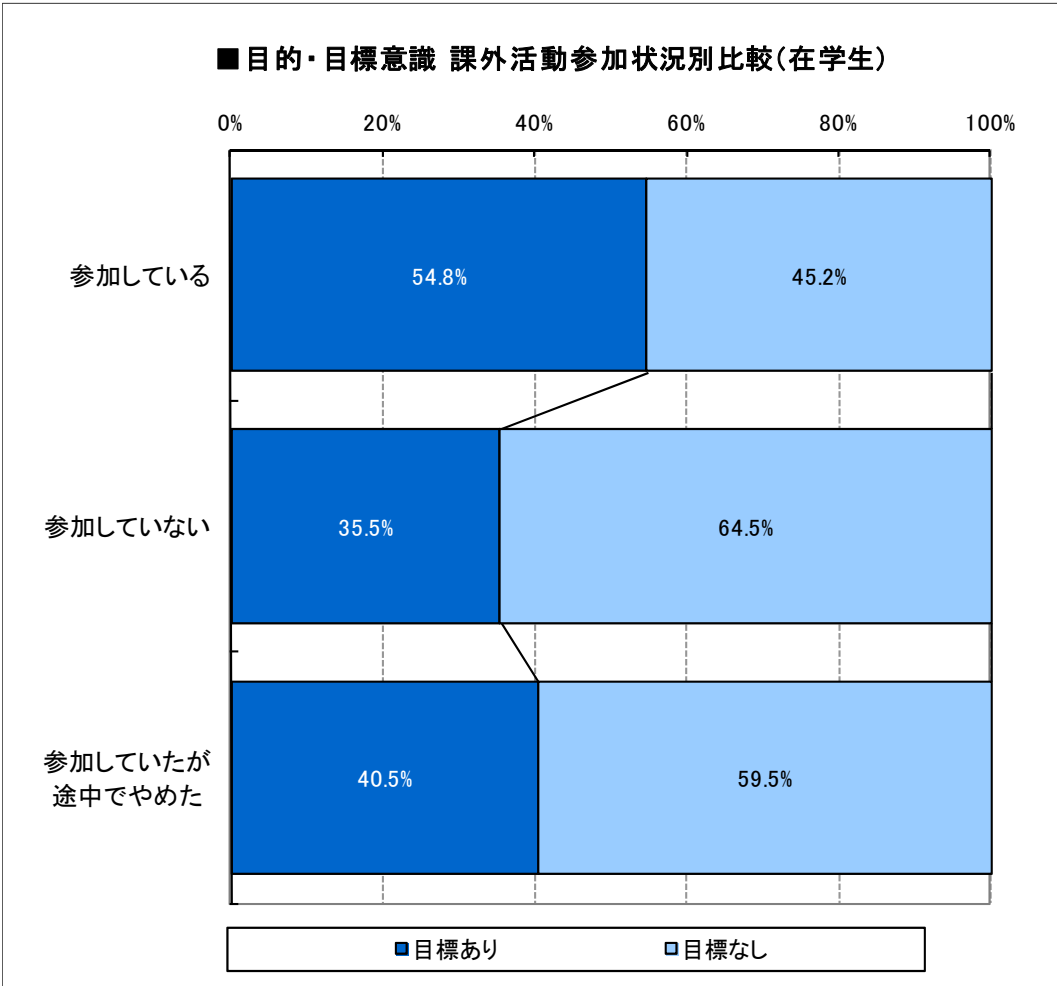
- 課外活動の参加者に活動内容の評価を聞いたところ、「自分の課外活動は充実している」と「課外活動で自分が成長した」では、約9割が肯定的な意見であり、課外活動が非常に充実している様子が見えられた。
- 上記に次いで、「授業との両立ができている」では86.7%、「課外活動検討時の情報は入手できた」では83.3%、「大学のサポートは適切であった」では71.2%が肯定的な意見であり、課外活動の周辺環境にも大きな問題はなさそうであった。
- 活動内容の評価を年度別に比較すると、「自分の課外活動は充実している」と「課外活動で自分が成長した」は前回よりわずかに低下し、過去最低となった。一方、「課外活動検討時の情報は入手できた」は前回は上回って、わずかな差ではあるが過去最高の評価となった。



<6-5> 課外活動と他の主要指標との関係

■ 目的・目標意識 1年間の振り返りとの関係

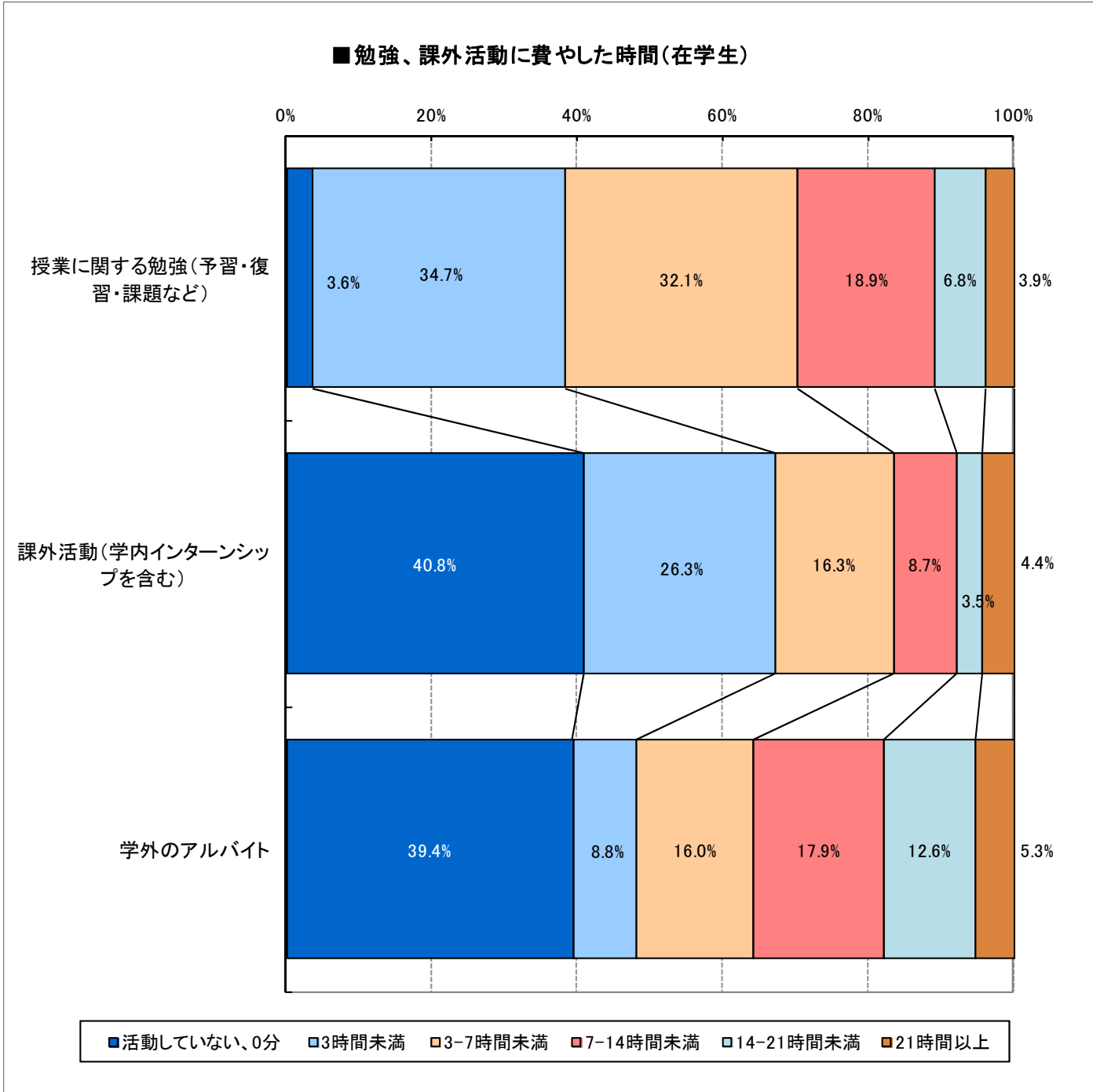
- 課外活動の参加状況によって、学生の考え方や行動にどのような差があるのかを確認した。
- 「目的・目標意識」が「課外活動の参加状況」によってどのように変わるかを見たところ、「参加している」と答えた学生の54.8%が「目標あり」と答えており、「参加していない」の35.5%とは19.3ポイントの差がついていた。
- 「1年間の振り返り」との関係を見ると、あまり大きな差ではなかったが、「参加している」と答えた学生は全体的に肯定的な意見が多く、特に「この1年間で成長したと実感している」の割合が「参加していない」学生に比べて多かった。ただし、「この1年間で中だるみを感じたことがあった」も多かった。



<7-1> 勉強、課外活動に費やした時間

■ 勉強、課外活動に費やした時間

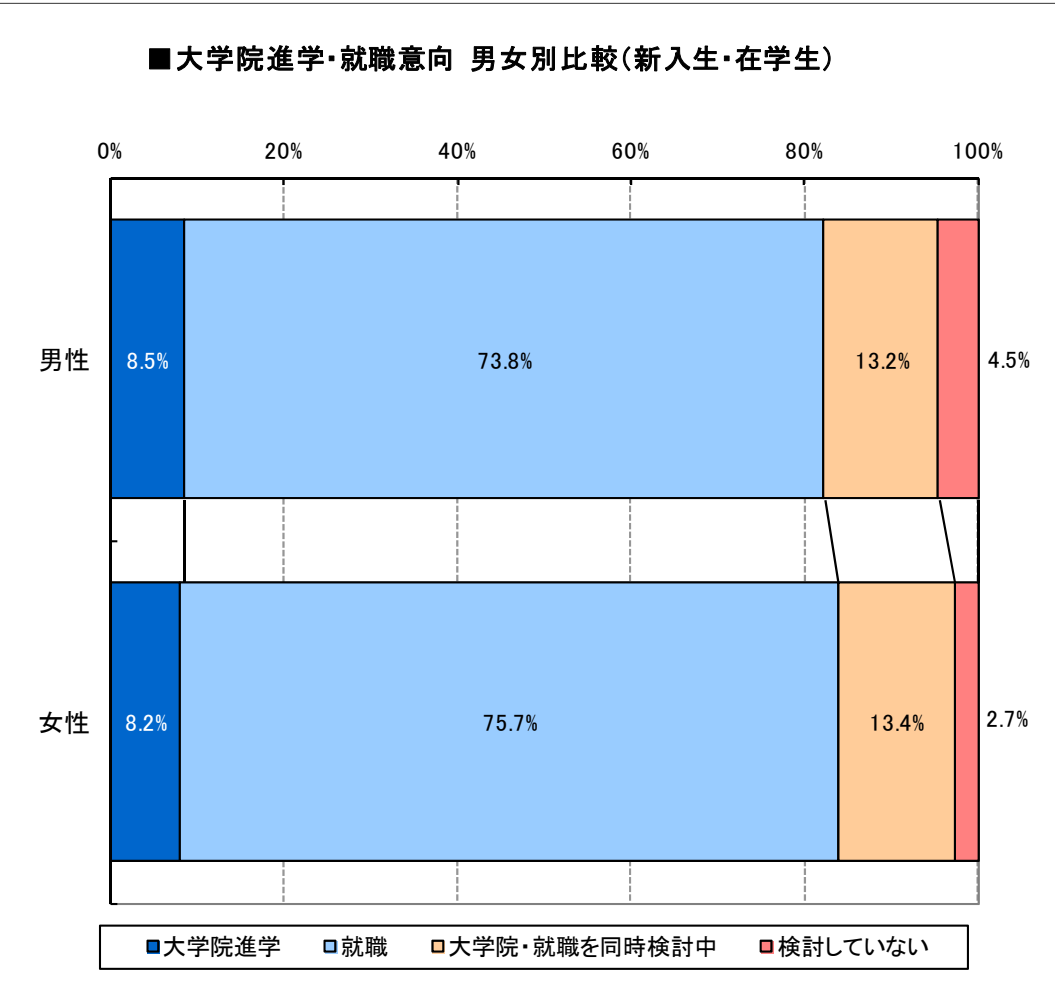
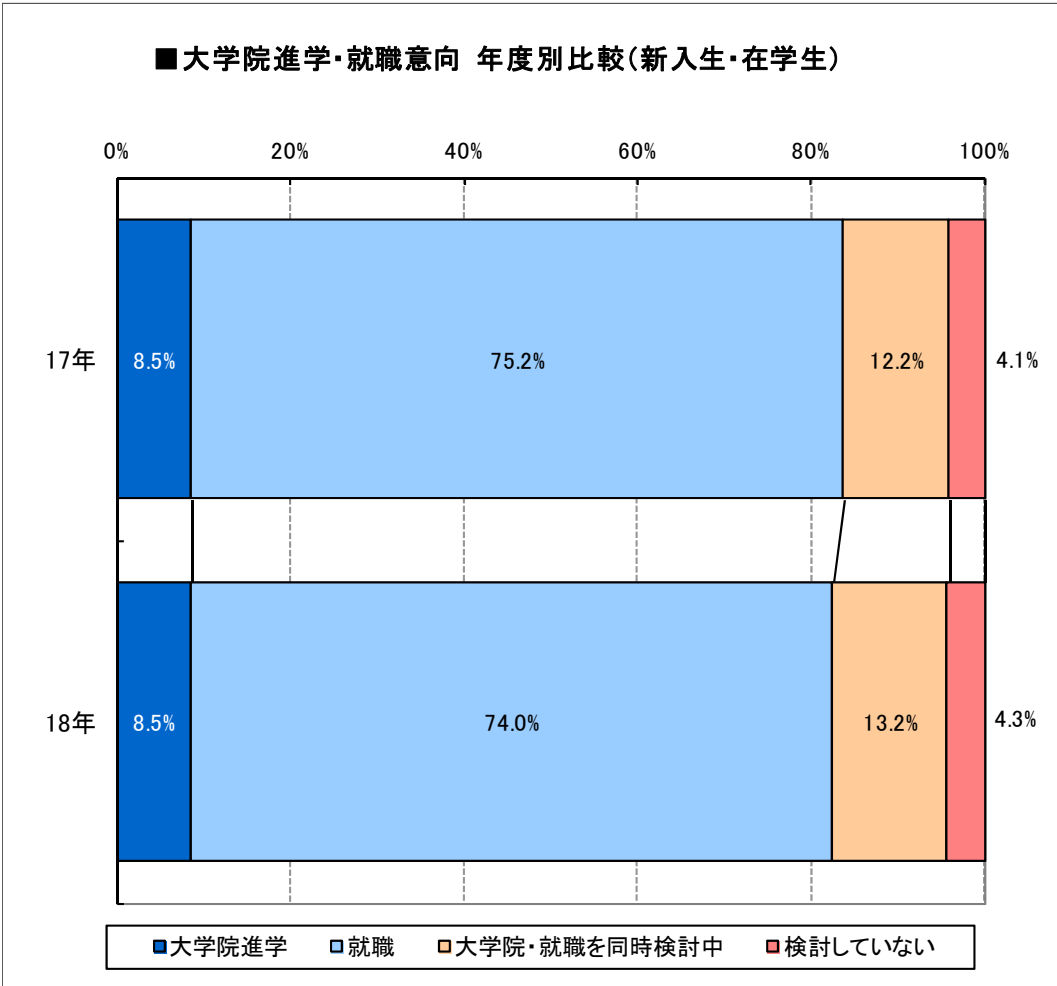
- 勉強、課外活動に費やした時間は前回から聞いているが、今回は選択肢を変えて聞いた。ここでは3つの項目に対して、普段の1週間の生活の中で費やした時間(1週間の合計)を聞いている。
- 「授業に関する勉強」では「活動していない、0分」が3.6%、「3時間未満」が34.7%、「3-7時間未満」が32.1%であり、これ以降の7時間以上(1日に1時間以上)の合計は29.6%であった。
- 「課外活動」では「活動していない、0分」が40.8%と多く、「3時間未満」が26.3%、「3-7時間未満」が16.3%であった。そして、これ以降の合計は16.6%であった。
- 「学外のアルバイト」では「活動していない、0分」が39.4%であり、これがアルバイトをしていない学生の割合と言える。そして、「3時間未満」が8.8%、「3-7時間未満」が16.0%で、これ以降の合計は35.8%となった。これは「授業に関する勉強」を6.2ポイント上回っており、アルバイトに長い時間を費やしている様子がうかがえた。



<8-1> 大学院への進学・就職意向

■ 大学院進学・就職意向、男女別比較

- 「大学院進学・就職意向」に関しては「就職」が74.0%を占め、前回より1.2ポイント低下していた。次いで、「大学院・就職を同時検討中」が13.2%で1ポイント増、「大学院進学」は前回と同じ8.5%であった。細かい差はあるものの、前回との差はほとんどないと言える。
- 男女別の差はほとんど見られなかったが、「女性」の方が「検討していない」が1.8ポイント少なく、しっかりと進路を考えているようであった。また、「就職」も「女性」の方が1.9ポイント多かった。

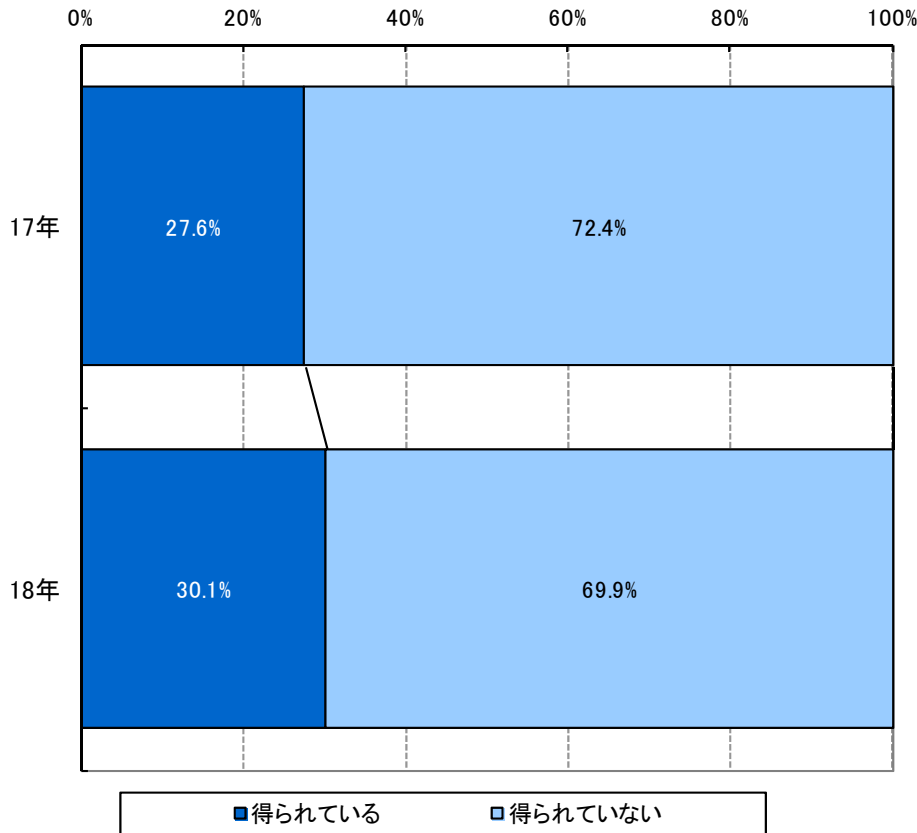


<8-2>大学院進学の情報入手状況

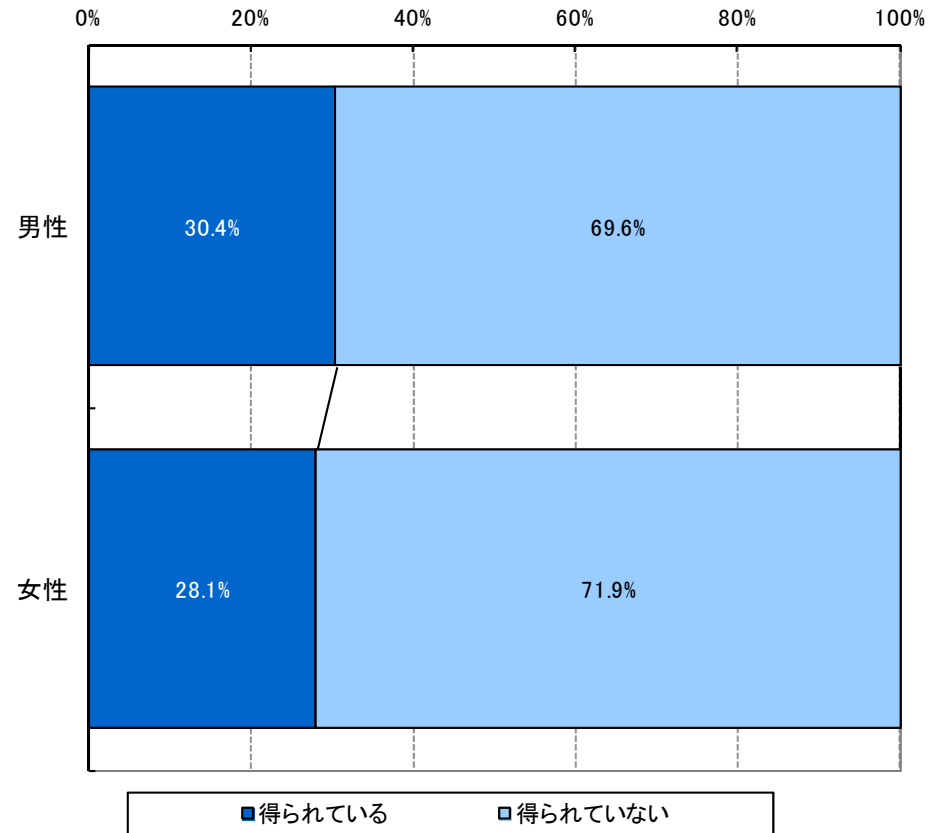
■大学院進学の情報入手状況、男女別比較

- 「大学院進学への情報は得られていますか？」という問いに対しては、「得られている」が30.1%で前回は2.5ポイント上回っており、情報の入手状況は良い方向に進んでいた。ただし、「得られていない」が69.9%であり、十分とは言えない状況と言える。
- 男女別に「得られている」の割合を比較すると、「男性」が30.4%、「女性」が28.1%であり、わずかな差ではあるが「男性」の方が情報が得られている割合が高かった。

■大学院進学の情報入手状況 年度別比較(在学生)



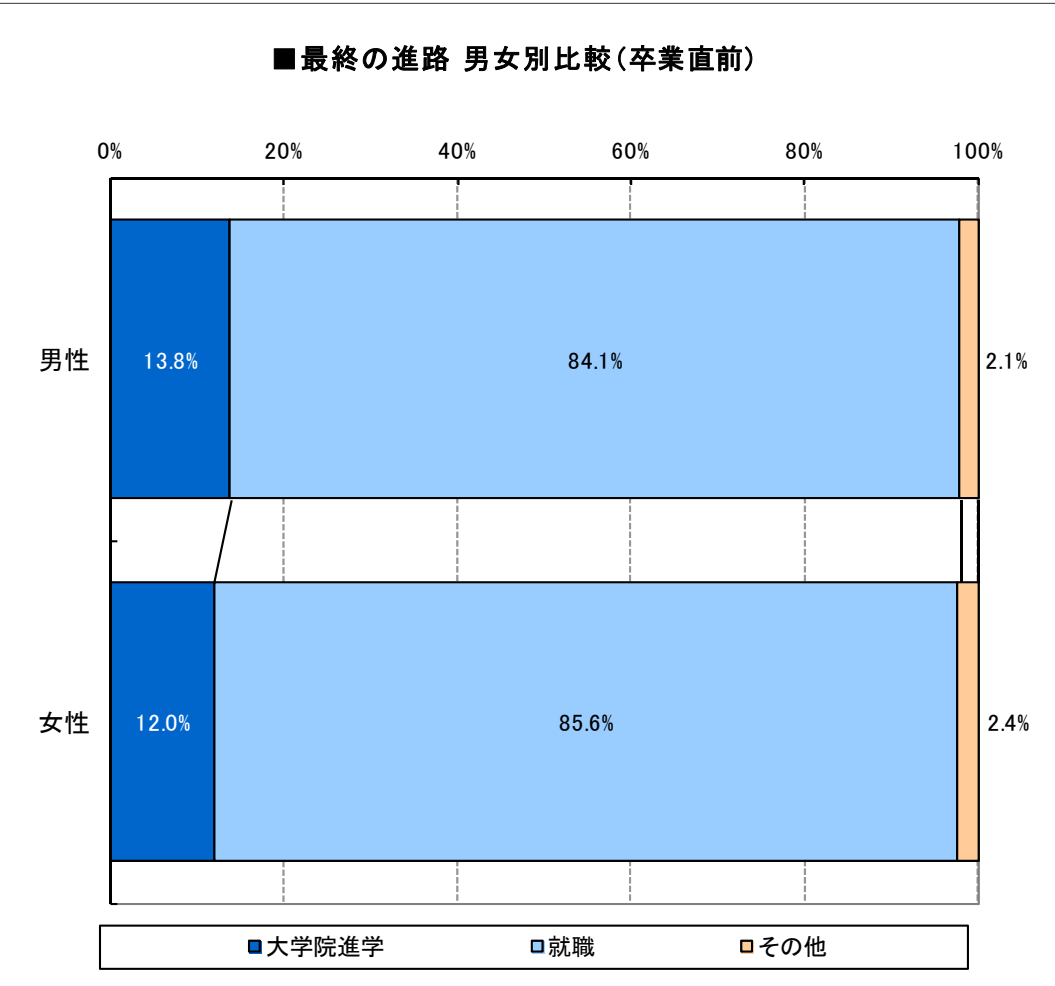
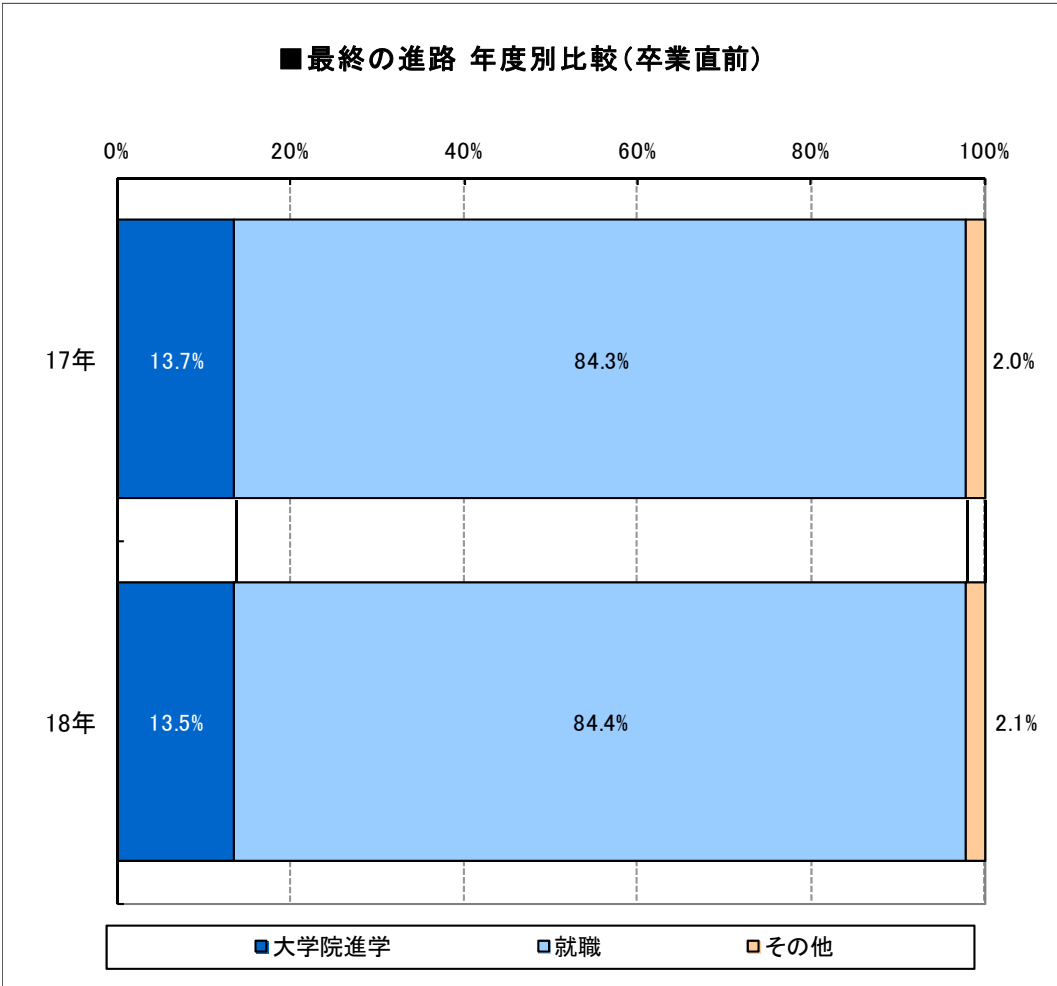
■大学院進学の情報入手状況 男女別比較(在学生)



<8-3> 最終の進路

■最終の進路、男女別比較

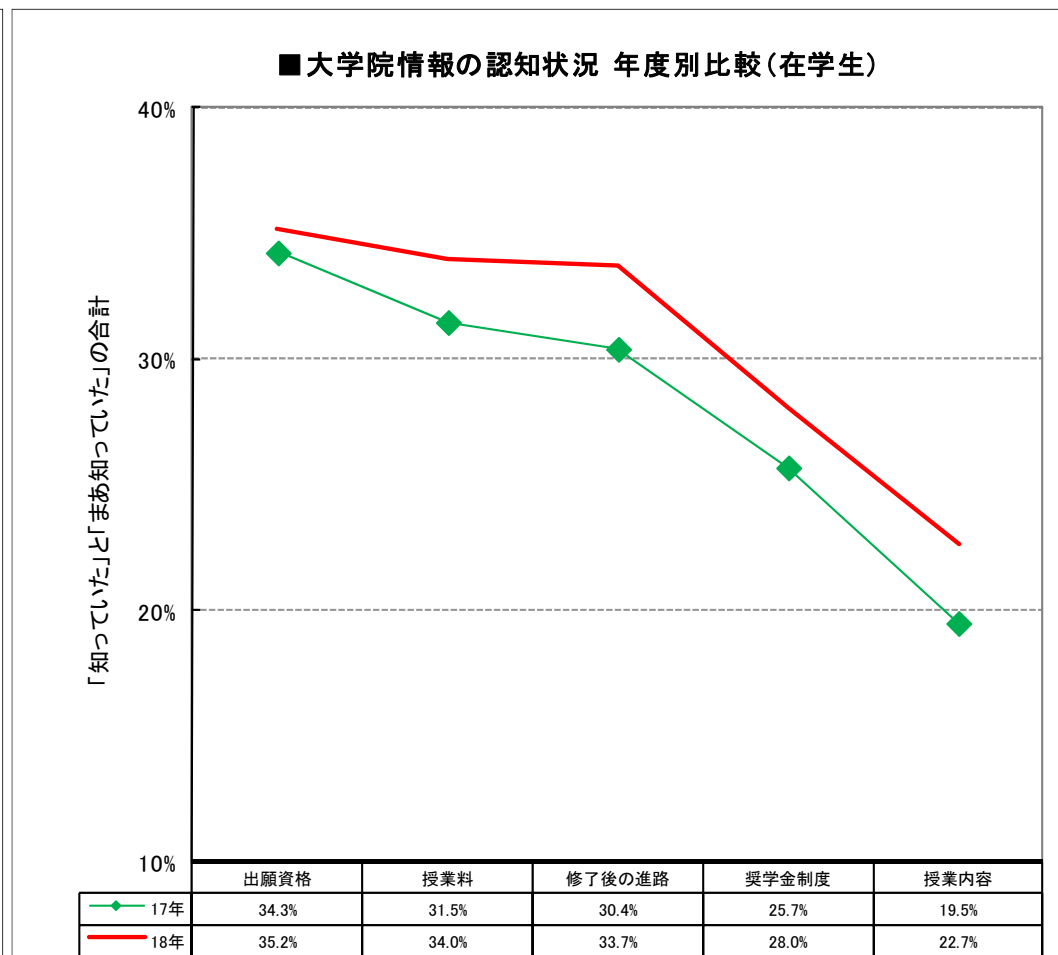
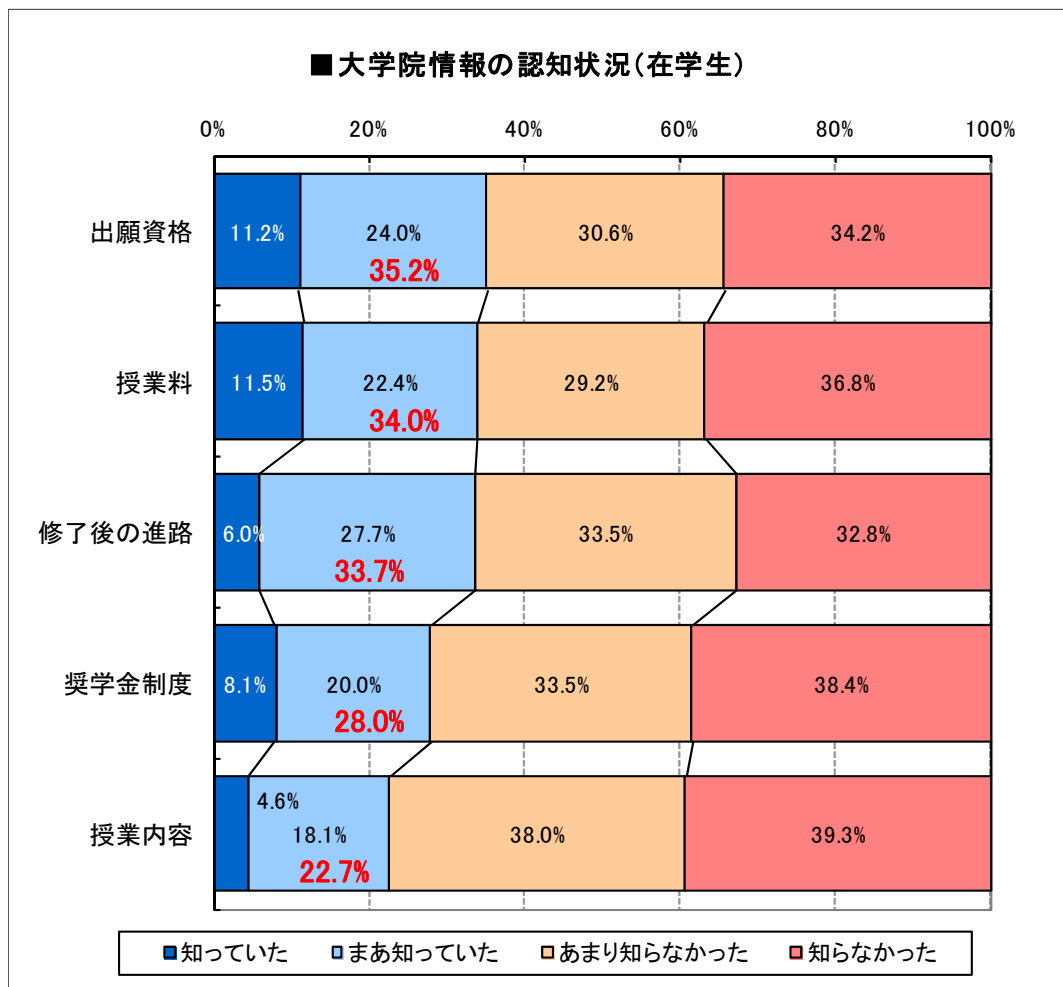
- 「卒業直前」に「最終の進路」を聞いたところ、「大学院進学」が13.5%、「就職」が84.4%、「その他」が2.1%であり、前回とほとんど変わらなかった。
- 男女別に比較すると差は小さかったが、「大学院進学」は「男性」の方が1.8ポイント多く、「就職」は「女性」の方が1.5ポイント多かった。



<8-4> 大学院情報の認知状況

■ 大学院情報の認知状況

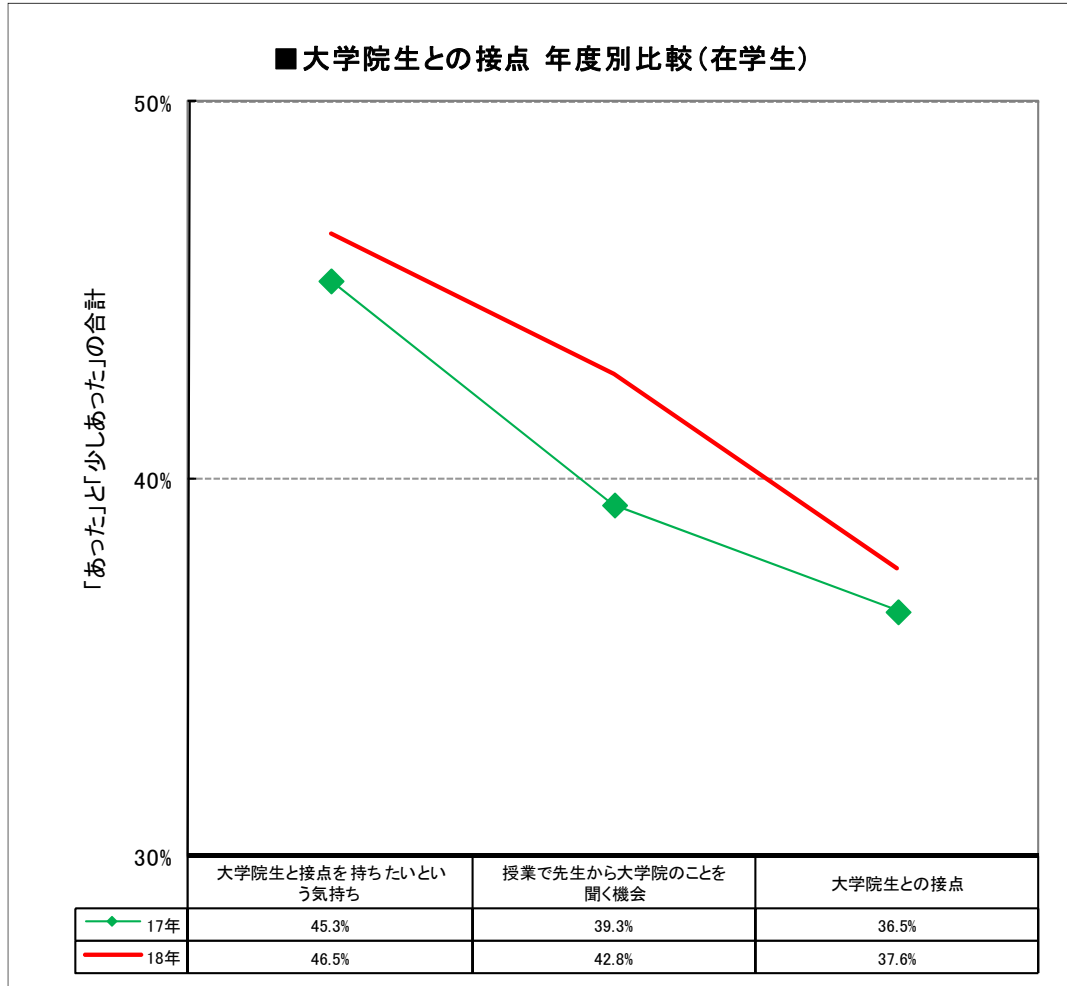
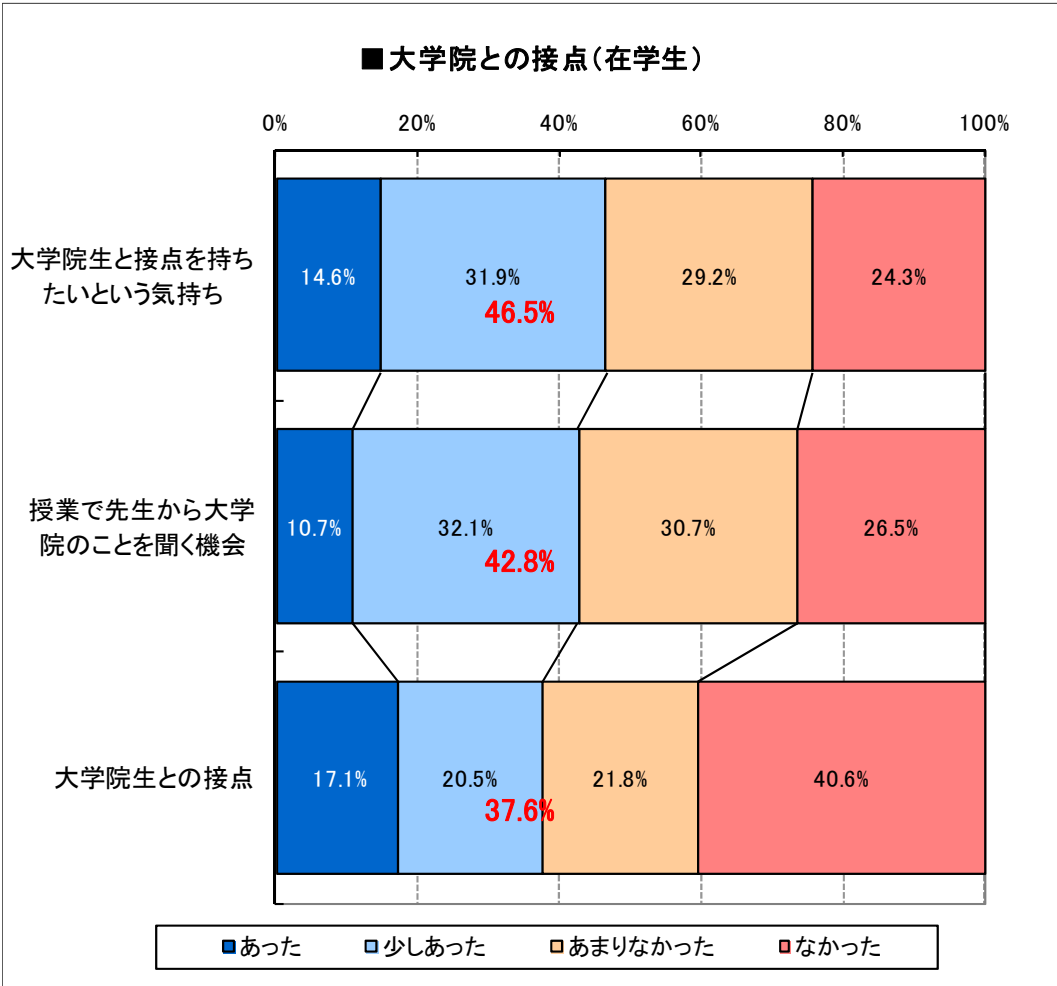
- 「大学院進学に関する情報や現状の認知状況」は5つの項目を挙げているが、肯定的な意見の合計で比較すると、「出願資格」の認知度が35.2%で最も高く、次いで「授業料」が34.0%、「修了後の進路」が33.7%、「奨学金制度」が28.0%、「授業内容」が22.7%となっており、いずれも高い認知度とは言えない状況であった。
- 年度別変化は肯定的な意見の合計で比較しているが、すべての項目で前回よりも認知度が向上していた。最も向上が大きかったのは「修了後の進路」であり、前回は3.3ポイント上回っていた。



<8-5> 大学院との接点

■ 大学院との接点

- 大学院との接点に関して、「大学院生と接点を持ちたいという気持ち」では46.5%と、半数近くが肯定的な意見であった。そして、「授業で先生から大学院のことを聞く機会」では42.8%、「大学院生との接点(があった)」では37.6%が肯定的な意見であり、4割前後が身近で大学院の情報に接しているようであった。
- 年度別に比較すると、3項目ともに前回よりも肯定的な意見が増加しており、特に「授業で先生から大学院のことを聞く機会」の増加が大きく、教員が積極的になっている様子がうかがえた。

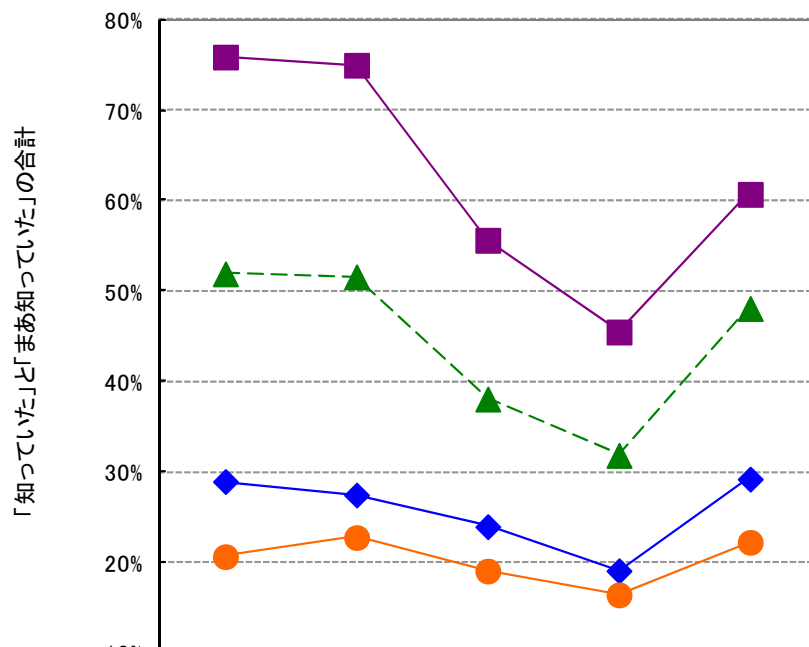


<8-6>大学院への進学意向による意識の違い

■大学院への進学意向による意識の違い

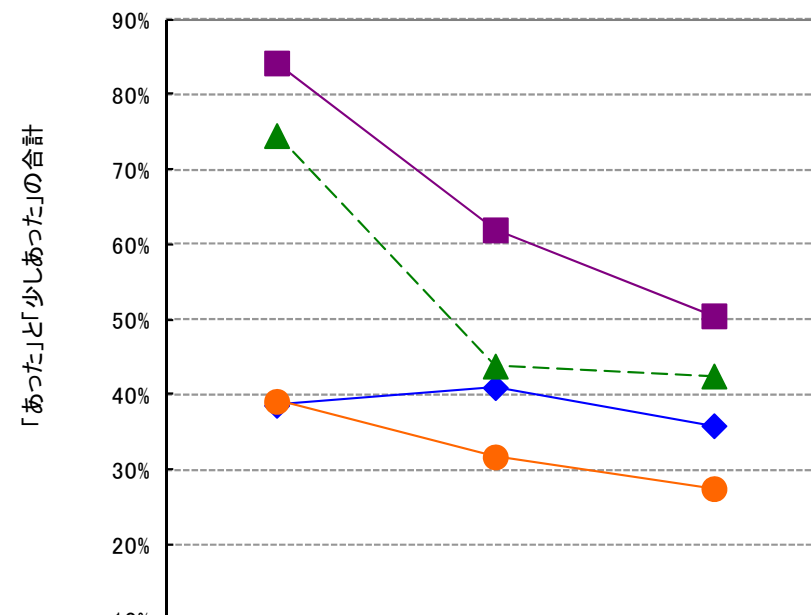
- 「大学院への進学意向」によって「大学院情報の認知状況」に差があるかを確認したところ、当然の結果ではあるが「大学院進学」を決定している層と「大学院・就職を同時検討中」の学生は各種情報の認知度が高かった。特に「出願資格」「授業料」「修了後の進路」の認知度が高く、「奨学金制度」と「授業内容」はそれほど伝わっていないようであった。
- 「大学院への進学意向」による「大学院との接点」を確認したところ、情報の認知と同様に「大学院進学」を決定している学生と「大学院・就職を同時検討中」の学生が大学院との接点を持ちたいと考えていた。特に「大学院生と接点を持ちたいという気持ち」の高さが目立っており、直接、大学院の情報を聞きたいと思っているようであった。

■大学院情報の認知状況 大学院への進学意向別比較 (在学生)



■ 大学院進学	75.9%	75.0%	55.6%	45.5%	60.7%
■ 就職	28.9%	27.5%	24.0%	19.1%	29.2%
■ 大学院・就職を同時検討中	51.9%	51.6%	38.1%	31.8%	48.1%
■ 検討していない	20.6%	22.8%	19.0%	16.4%	22.2%

■大学院との接点 大学院への進学意向別比較 (在学生)



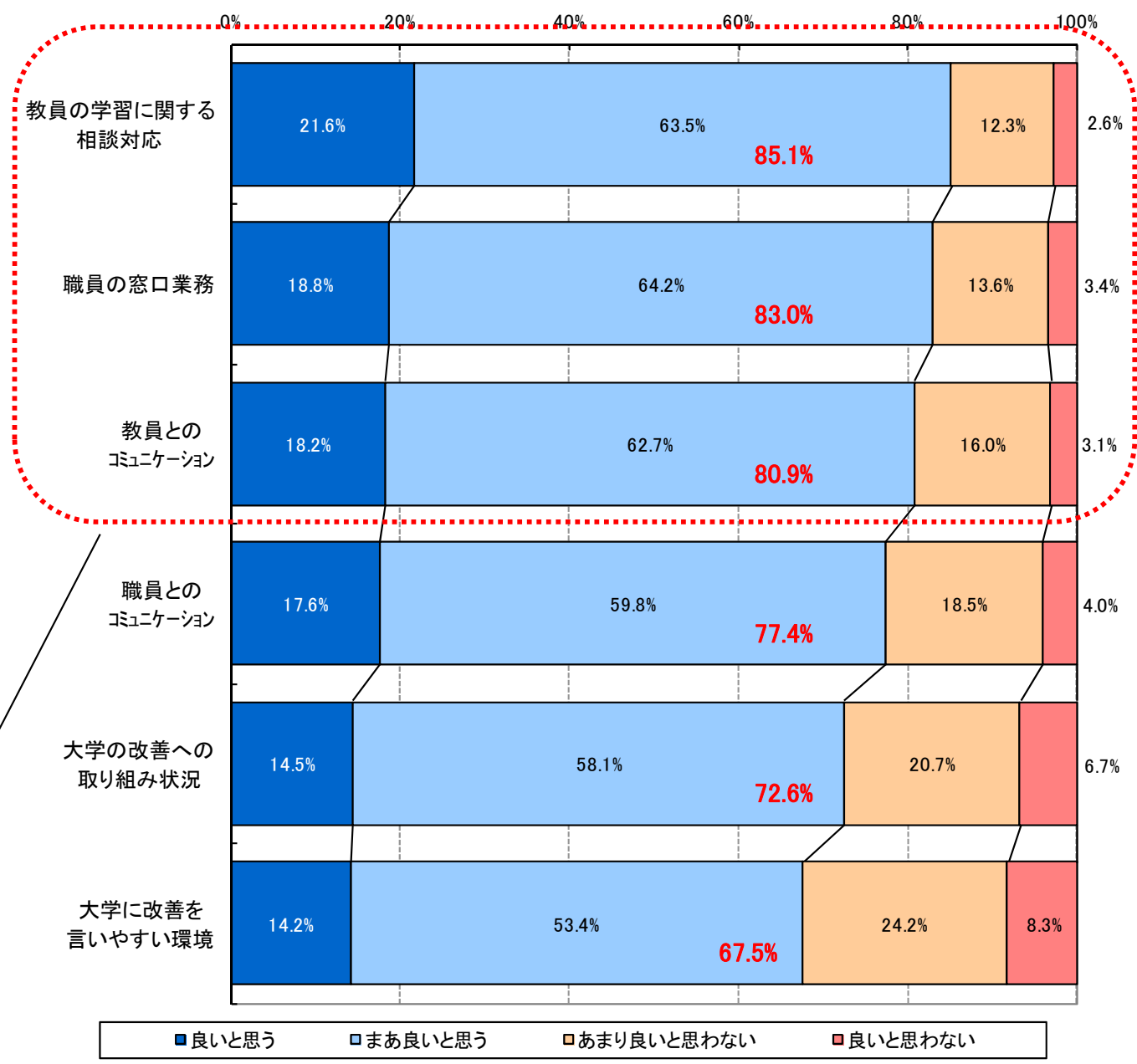
■ 大学院進学	84.3%	62.0%	50.6%
■ 就職	38.6%	41.0%	35.9%
■ 大学院・就職を同時検討中	74.6%	43.9%	42.5%
■ 検討していない	39.2%	31.7%	27.5%

<9-1>教職員と大学の改善取り組み状況の評価

■教職員と大学の改善取り組み状況の評価

- 教職員と大学の改善への取り組み状況の評価に関して、肯定的な意見が最も多かったのは「教員の学習に関する相談対応」の85.1%であった。次いで、「職員の窓口業務」が83.0%、「教員とのコミュニケーション」が80.9%であり、ここまでの3項目では8割以上の学生が満足していた。
- 一方、肯定的な意見が最も少なかったのは「大学に改善を言いやすい環境」の67.5%であり、「大学の改善への取り組み状況」が72.6%、「職員とのコミュニケーション」が77.4%であった。これらに関しては不満を持っている学生が2～3割であった。

■教職員と大学の改善取り組み状況の評価 (在学生全体)



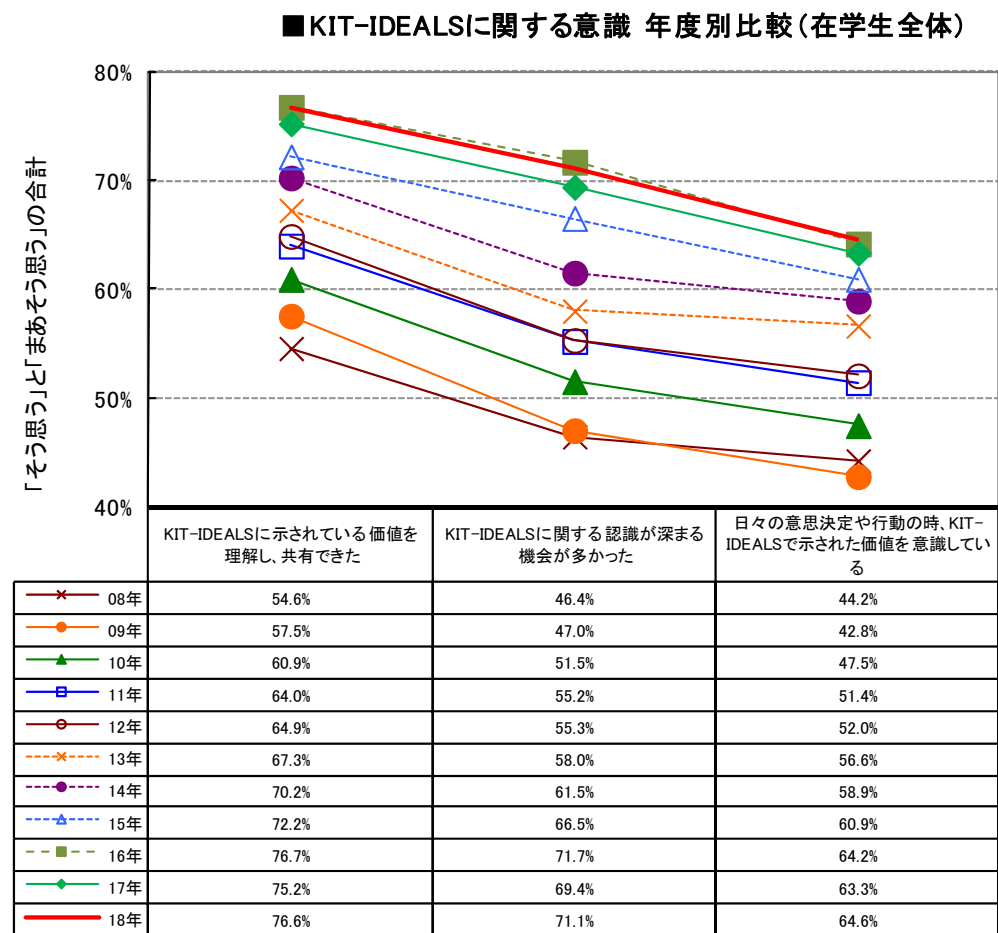
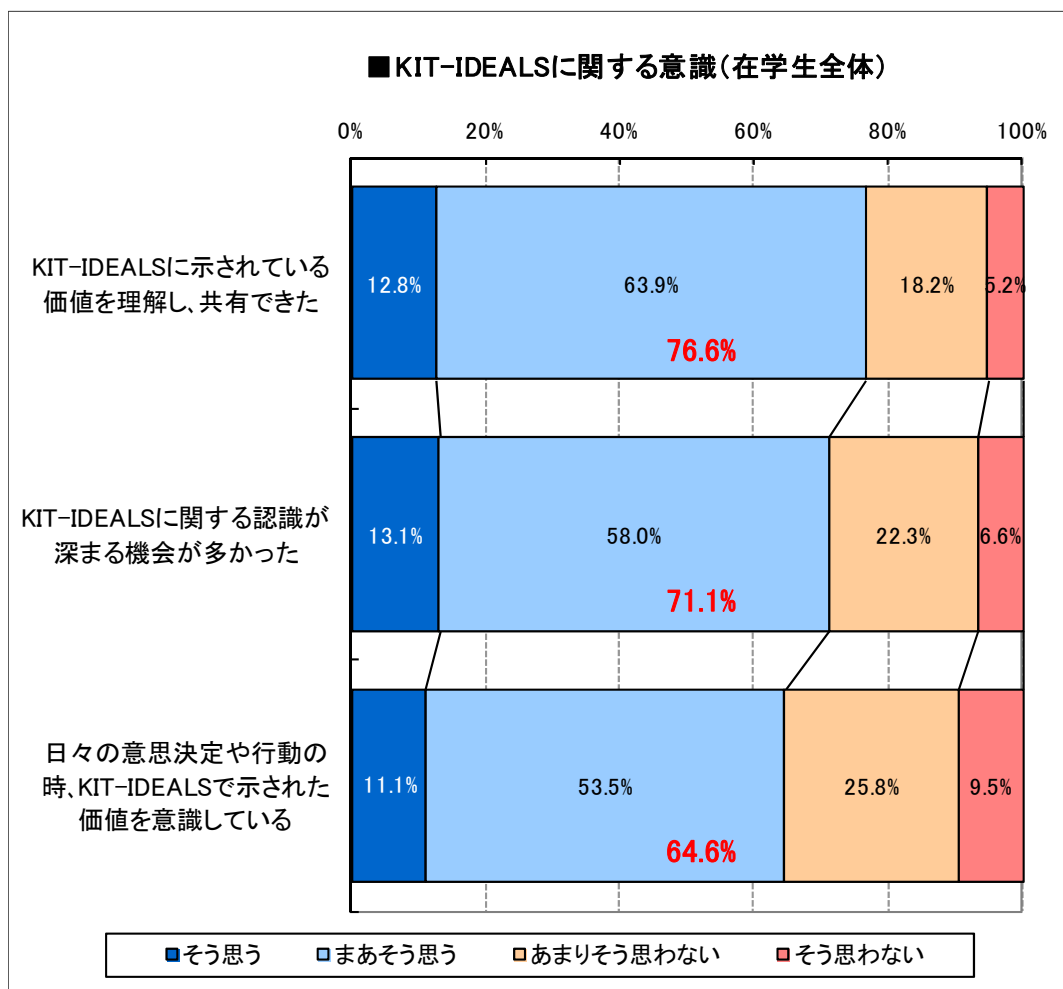
良い評価が8割以上

■ 良いと思う □ まあ良いと思う □ あまり良いと思わない □ 良いと思わない

<10-1> KIT-IDEALSに関する意識

■KIT-IDEALSに関する意識、年度別比較

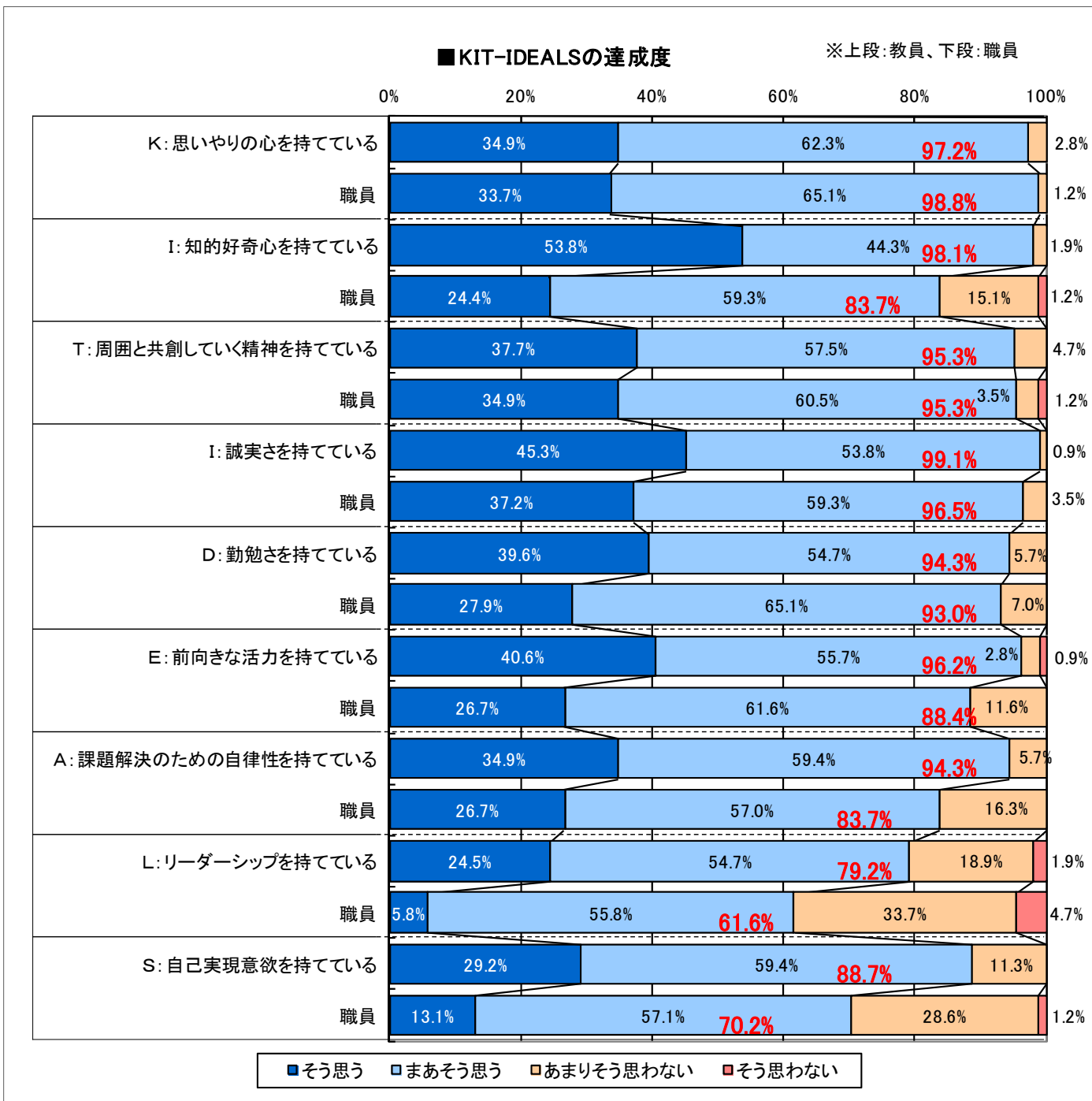
- KIT-IDEALSに関する意識として、「KIT-IDEALSに示されている価値を理解し、共有できた」では、肯定的な意見の合計は76.6%であり、「KIT-IDEALSに関する認識が深まる機会が多かった」では71.1%、「日々の意思決定や行動の時、KIT-IDEALSで示された価値を意識している」では64.6%と、KIT-IDEALSに対する意識は高かった。
- KIT-IDEALSに対する意識を年度別に比較すると、すべての項目が前年を上回り、「日々の意思決定や行動の時、KIT-IDEALSで示された価値を意識している」は過去最高となった。



<10-2>教職員のKIT-IDEALSの達成度

■教職員のKIT-IDEALSの達成度

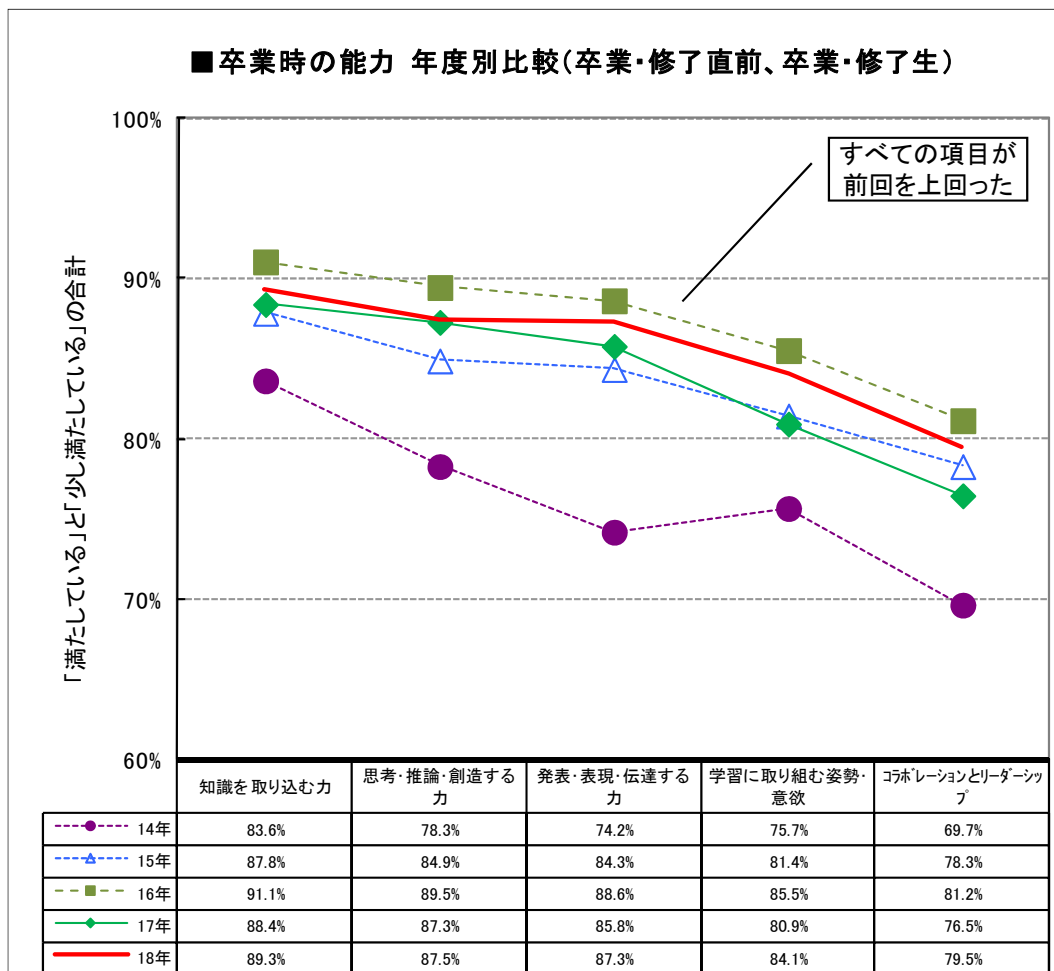
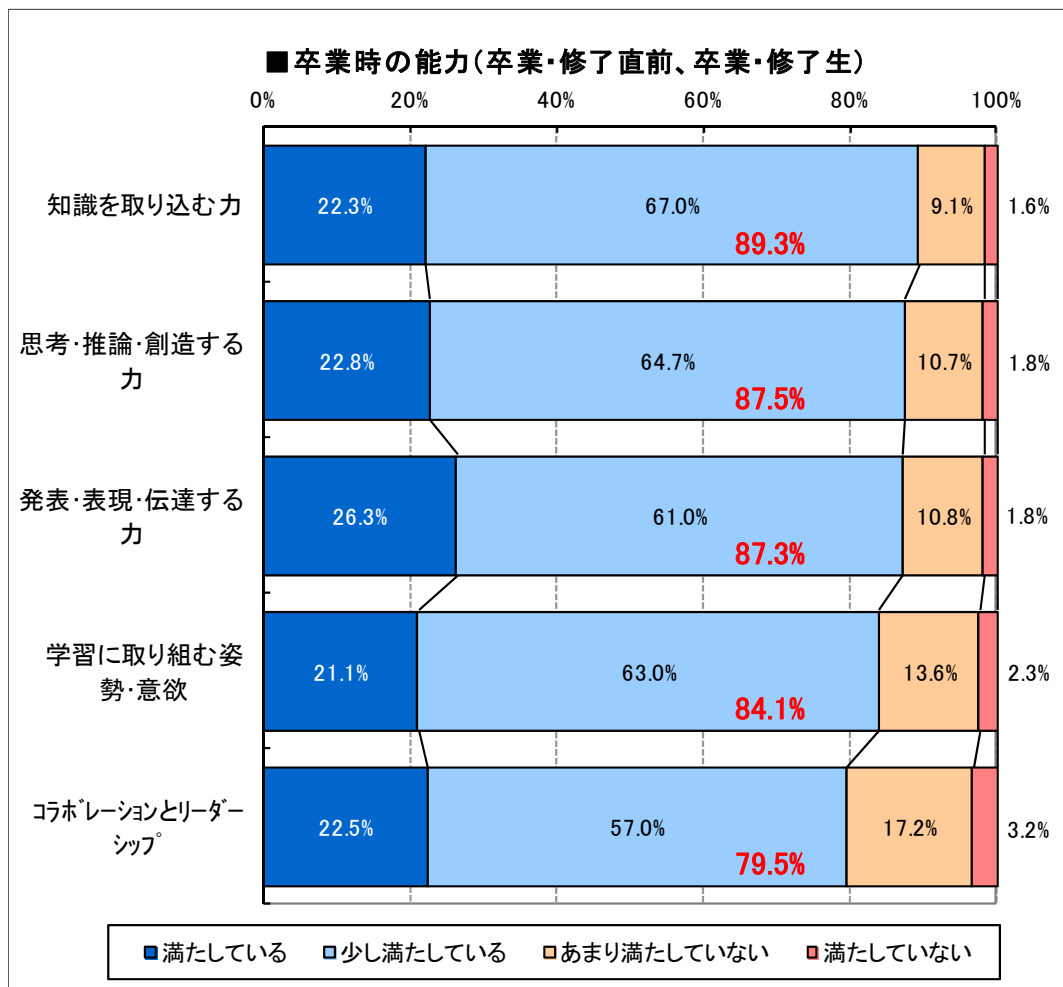
- 「教員」と「職員」には「KIT-IDEALS」の9項目の達成度を聞いている。
- 肯定的な意見の合計を見ると、ほとんどの項目で8割以上が肯定的な意見となっており、達成度は高かった。
- 「教員」では「L:リーダーシップを持っている」で肯定的な意見が79.2%、「S:自己実現意欲を持っている」が88.7%であり、この2項目のみ肯定的な意見が9割に満たなかった。
- 「職員」では「L:リーダーシップを持っている」は61.6%と低さが目立っていた。そして、「S:自己実現意欲を持っている」が70.2%、「I:知的好奇心を持っている」が83.7%、「A:課題解決のための自律性を持っている」が83.7%、「E:前向きな活力を持っている」が88.4%であり、この5項目は肯定的な意見が9割に満たなかった。



<11-1>卒業時の能力

■卒業時の能力 年度別比較

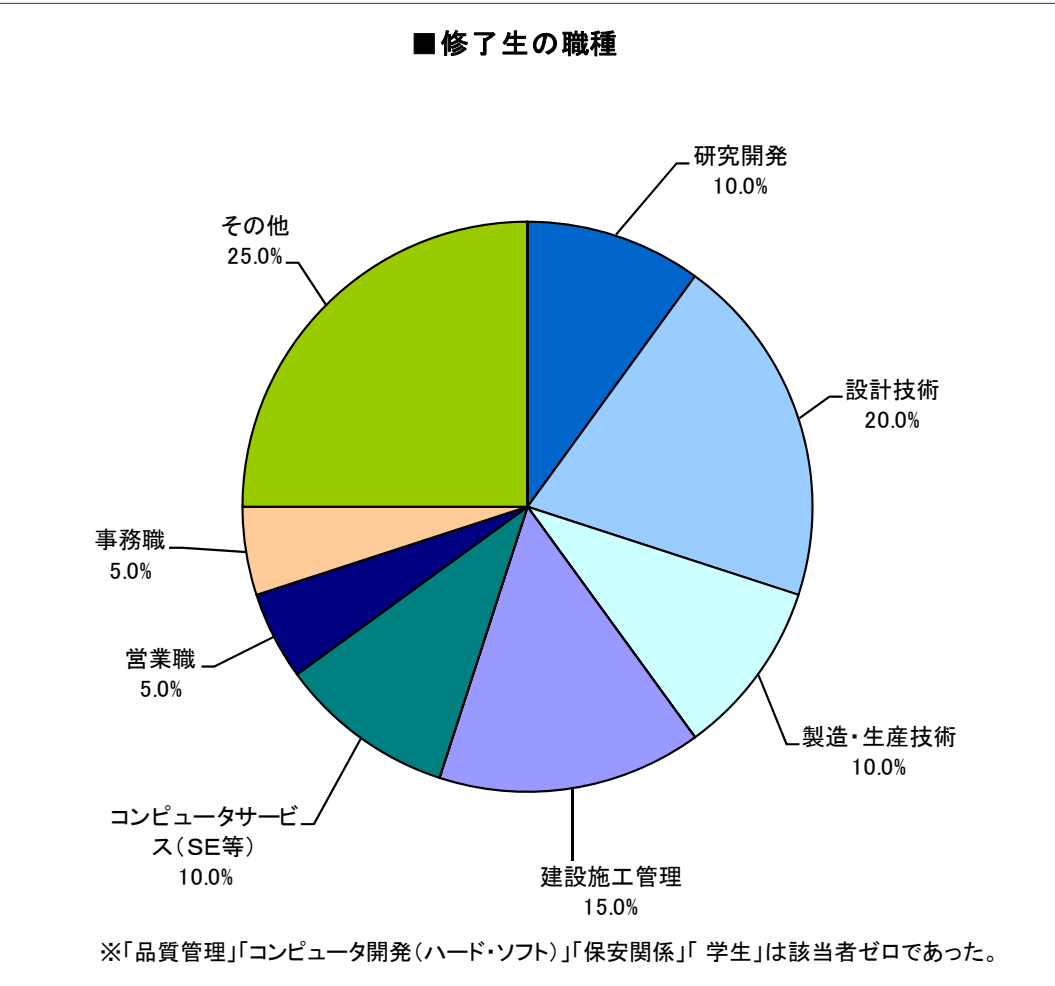
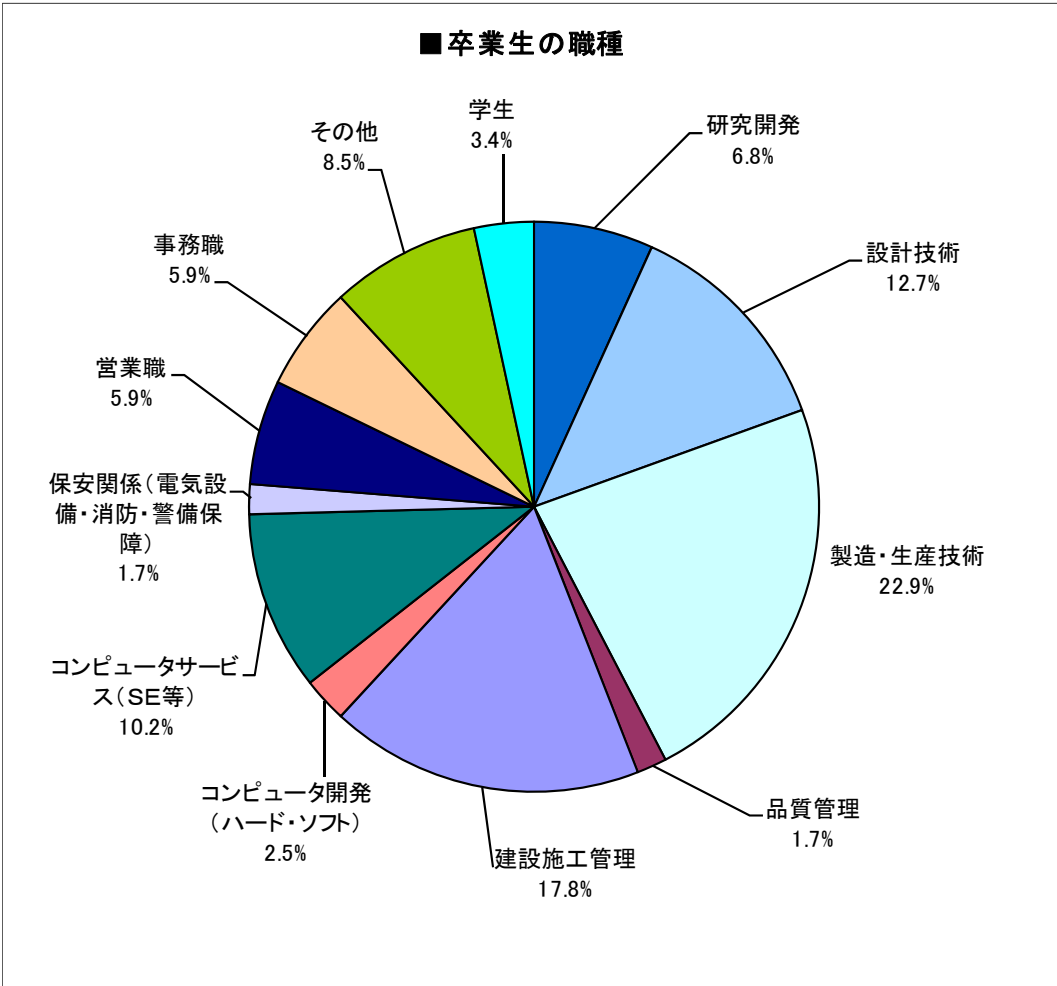
- 「卒業直前」「修了直前」「卒業生」「修了生」に卒業時の自分の能力を自己評価として聞いたところ、肯定的な意見が最も多かったのは「知識を取り込む力」の89.3%であった。次いで、「思考・推論・創造する力」が87.5%、「発表・表現・伝達する力」が87.3%と続いていた。
- 一方、肯定的な意見が最も少なかったのは「コラボレーションとリーダーシップ」の79.5%であったが、決して低い自己評価ではなかった。
- 年度別比較を見ると、今回はすべての項目で前回を上回って16年に次ぐ高さとなっていた。特に「学習に取り組む姿勢・意欲」と「コラボレーションとリーダーシップ」の向上が大きかった。



<12-1>卒業・修了生の基本属性

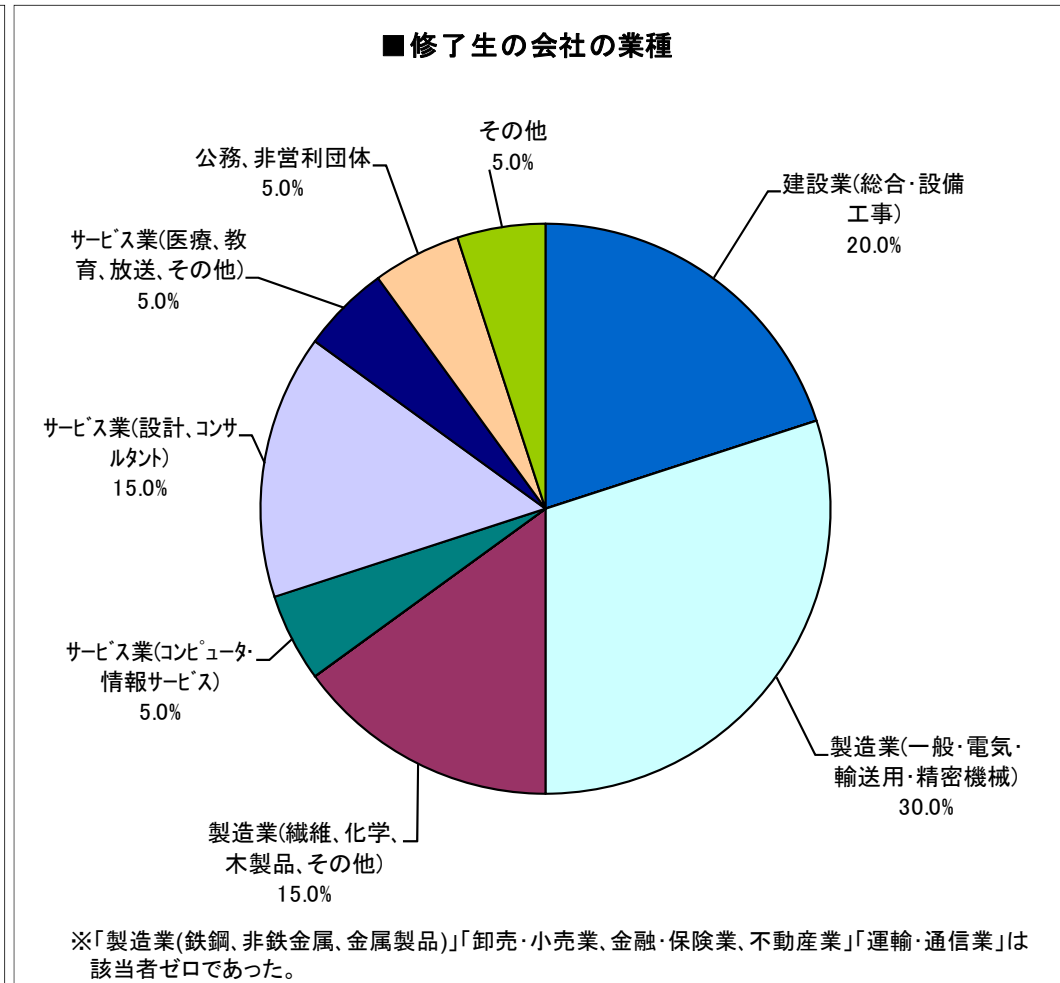
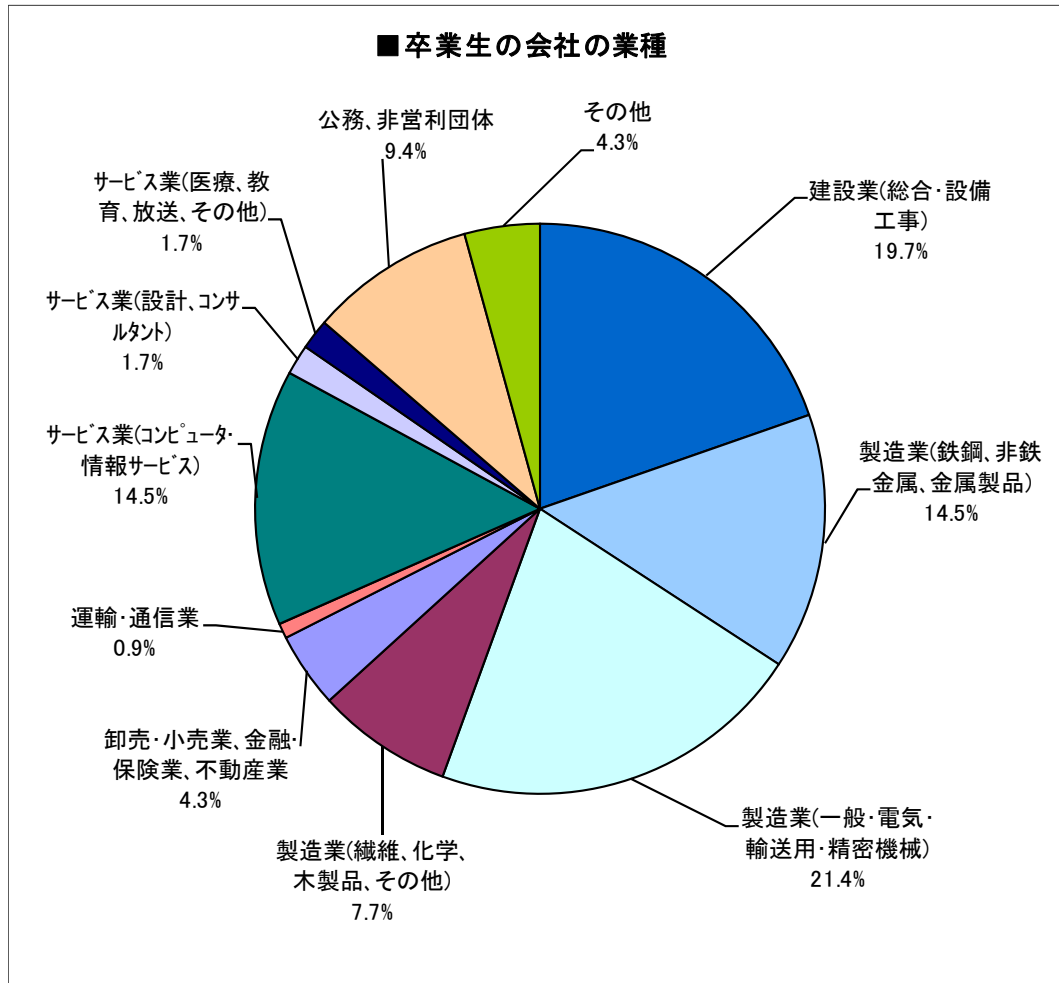
■現在の職種

- 卒業生の職種は、「製造・生産技術」が22.9%で最も多く、「建設施工管理」が17.8%、「設計技術」が12.7%、「コンピュータサービス(SE等)」が10.2%で続いていた。
- 修了生の職種は、「その他」が25.0%と最も多かったが、次いで、「設計技術」が20.0%、「建設施工管理」が15.0%、「研究開発」「製造・生産技術」「コンピュータサービス(SE等)」が10.0%であった。



■現在の会社の業種

- 卒業生の会社の業種は、「製造業(一般・電気・輸送用・精密機械)」が21.4%で最も多く、次いで、「建設業(総合・設備工事)」が19.7%、「製造業(鉄鋼、非鉄金属、金属製品)」と「サービス業(コンピュータ・情報サービス)」が14.5%、「公務、非営利団体」が9.4%で続いていた。
- 修了生では「製造業(一般・電気・輸送用・精密機械)」が30.0%で最も多く、次いで、「建設業(総合・設備工事)」が20.0%、「製造業(繊維、化学、木製品、その他)」と「サービス業(設計、コンサルタント)」が15.0%で続いていた。

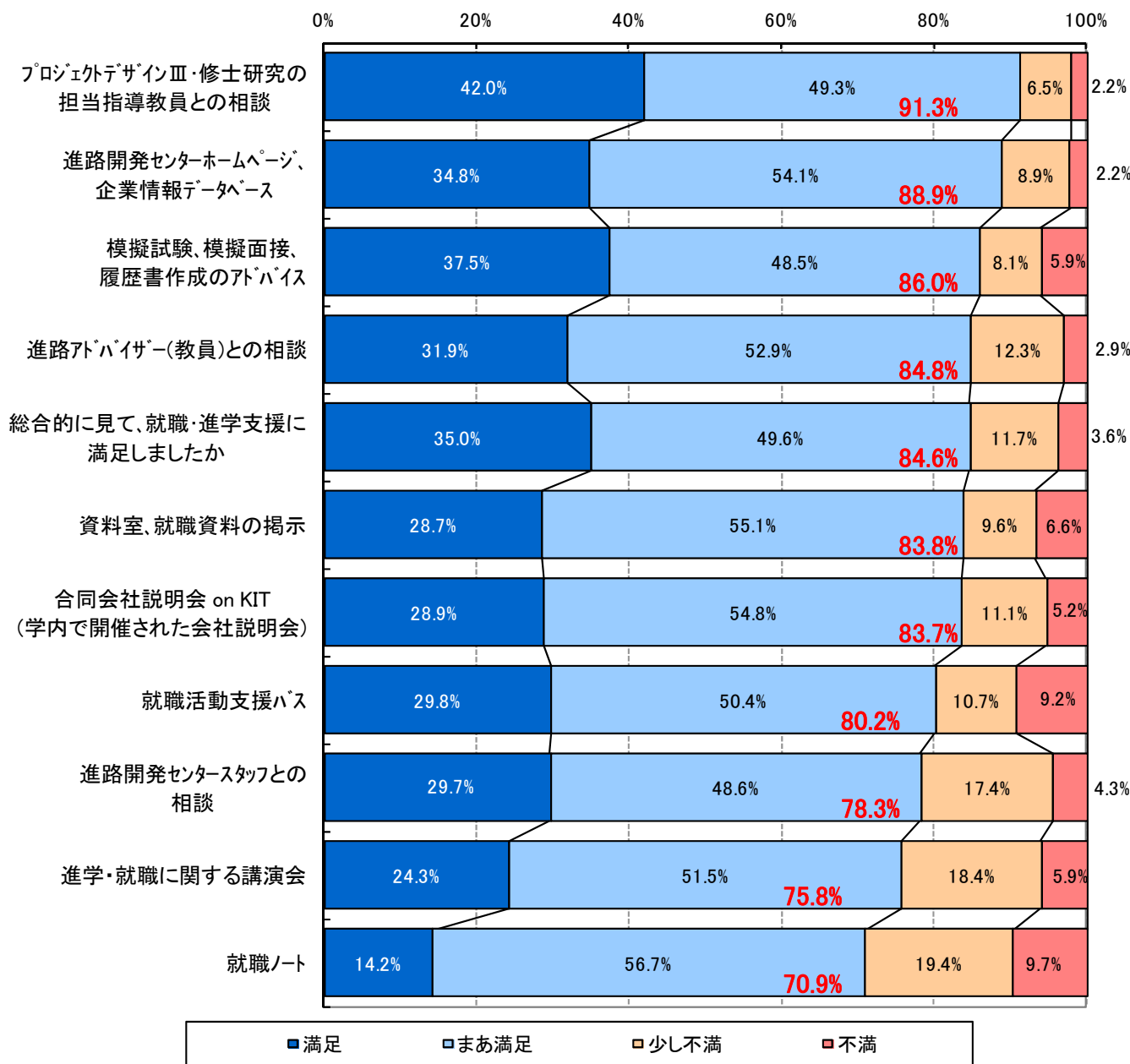


<12-2>就職・進学支援の評価

■就職・進学支援の評価

- 「卒業生」「修了生」に就職・進学支援策の満足度を聞いているが、「総合的に見て、就職・進学支援に満足しましたか」に関しては、「満足」が35.0%、「まあ満足」が49.6%であり、合わせると84.6%が肯定的な意見であった。
- 上記以外は具体的なサポート策の評価となるが、最も評価が高かったのは「プロジェクトデザインⅢ・修士研究の担当指導教員との相談」であり、肯定的な意見が91.3%であった。次いで、「進路開発センターホームページ、企業情報データベース」が88.9%、「模擬試験、模擬面接、履歴書作成のアドバイス」が86.0%で続いていた。
- 一方、最も満足度が低かったのは「就職ノート」の70.9%であり、満足度は低くはないものの、「満足」が14.2%と少ない点が目立っていた。そして、「進学・就職に関する講演会」が75.8%、「進路開発センタースタッフとの相談」が78.3%となっていた。

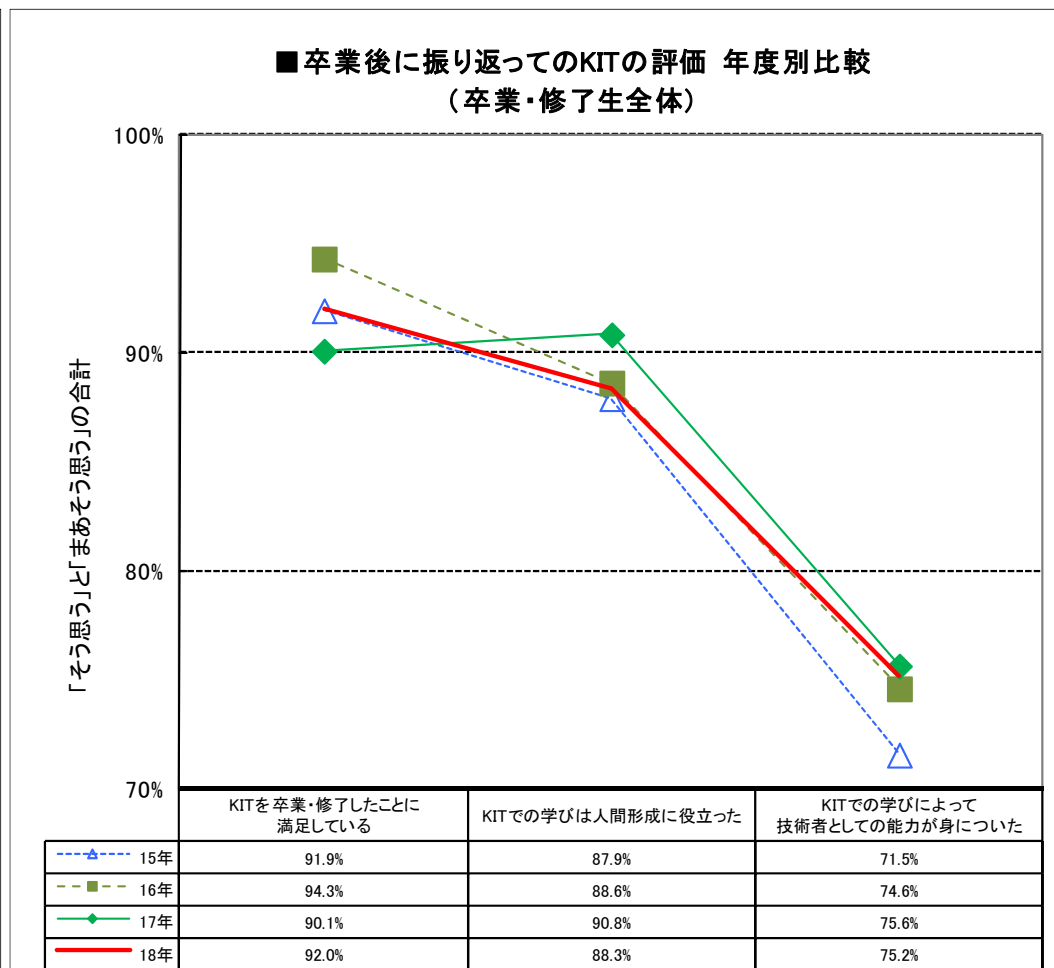
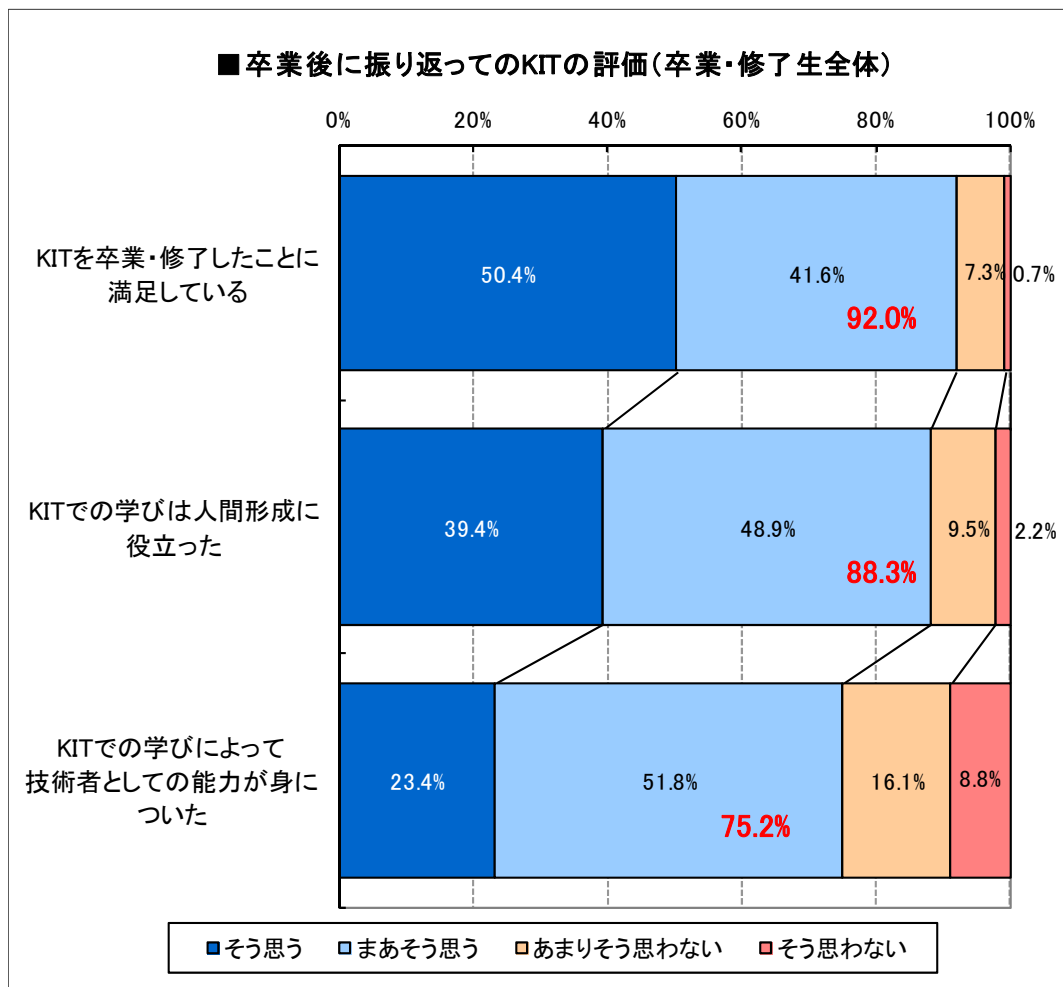
■就職・進学支援の評価(卒業・修了生全体)



<12-3>卒業後のKITの評価

■卒業後のKITの評価 年度別比較

- 「卒業生」「修了生」に、卒業後に振り返ってのKITの評価を聞いたところ、「KITを卒業・修了したことに満足している」では92.0%が肯定的な意見であり、満足度は非常に高いと言える。
- 上記に次いで、「KITでの学びは人間形成に役立った」では88.3%、「KITでの学びによって技術者としての能力が身についた」では75.2%が肯定的な意見であった。
- 年度別に比較すると、「KITを卒業・修了したことに満足している」は前回は1.9ポイント上回っていたが、他の2項目はいずれも前回は下回った。ただし、3項目ともに評価が高い状態が続いており、大きな問題は見られないように思われる。



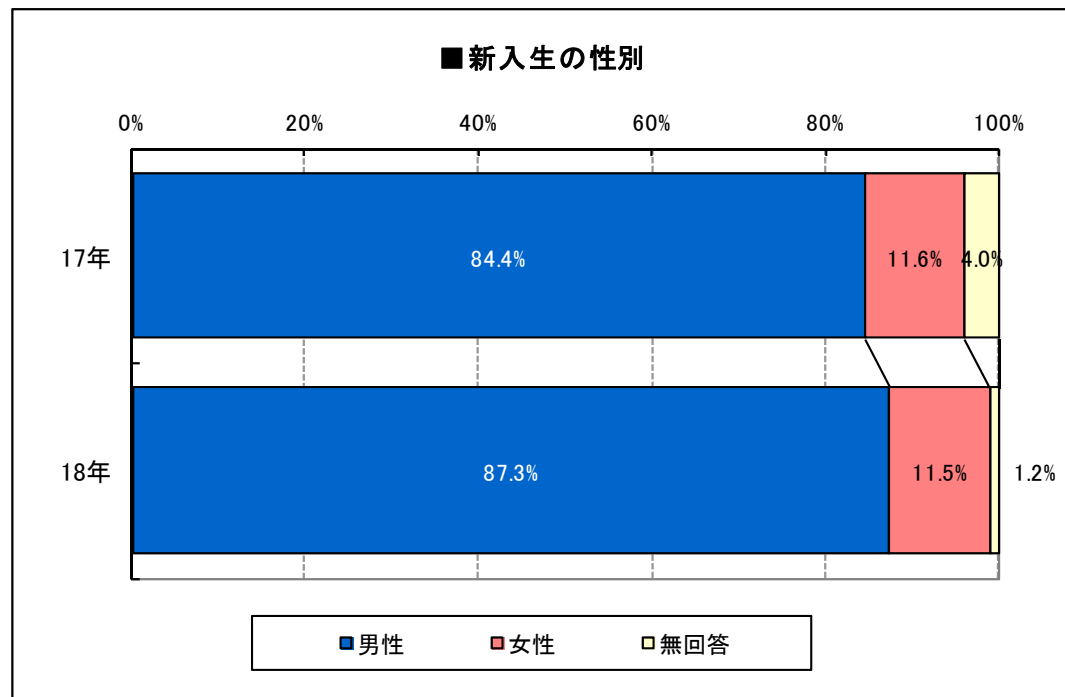
<13-1>新入生のプロフィール

■新入生の学部・学科、性別

- 新入生は今回から新学部構成となっているが、「工学部」が60.5%、「情報フロンティア学部」が16.3%、「建築学部」が14.9%、「バイオ・化学部」が8.3%という構成になっていた。
- 学科では「情報工学科」が15.7%と最も多く、「電気電子工学科」が15.3%、「建築学科」が14.9%と続いていた。
- 性別を見ると、「男性」が87.3%で前回は2.9ポイント上回っており、「女性」は11.5%であった。

■新入生の学部・学科割合

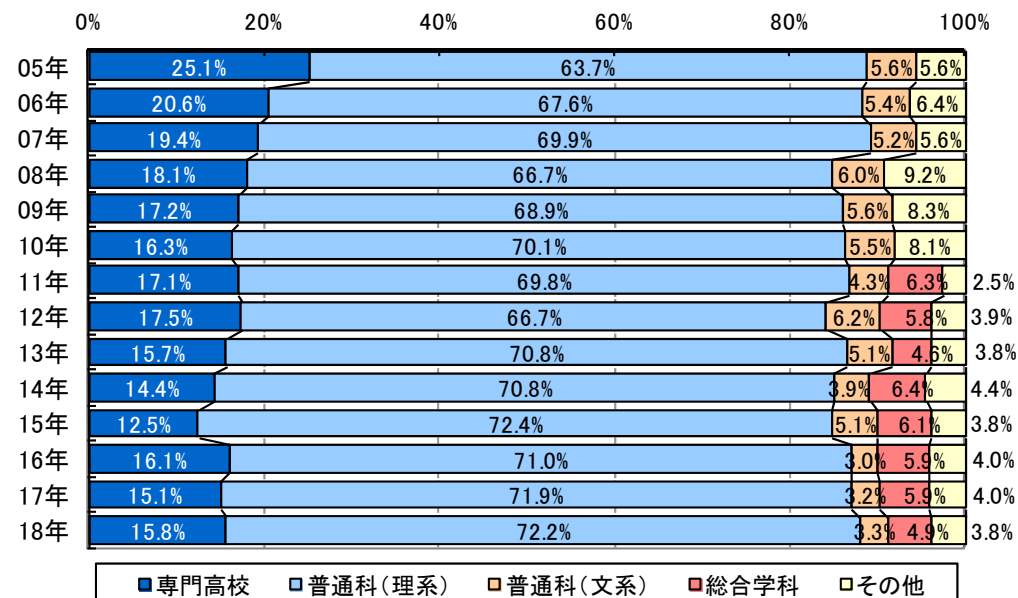
学部	学科	回答者数	割合	回答者数	割合
工学部	機械工学科	992	60.5%	199	12.1%
	航空システム工学科			69	4.2%
	ロボティクス学科			117	7.1%
	電気電子工学科			251	15.3%
	情報工学科			258	15.7%
	環境土木工学科			98	6.0%
情報フロンティア学部	メディア情報学科	267	16.3%	155	9.4%
	経営情報学科			57	3.5%
	心理科学科			55	3.4%
建築学部	建築学科	245	14.9%	245	14.9%
バイオ・化学部	応用化学科	136	8.3%	65	4.0%
	応用バイオ学科			71	4.3%
	無回答	1	0.1%	1	0.1%
	合計	1,641	100.0%	1,641	100.0%



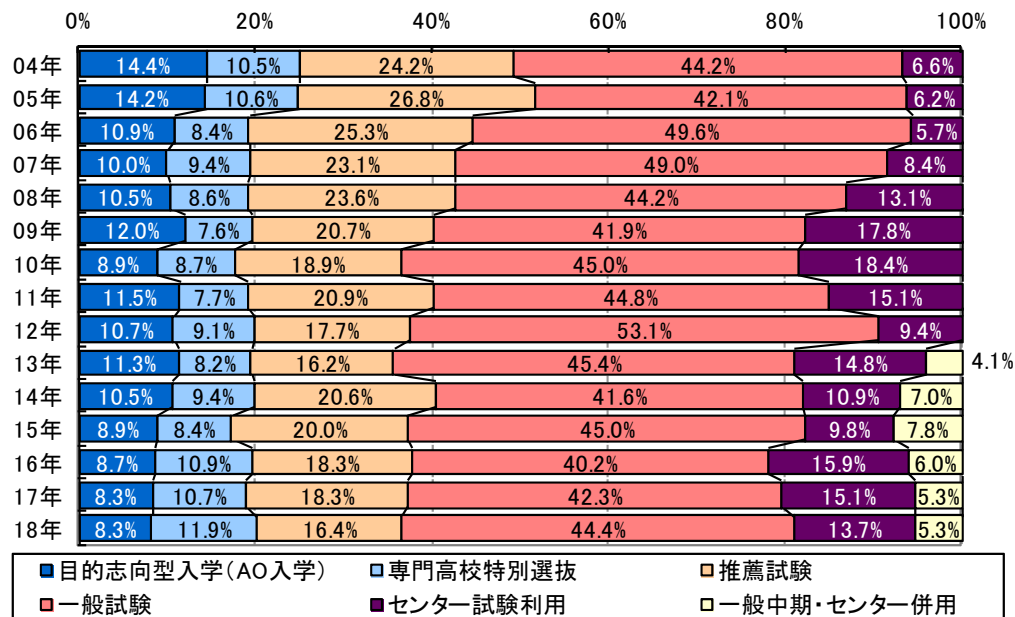
■ 新入生の入試の種類、高校課程、現浪

- 入試の種類を見ると、「一般試験」が44.4%と最も多く、「推薦試験」が16.4%、「センター試験利用」が13.7%と続いていた。以前と比べると大きな変化は見られなかったが、「目的志向型入学（AO入学）」と「推薦試験」がわずかずつではあるが、減少する傾向が続いていた。
- 出身高校の課程では「普通科（理系）」が72.2%で最も多く、次いで「専門高校」が15.8%、「総合学科」が4.9%で続いていた。また、以前と比較して、大きな経年変化は見られなかった。
- 入学時の現浪の比較を見ると、「現役入学」が89.9%で初めて9割を下回った。そして、「浪人後入学」が10.1%となり、前回は除くと「現役入学」が減少する傾向が続いていた。

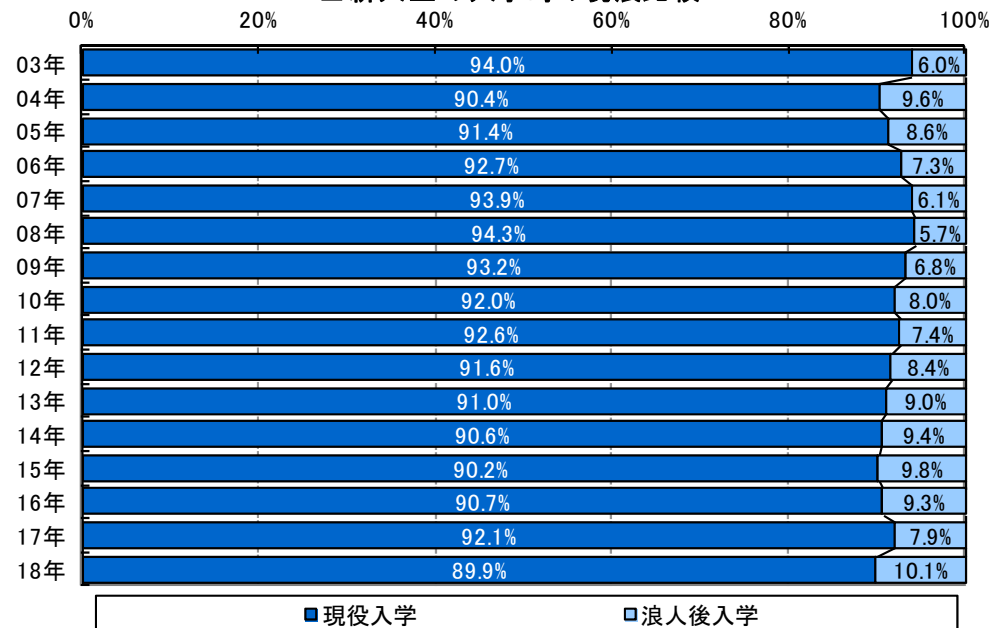
■ 新入生の出身高校課程比較



■ 新入生の入試の種類

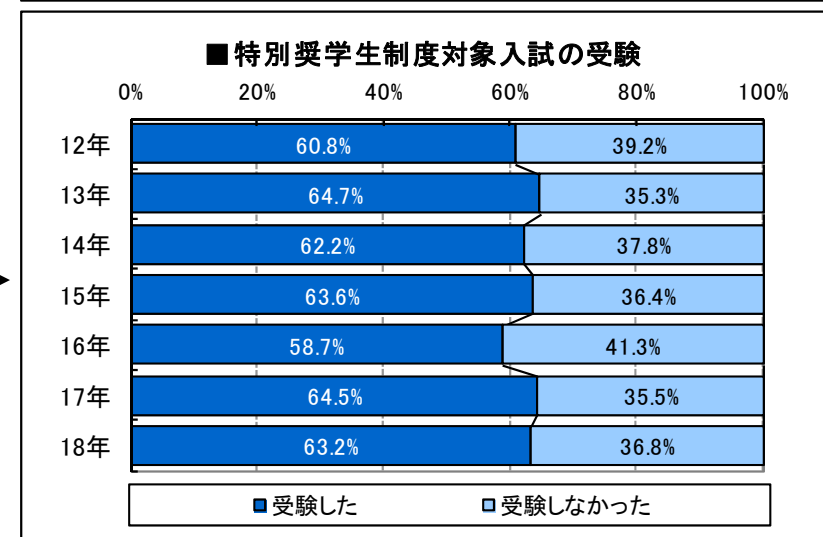
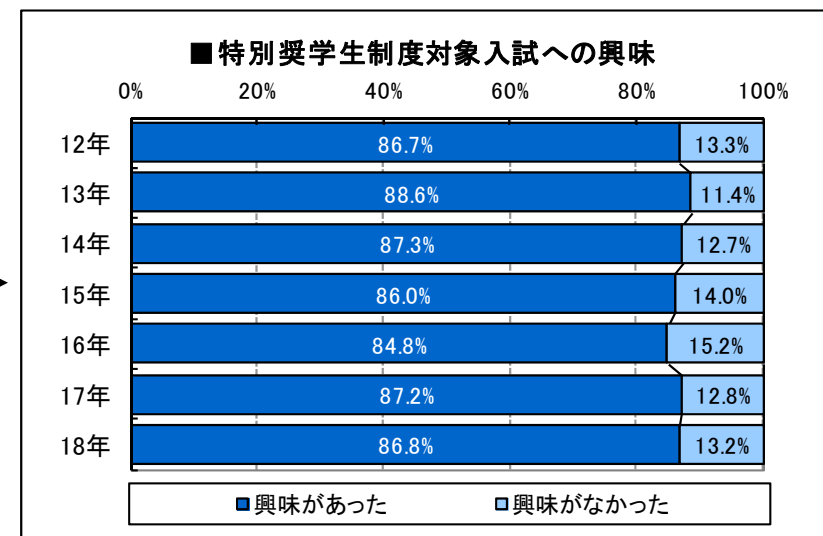
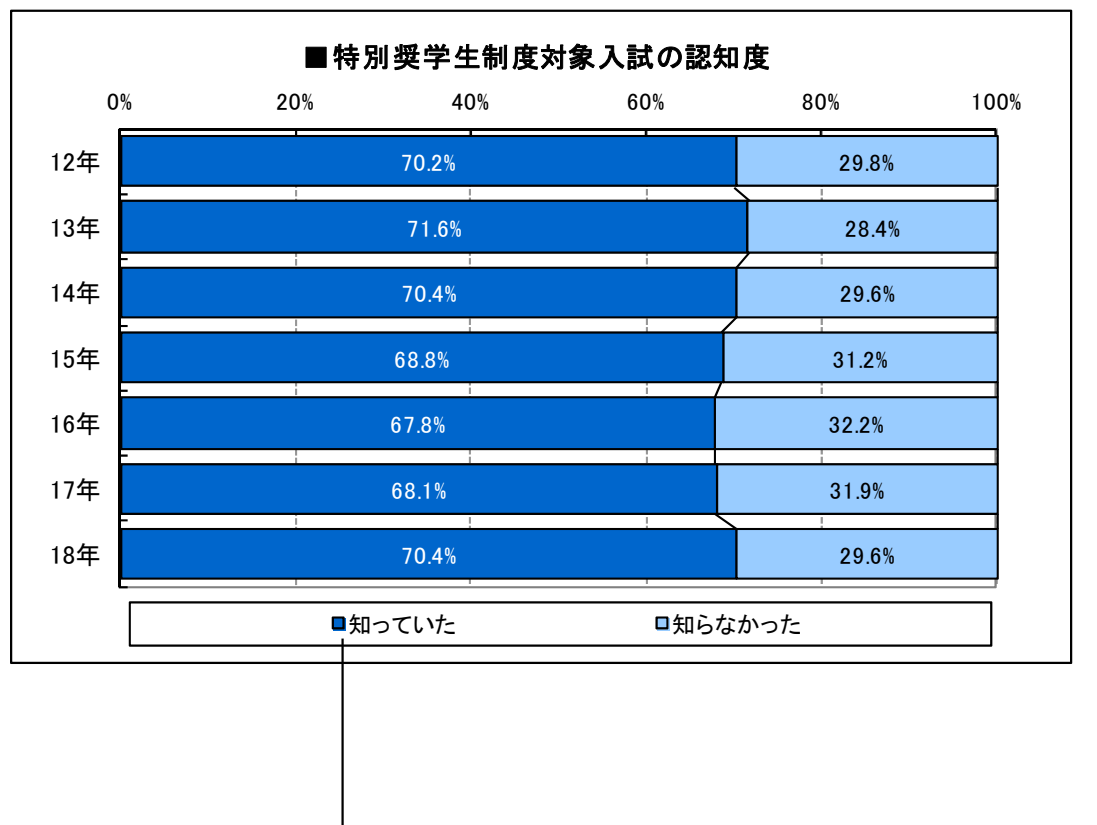


■ 新入生の入学時の現浪比較



■特別奨学生制度対象入試の認知度、興味、受験

- 「特別奨学生制度対象入試」では、「知っていた」が70.4%であり、前回は2.3ポイント上回って、4年ぶりに7割を超えた。
- 「特別奨学生制度対象入試」を「知っていた」と答えた学生に「特別奨学生制度対象入試」への興味を聞いたところ、「興味があった」が86.8%であり、前回は0.4ポイント下回っていた。
- 上記と同様に「特別奨学生制度対象入試の受験の有無」を聞いたところ、「受験した」という回答は63.2%で前回は1.3ポイント下回っていた。



■過去4年間の出身地一覧

■15年 出身地一覧

■16年 出身地一覧

■17年 出身地一覧

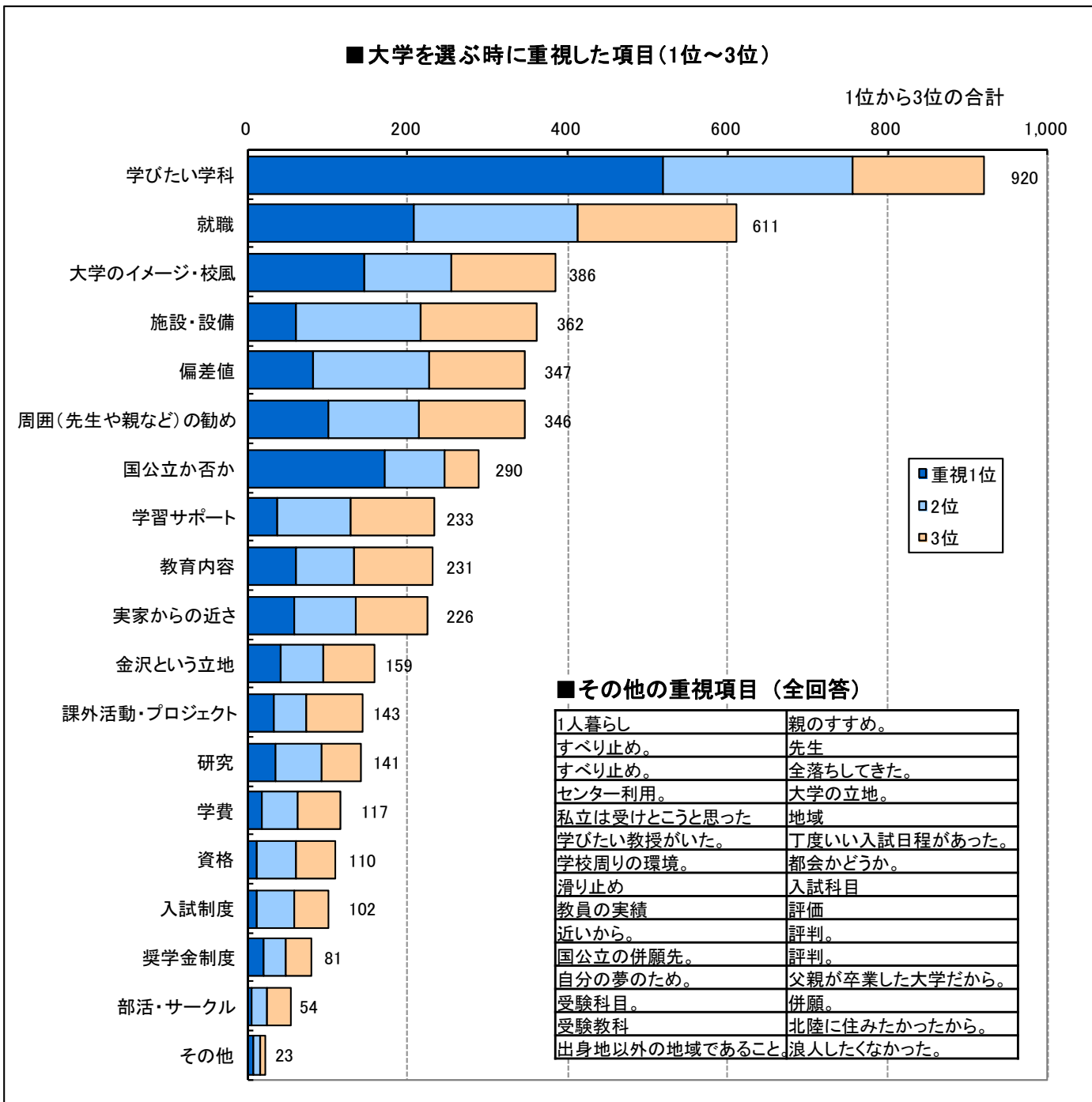
■18年 出身地一覧

都道府県	人数	割合	大分類	詳細分類	都道府県	人数	割合	大分類	詳細分類	都道府県	人数	割合	大分類	詳細分類	都道府県	人数	割合	大分類	詳細分類						
北海道	16	0.8%	東日本	北海道・東北	北海道	16	1.0%	東日本	北海道・東北	北海道	15	1.0%	東日本	北海道・東北	北海道	20	1.2%	東日本	北海道・東北						
青森県	3	0.2%			青森県	4	0.2%			青森県	6	0.4%			青森県	8	0.5%								
岩手県	3	0.2%			岩手県	6	0.4%			岩手県	4	0.3%			岩手県	4	0.2%								
宮城県	10	0.5%			宮城県	5	0.3%			宮城県	7	0.5%			宮城県	6	0.4%								
秋田県	4	0.2%			秋田県	3	0.2%			秋田県	9	0.6%			秋田県	5	0.3%								
山形県	16	0.8%			山形県	19	1.2%			山形県	16	1.0%			山形県	8	0.5%								
福島県	11	0.6%			63 3.8%	関東	福島県			7	0.4%	60 3.7%			関東	福島県	6			0.4%	63 4.1%	関東	福島県	10	0.6%
茨城県	11	0.6%					茨城県			8	0.5%					茨城県	9			0.6%			茨城県	13	0.8%
栃木県	5	0.3%					栃木県			7	0.4%					栃木県	10			0.6%			栃木県	9	0.5%
群馬県	29	1.5%					群馬県			25	1.6%					群馬県	24			1.6%			群馬県	42	2.6%
埼玉県	6	0.3%					埼玉県			3	0.2%					埼玉県	16			1.0%			埼玉県	9	0.5%
千葉県	5	0.3%					千葉県			5	0.3%					千葉県	4			0.3%			千葉県	6	0.4%
東京都	10	0.5%			73 4.4%	甲信越	東京都			15	0.9%	72 4.5%			甲信越	東京都	6			0.4%	74 4.8%	甲信越	東京都	13	0.8%
神奈川県	7	0.4%					神奈川県			9	0.6%					神奈川県	5			0.3%			神奈川県	10	0.6%
新潟県	129	6.8%	新潟県	135			8.4%	新潟県	130	8.4%	新潟県		104	6.3%											
山梨県	7	0.4%	384 23.1%	北陸	山梨県	10	0.6%	396 24.7%	北陸	山梨県	7	0.5%	249 16.2%	北陸	山梨県	9	0.5%								
長野県	112	5.9%			長野県	119	7.4%			長野県	112	7.3%			長野県	143	8.7%								
富山県	185	9.8%			725 43.6%	北陸	富山県			206	12.8%	717 44.7%			北陸	富山県	166	10.8%	709 46.0%	北陸	富山県	211	12.9%		
石川県	448	23.8%					石川県			399	24.9%					石川県	438	28.4%			石川県	402	24.5%		
福井県	92	4.9%			283 17.0%	東海	福井県			112	7.0%	256 16.0%			東海	福井県	105	6.8%	243 15.8%	東海	福井県	94	5.7%		
岐阜県	62	3.3%					岐阜県			72	4.5%					岐阜県	67	4.3%			岐阜県	84	5.1%		
静岡県	103	5.5%					静岡県			89	5.5%					静岡県	63	4.1%			静岡県	66	4.0%		
愛知県	75	4.0%					愛知県			62	3.9%					愛知県	73	4.7%			愛知県	74	4.5%		
三重県	43	2.3%					三重県			33	2.1%					三重県	40	2.6%			三重県	45	2.7%		
滋賀県	48	2.5%					滋賀県			33	2.1%					滋賀県	47	3.0%			滋賀県	36	2.2%		
京都府	33	1.7%	170 10.2%	関西	京都府	27	1.7%	159 9.9%	関西	京都府	24	1.6%	126 8.2%	関西	京都府	24	1.5%								
大阪府	21	1.1%			大阪府	26	1.6%			大阪府	16	1.0%			大阪府	14	0.9%								
兵庫県	44	2.3%			兵庫県	55	3.4%			兵庫県	28	1.8%			兵庫県	51	3.1%								
奈良県	11	0.6%			奈良県	5	0.3%			奈良県	6	0.4%			奈良県	3	0.2%								
和歌山県	13	0.7%			和歌山県	13	0.8%			和歌山県	5	0.3%			和歌山県	8	0.5%								
鳥取県	4	0.2%			58 3.5%	中国・四国	鳥取県			4	0.2%	47 2.9%			中国・四国	鳥取県	6	0.4%	49 3.2%	中国・四国	鳥取県	9	0.5%		
島根県	10	0.5%					島根県			5	0.3%					島根県	3	0.2%			島根県	6	0.4%		
岡山県	12	0.6%					岡山県			11	0.7%					岡山県	9	0.6%			岡山県	6	0.4%		
広島県	9	0.5%					広島県			6	0.4%					広島県	10	0.6%			広島県	10	0.6%		
山口県	6	0.3%					山口県			4	0.2%					山口県	3	0.2%			山口県	6	0.4%		
徳島県	3	0.2%	徳島県	9			0.6%	徳島県	7	0.5%	徳島県		9	0.5%											
香川県	7	0.4%	香川県	2			0.1%	香川県	2	0.1%	香川県		4	0.2%											
愛媛県	5	0.3%	愛媛県	3			0.2%	愛媛県	6	0.4%	愛媛県		2	0.1%											
高知県	2	0.1%	高知県	3			0.2%	高知県	3	0.2%	高知県		3	0.2%											
福岡県	16	0.8%	260 15.6%	九州・沖縄			福岡県	5	0.3%	22 1.4%	九州・沖縄		福岡県	7		0.5%	17 1.1%	九州・沖縄			福岡県	8	0.5%		
佐賀県	1	0.1%			佐賀県	0	0.0%	佐賀県	1			0.1%	佐賀県	1	0.1%										
長崎県	1	0.1%			長崎県	3	0.2%	長崎県	2			0.1%	長崎県	4	0.2%										
熊本県	1	0.1%			熊本県	5	0.3%	熊本県	4			0.3%	熊本県	6	0.4%										
大分県	0	0.0%			大分県	1	0.1%	大分県	0			0.0%	大分県	1	0.1%										
宮崎県	2	0.1%			宮崎県	1	0.1%	宮崎県	1			0.1%	宮崎県	3	0.2%										
鹿児島	2	0.1%			鹿児島	3	0.2%	鹿児島	1			0.1%	鹿児島	2	0.1%										
沖縄県	9	0.5%			沖縄県	4	0.2%	沖縄県	1			0.1%	沖縄県	5	0.3%										
不明	12	0.6%			不明	7	0.4%	不明	7			0.4%	不明	25	1.5%										
合計	1,664	88.2%			1,664	100.0%	1,664	100.0%	1,604			100.0%	1,604	100.0%	1,541	100.0%			1,541	100.0%	1,641	100.0%	1,641	100.0%	

<13-3> 大学選びに関して

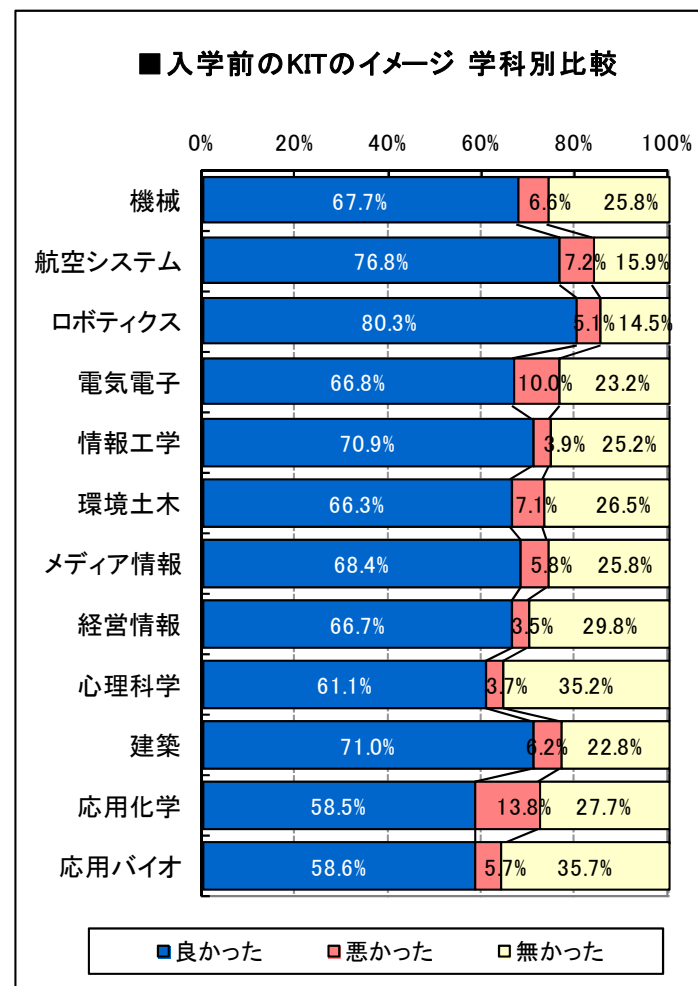
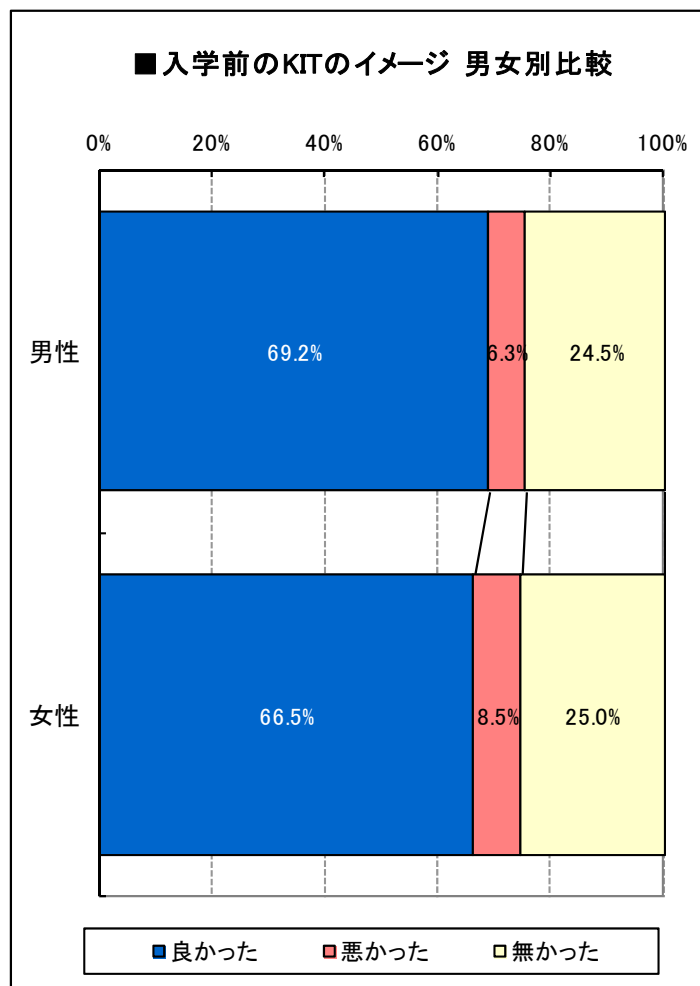
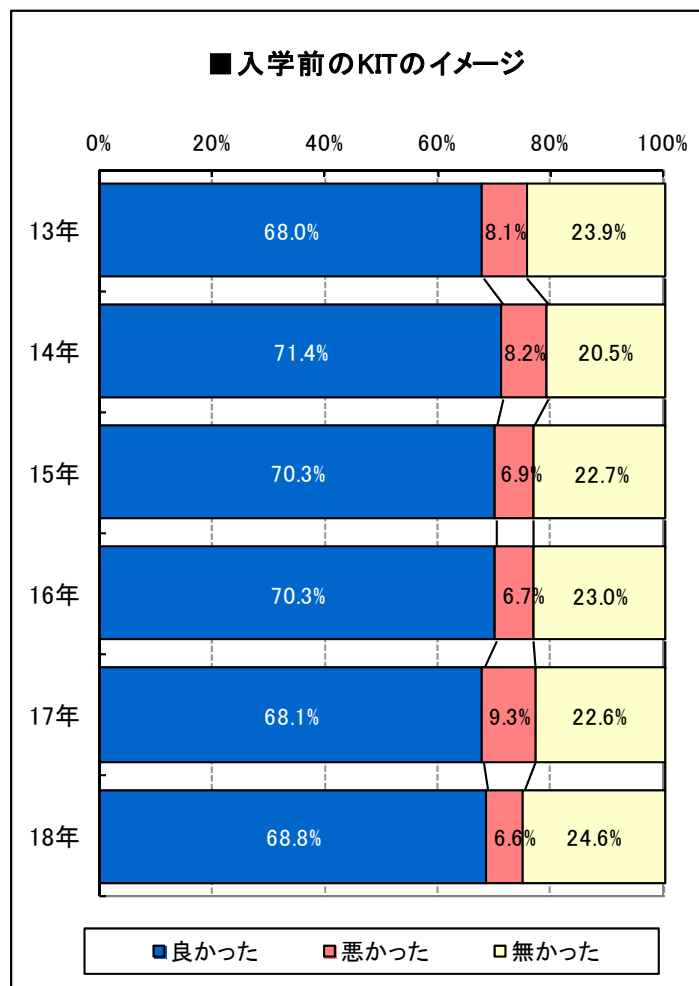
■ 大学を選ぶ時に重視した項目

- 「大学を選ぶ時に重視した項目」は今回から聞いている項目である。グラフでは「重視1位」から「3位」までを色分けし、回答実数の積み上げ形式グラフとしている。
- 回答の合計値が最も多かったのは「学びたい学科」であり、「重視1位」の回答数も多く、大学選びの大きなポイントになっていることがわかった。
- 2番目の重視項目は「就職」であったが、3番目以降とは大きな差がついており、強く重視されているようであった。
- 3番目から6番目はほぼ横並びであったが、項目としては「大学のイメージ・校風」「施設・設備」「偏差値」「周囲(先生や親など)の勧め」というものであった。
- 順位としては7番目となるが、「国公立か否か」で「重視1位」が多い点も特徴的であり、一部の学生がこの点に強くこだわっている様子もうかがえた。



■入学前のKITのイメージ

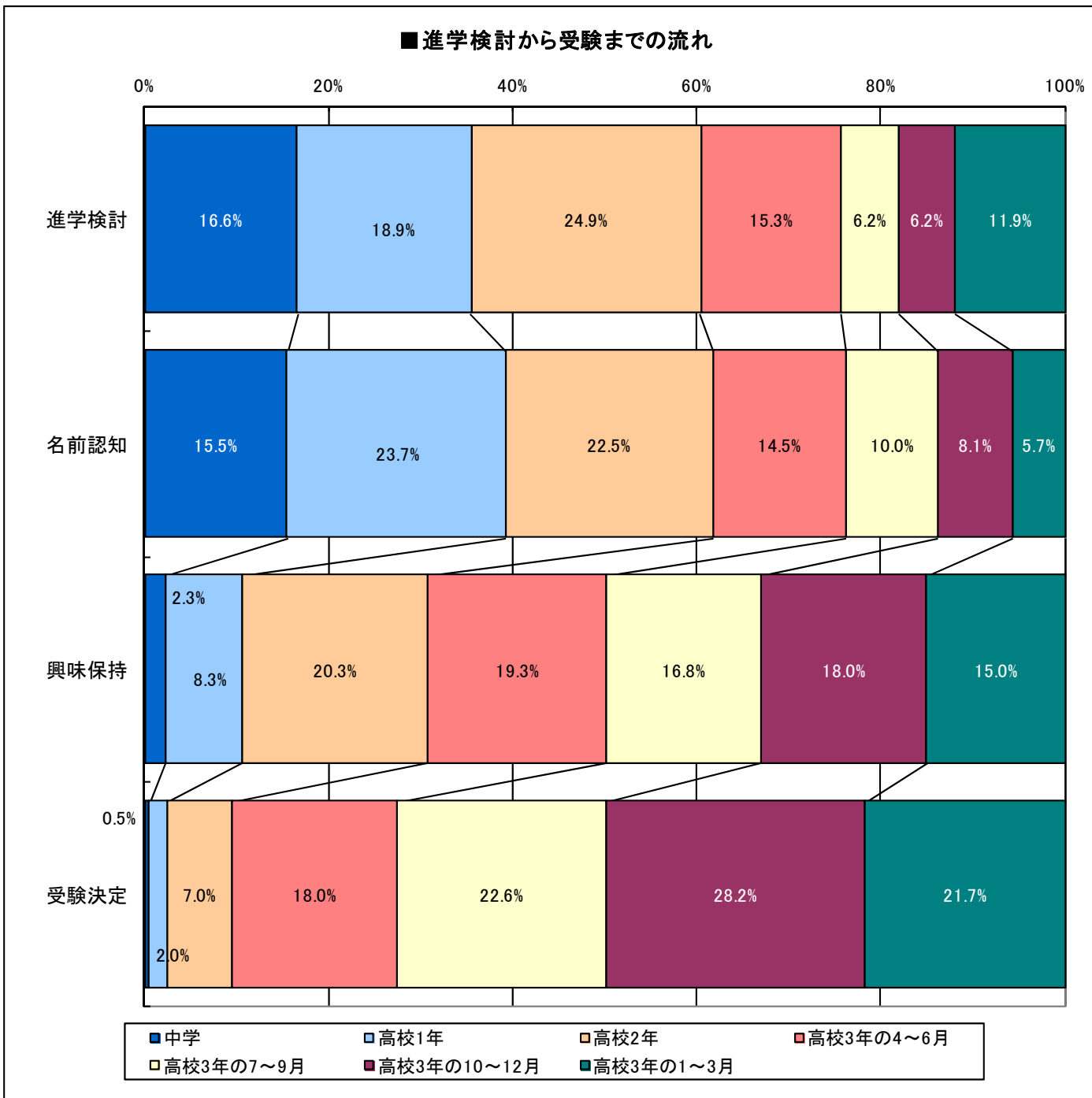
- 新生主に「入学前のKITのイメージ」を聞いたところ、「良かった」が68.8%、「悪かった」が6.6%、「無かった」が24.6%となっていた。以前と比較すると大きな差ではないが、「悪かった」の割合が過去最高であった前回から2.7ポイント減少していた。
- 男女別に「良かった」の割合を比較すると、「良かった」は「男性」で69.2%、「女性」で66.5%であった。そして、「悪かった」は「男性」で6.3%、「女性」で8.5%であり、差は少ないものの、「女性」の方が悪いイメージがわずかに多かった。
- 学科別に「良かった」の割合を比較すると、「ロボティクス」が80.3%で最も多く、次いで、「航空システム」が76.8%、「建築」が71.0%、「情報工学」が70.9%と続いていた。一方、最も少なかったのは「応用化学」の58.5%で、「応用化学」は「悪かった」も13.8%と多い点が目立っていた。



<13-4> 進学検討から受験までの流れに関して

■ 進学検討から受験までの流れ

- 「進学検討から受験までの流れ」は今回から加えた質問であるが、「進学検討」「名前認知」「興味保持」「受験決定」の4つのポイントの時期を、同じ選択肢で聞いている。
- 全体で目についたのは「進学検討」と「名前認知」の時期であり、微妙な差はあるものの同時に進行している様子がうかがえた。そして、「高校2年」までの合計を見ると、いずれも6割が「進学検討」「名前認知」に至っていることがわかる。
- 上記に次ぐステップである「興味保持」の時期は遅くなっており、「高校2年」までの合計は30.9%で、約3割であった。また、「高校3年の10～12月」と「高校3年の1～3月」の合計は33.0%であり、これも3割であった。
- 「高校2年」までの合計は9.5%で1割に満たず、9割が高校3年になって受験を決定していることがわかった。そして、高校3年の「10～12月」と「1～3月」の合計は49.9%で、ほぼ5割を占めていた。



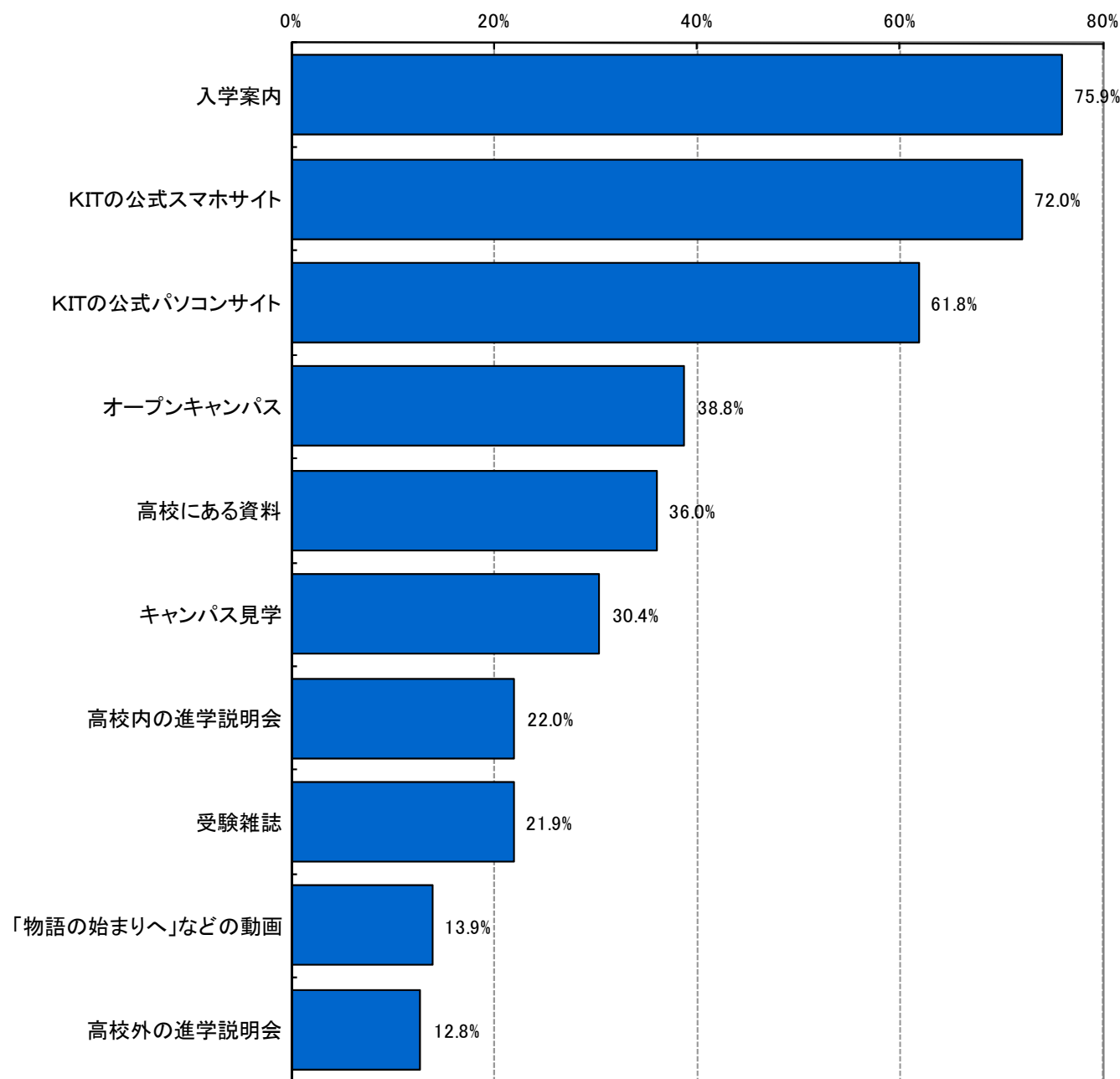
※進学検討: 大学への進学を意識し始めた時期
 名前認知: 金沢工大の名前を知った時期
 興味保持: 金沢工大に興味を持った時期
 受験決定: 金沢工大の受験を決めた時期

<13-5> 受験媒体に関して

■ 受験媒体の利用状況

- 「受験媒体の利用状況」は今回から選択肢式にして聞いている。
- 最も利用経験者が多かったのは「入学案内」の75.9%であり、次いで、「KITの公式スマホサイト」が72.0%、「KITの公式パソコンサイト」が61.8%と続いており、ここまでの媒体は5割以上が利用する主要な媒体と言えそうであった。また、Web系ではスマホサイトの方が利用経験者が多いことがわかった。
- 一方、利用経験者が少なかったのは、「高校外の進学説明会」「物語の始まりへなどの動画」であり、「受験雑誌」も2割程度と少なかった。

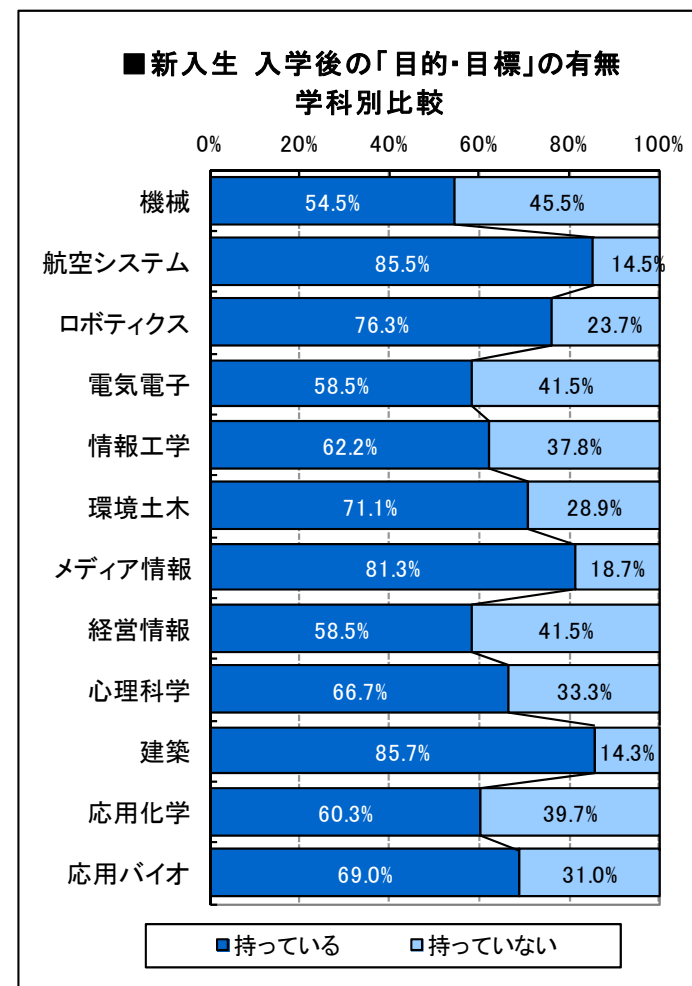
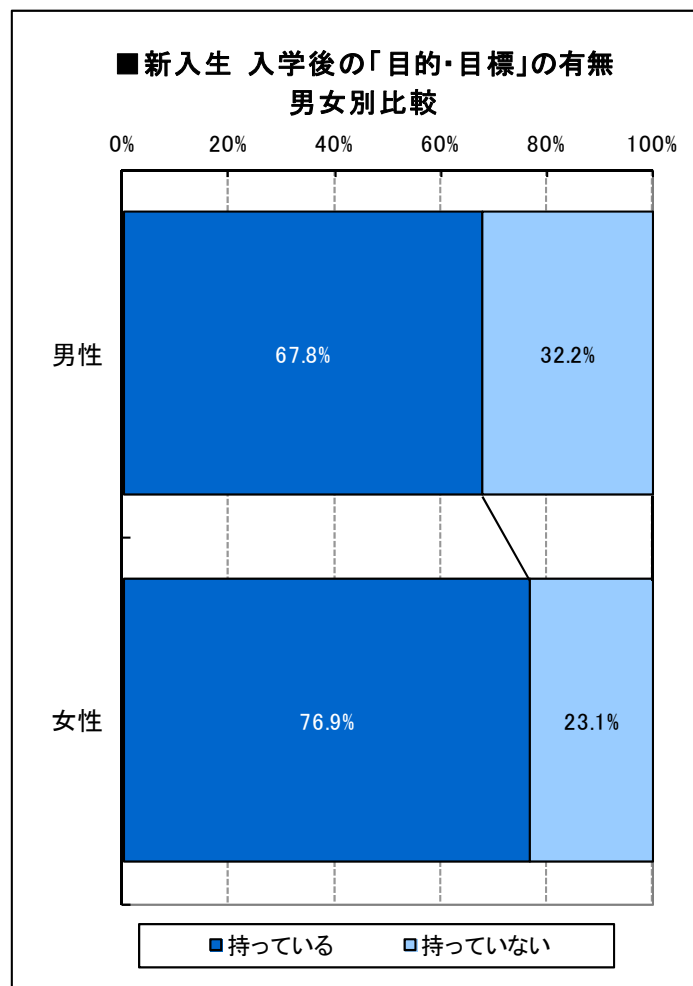
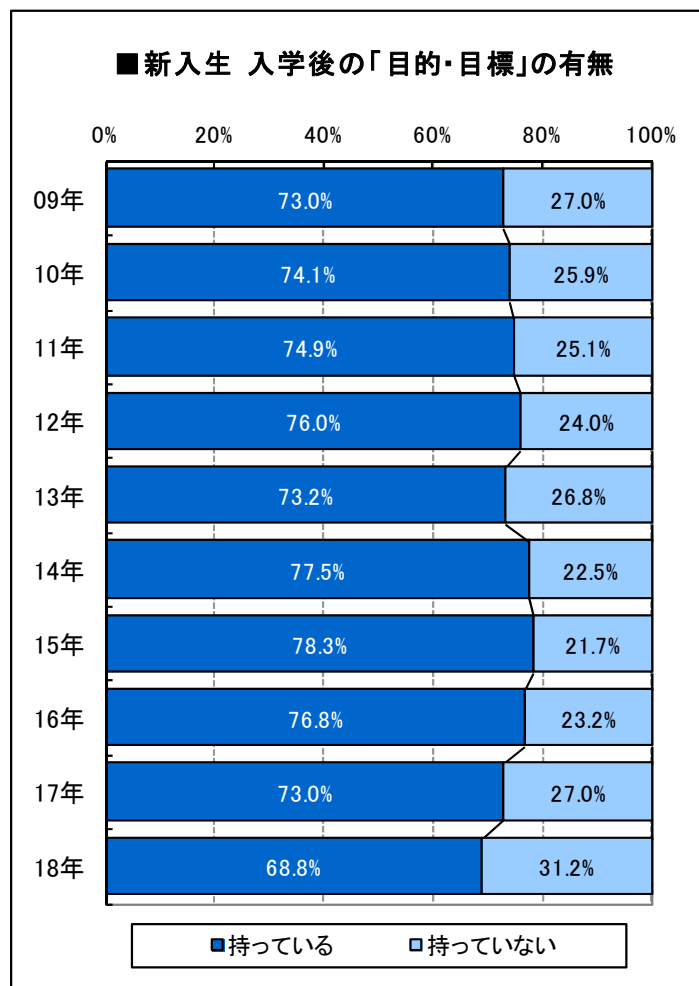
■ 受験媒体の利用の利用経験者割合



<13-6>入学後の目的・目標、期待に関して

■入学後の目的・目標の有無

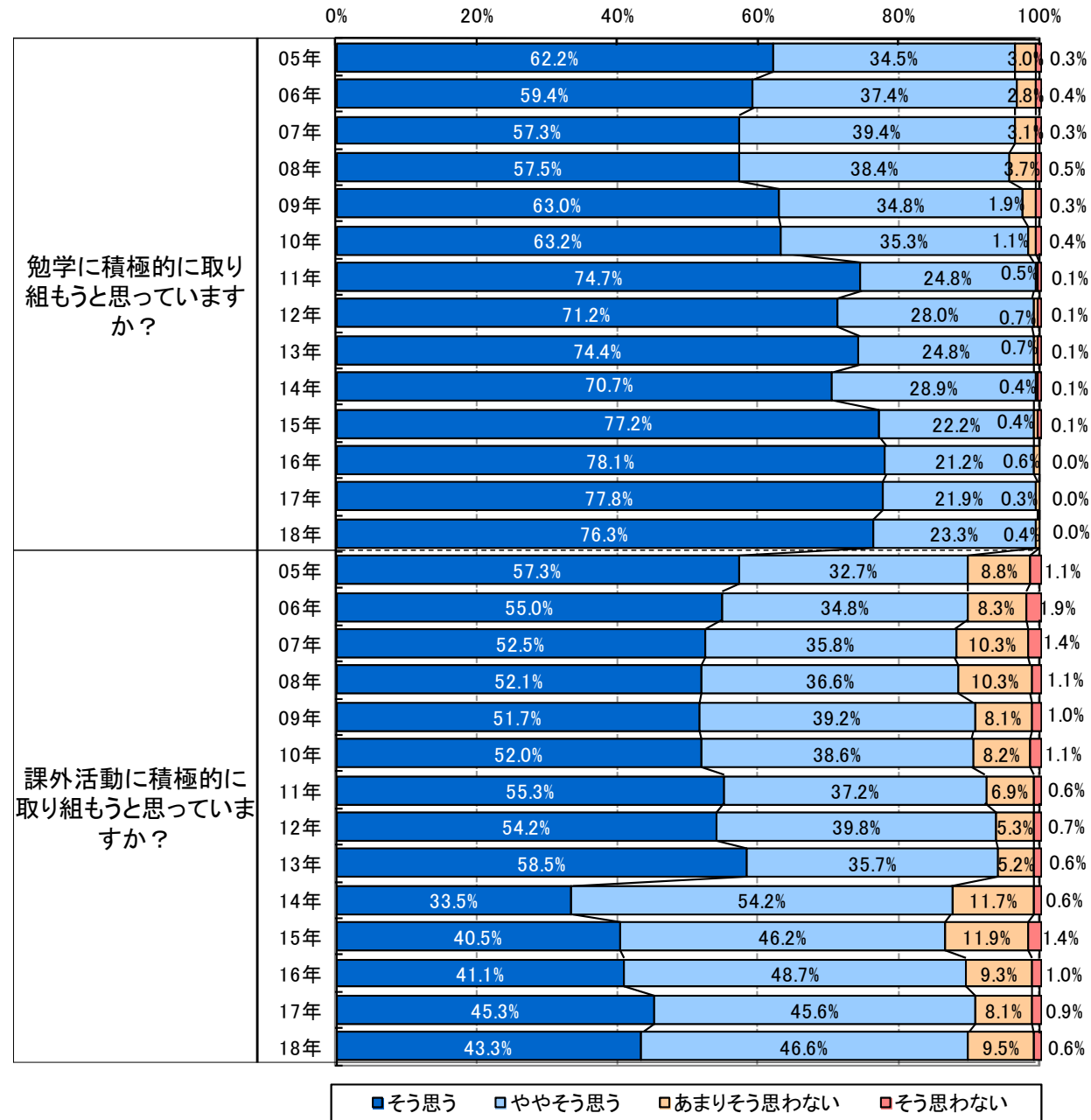
- 「大学に入ってからこれがやりたいという目的・目標を持っていますか？」という質問に対しては、「持っている」が68.8%で、前回より4.2ポイント低下して過去最低となった。
- 男女別に「持っている」の割合を比較すると、「男性」は67.8%、「女性」は76.9%であり、「女性」の方が9.1ポイント多かった。
- 学科別に「持っている」の割合を比較すると、「建築」が85.7%で最も多く、次いで、「航空システム」が85.5%、「メディア情報」が81.3%、「ロボティクス」が76.3%が続いていた。一方、最も少なかったのは「機械」の54.5%であり、「建築」との差は31.2ポイントであった。



■KITへの期待、心構え

- 13年までの「勉強に積極的に取り組もうと思っていますか？」という質問文は、14年からは「勉学に積極的に取り組もうと思っていますか？」と聞いており、同様に「勉強以外に積極的に取り組めるものを探そうと思っていますか？」という質問文は、14年から「課外活動に積極的に取り組もうと思っていますか？」と、少しニュアンスが変わっているため、結果に対する影響も考えられる。
- 「勉学に積極的に取り組もうと思っていますか？」という質問では、「そう思う」が76.3%、「ややそう思う」が23.3%であり、合計すると99.6%となり、ほぼ全員が勉学に積極的に取り組みたいと答えていた。そして、この傾向は11年あたりから継続していた。
- 「課外活動に積極的に取り組もうと思っていますか？」という質問では、「そう思う」が43.3%、「ややそう思う」が46.6%であり、合わせると89.9%が課外活動に積極的に取り組みたいと答えていた。質問文が変わった14年には「そう思う」が一旦減少し、それ以降は増加する傾向が続いていたが、今回はわずかに前回を下回った。

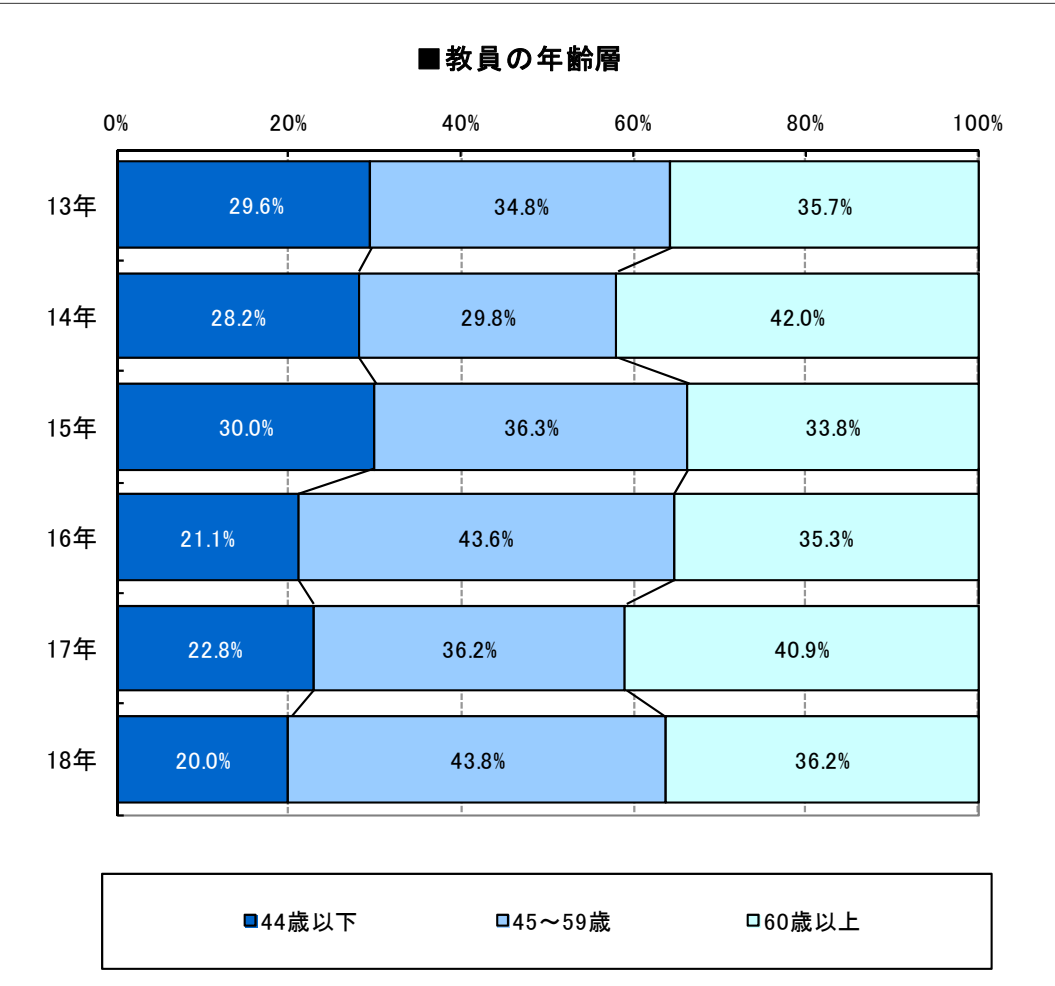
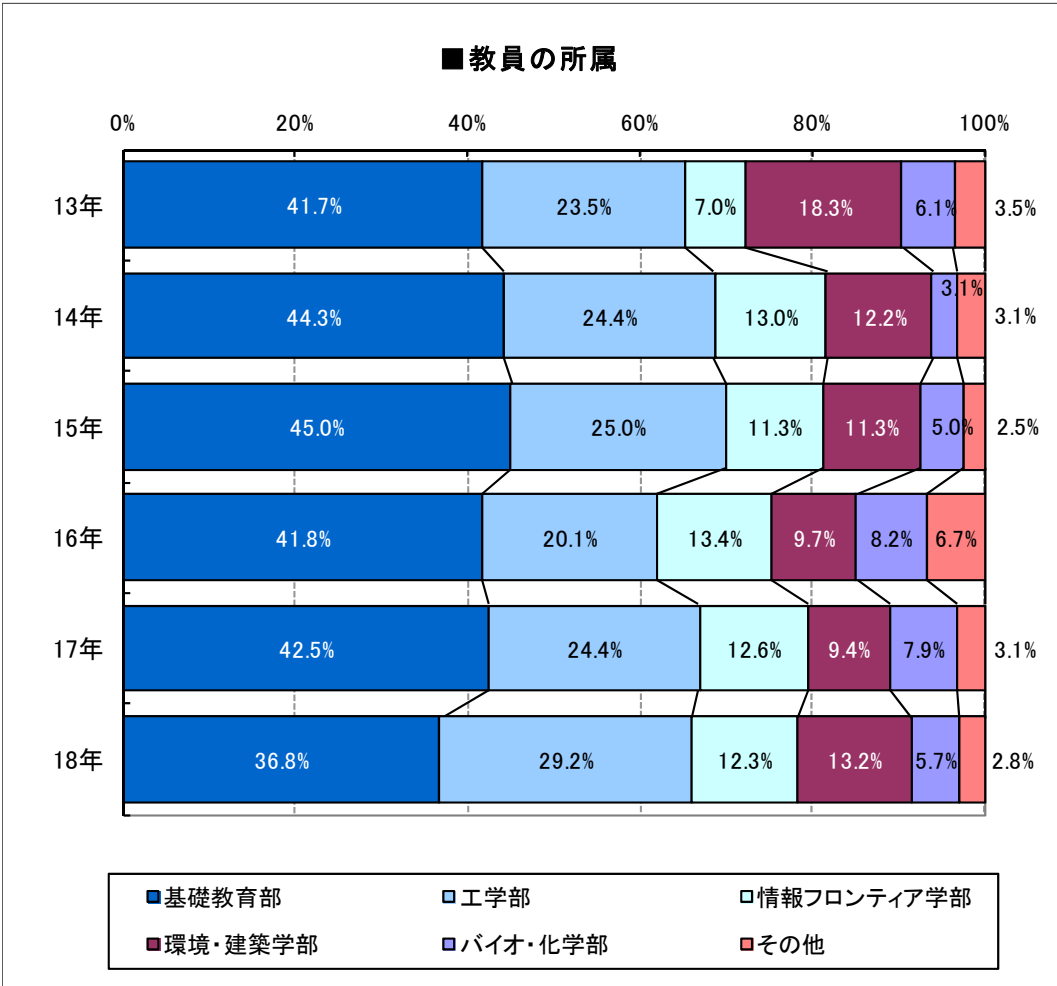
■新入生 KITへの期待、心構え



<14-1>教職員の基本属性

■教員の基本属性

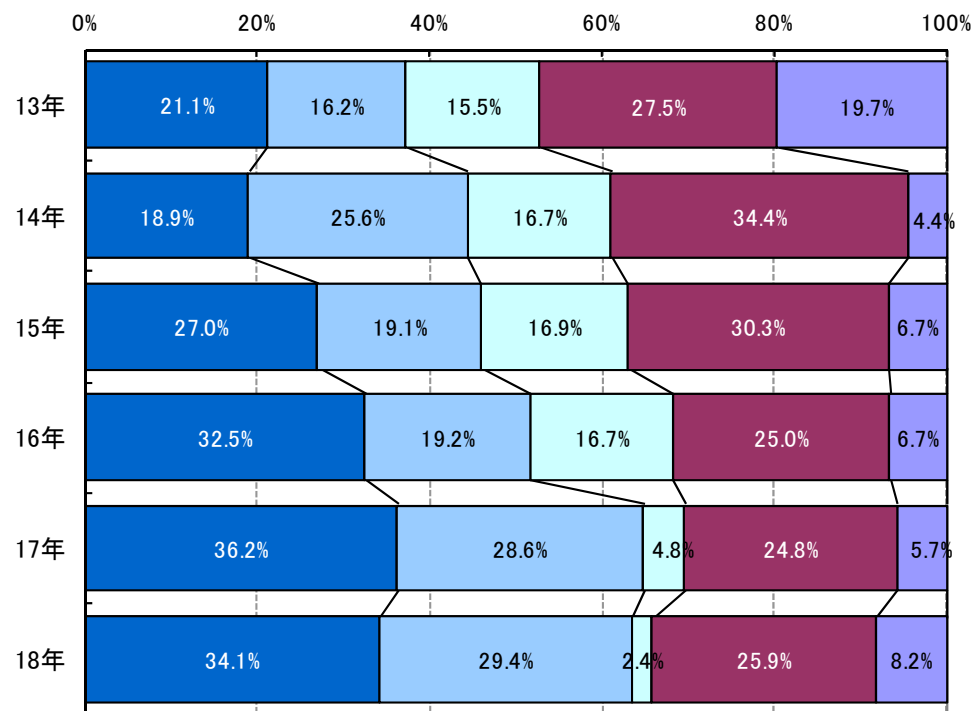
- 「教員の所属」に関しては、「基礎教育部」が36.8%、「工学部」が29.2%、「情報フロンティア学部」が12.3%、「環境・建築学部」が13.2%、「バイオ・化学部」が5.7%となっており、以前と比較すると「基礎教育部」が過去最低となり、「工学部」が過去最高となった。
- 「教員の年齢層」を見ると、「44歳以下」が20.0%、「45歳～59歳」が43.8%、「60歳以上」が36.2%であり、以前と比較すると「44歳以下」が過去最低となり、「45～59歳」が過去最高となった。



■ 職員の基本属性

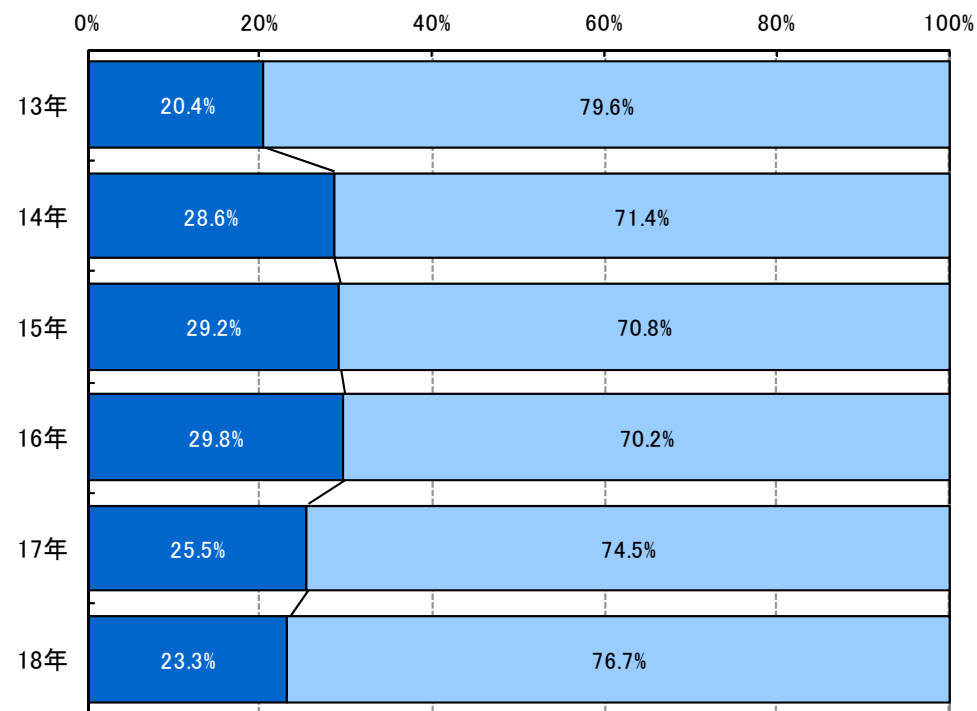
- 「職員の所属」では「法人本部」が34.1%、「事務局」が29.4%、「産学連携機構」が2.4%、「教育支援機構」が25.9%であり、以前と比較すると「法人本部」の増加傾向が止まり、「事務局」が過去最高となった。
- 職員の「職制」では「管理職」が23.3%、「非管理職」が76.7%であり、16年から「管理職」の減少傾向が続いていた。

■ 職員の所属



■ 法人本部 ■ 事務局 ■ 産学連携機構 ■ 教育支援機構 ■ その他

■ 職員の職制



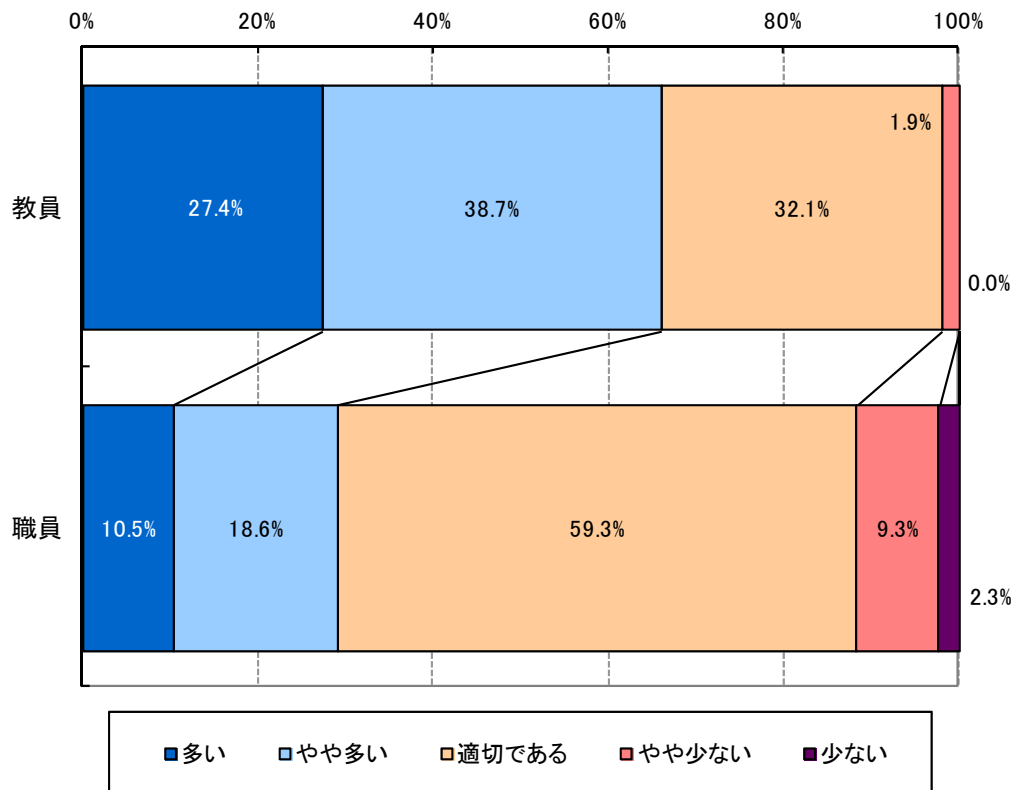
■ 管理職 ■ 非管理職

<14-2>業務の状況に関して

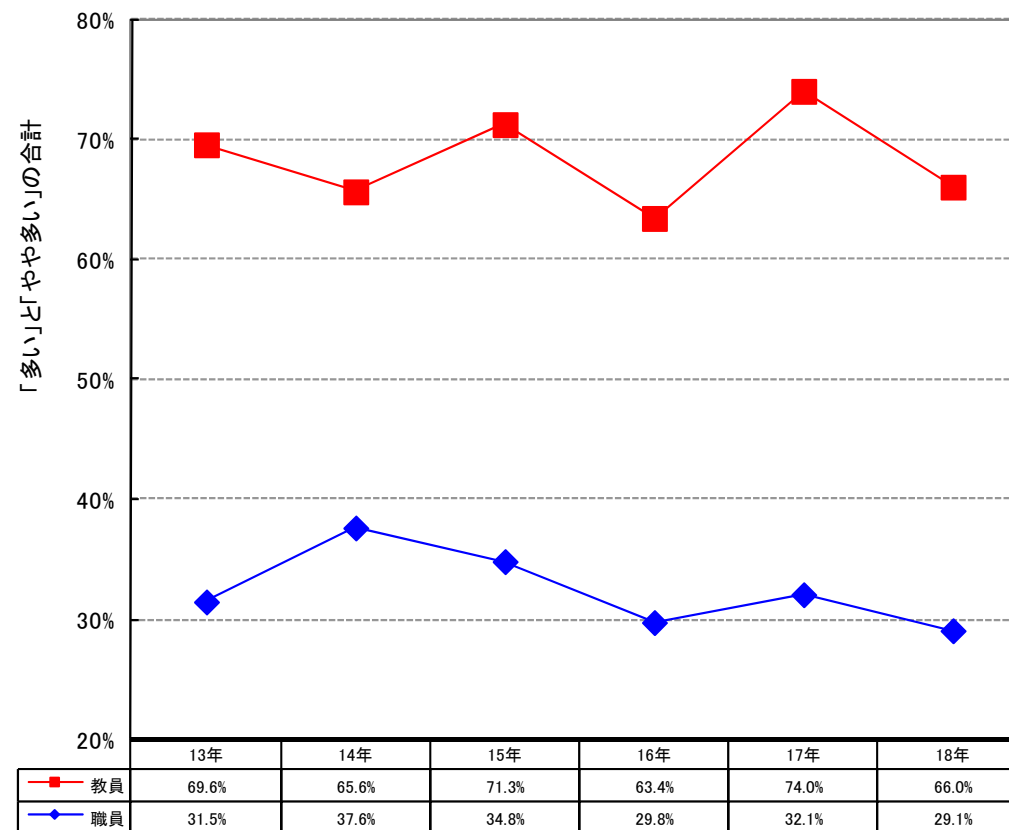
■自分自身の業務量

- 「あなた自身の業務量をどう感じますか？」という問いには、「教員」では「多い」が27.4%、「やや多い」が38.7%であり、合わせると66.1%が業務量が多いと感じていた。一方、少ないと感じていたのは「やや少ない」の1.9%だけであり、「適切である」は32.1%であった。
- 「職員」では「多い」が10.5%、「やや多い」が18.6%であり、合わせると29.1%であった。一方、業務が少ないという意見は合計で11.6%であり、「適切である」は59.3%と半数以上となった。
- 年度別比較は、「多い」と「やや多い」の合計で比較している。まず、「教員」は前回は8.0ポイント下回っていたが、継続的な変化は見られなかった。「職員」も前回は3.0ポイント下回っており、変化は小さく例外はあるが、14年から継続的に低下が続いていると言える。

■あなた自身の業務の業務量をどう感じますか？



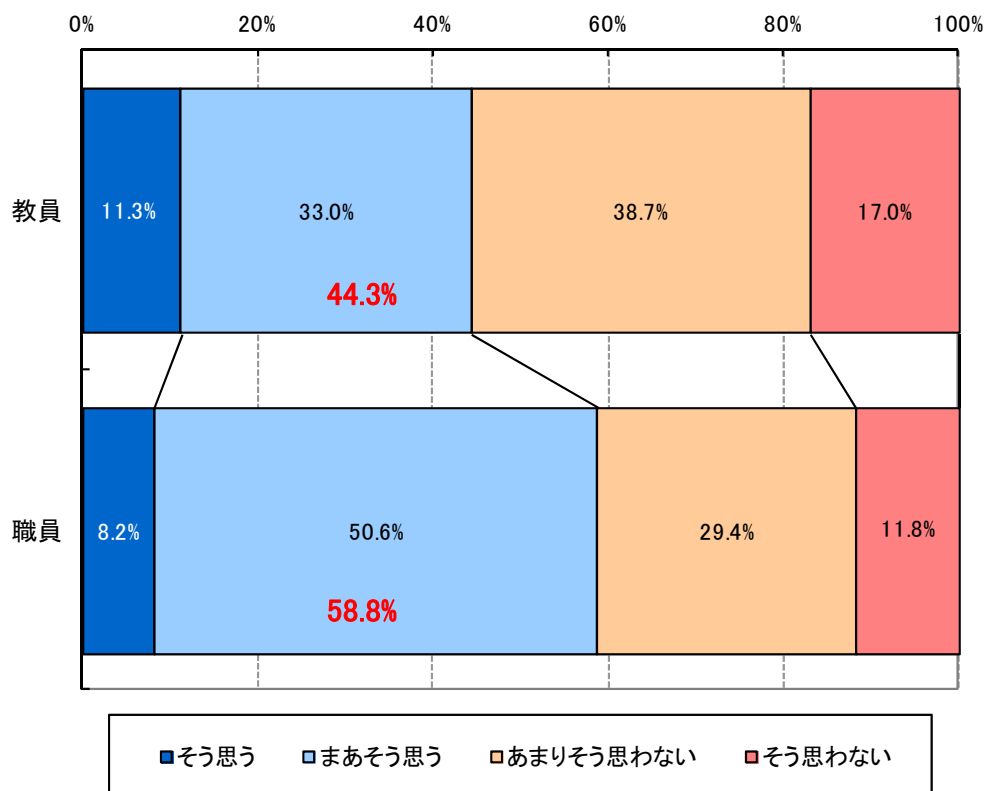
■教職員の業務量評価 年度別比較



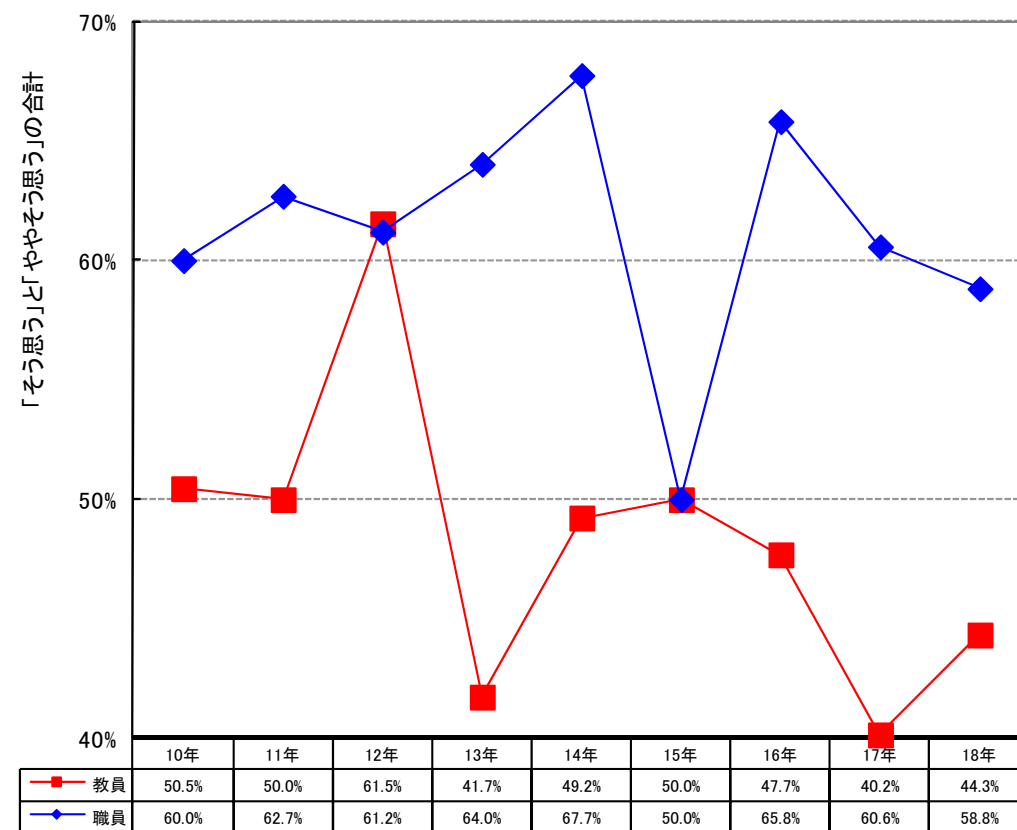
■ 自分自身の業務改善状況

- 「あなた自身の業務は昨年度より改善されていますか？」という問いには、「教員」では「そう思う」が11.3%、「まあそう思う」が33.0%であり、合わせると44.3%が改善が進んでいると回答していた。そして、「職員」では「そう思う」が8.2%、「まあそう思う」が50.6%で、合わせると58.8%となり、「教員」を14.5ポイント上回っていた。
- 年度別に肯定的な意見の合計を比較したところ、「教員」は前回は4.1ポイント上回り、「職員」は1.8ポイント下回っており、いずれも継続的な傾向は見られなかった。

■ あなた自身の業務は昨年度より改善されていますか？



■ 業務の改善状況 年度別比較

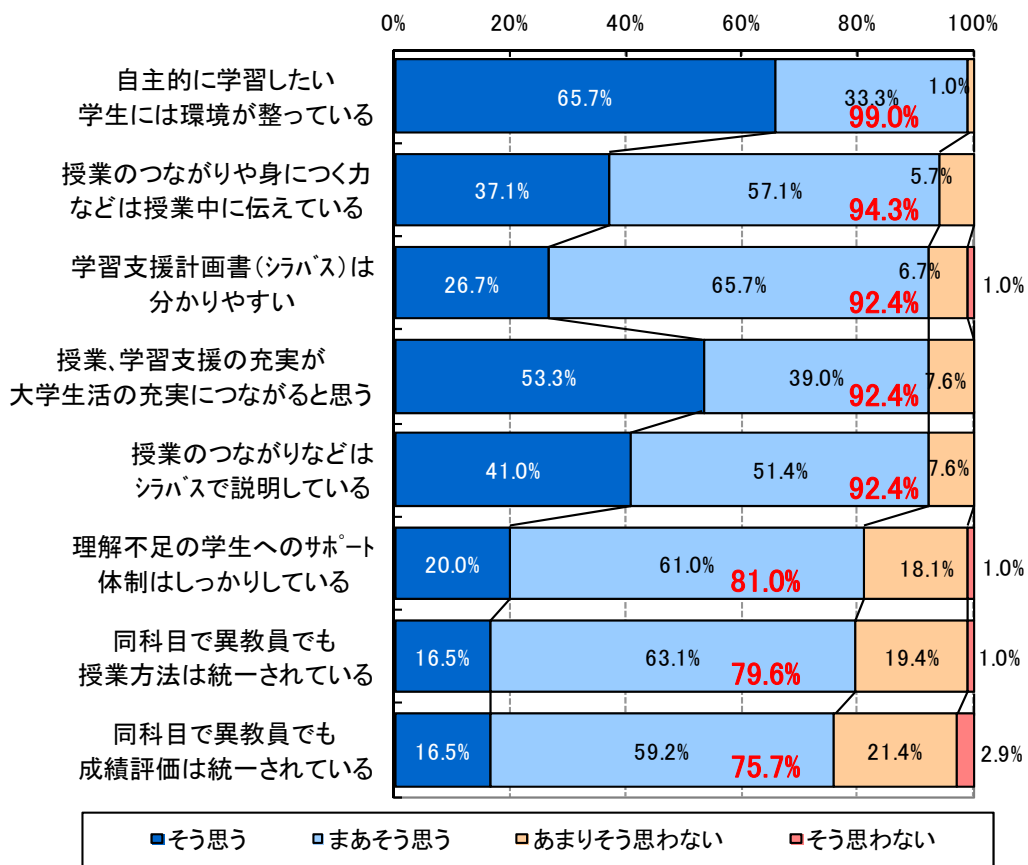


<14-3>教員の授業および学習支援の自己評価

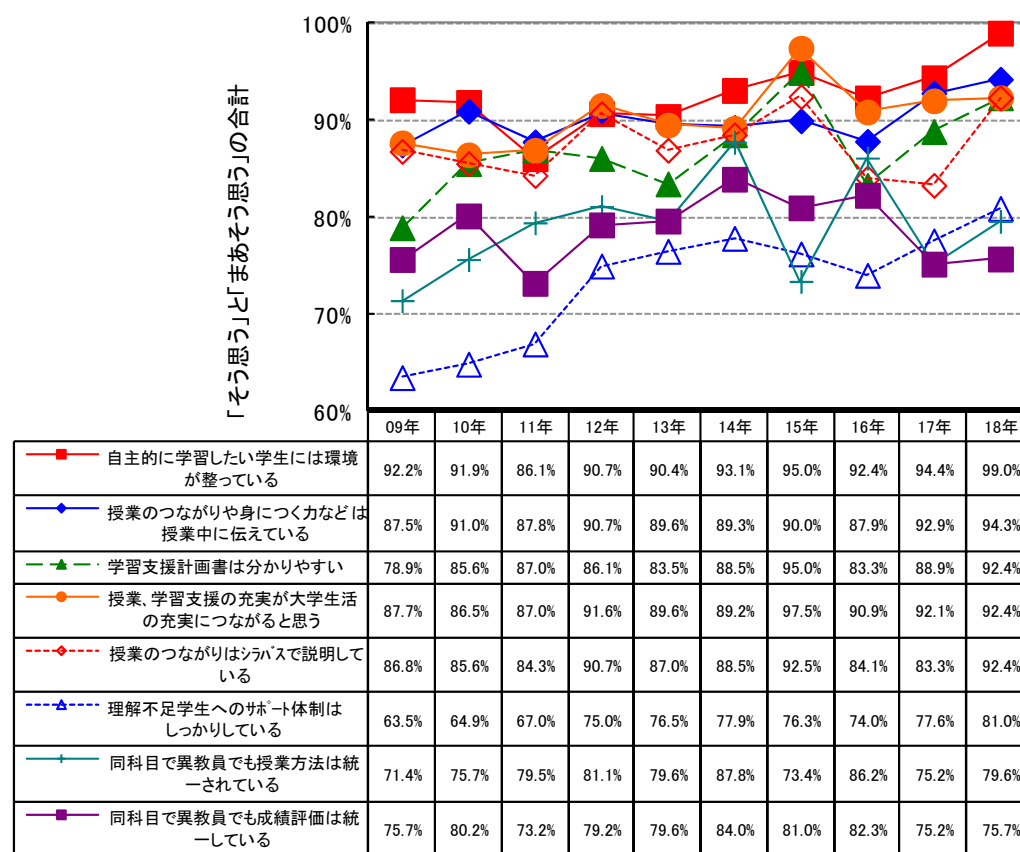
■教員の授業および学習支援の自己評価

- 教員の授業および学習支援の自己評価では、「自主的に学習したい学生には環境が整っている」で「そう思う」が65.7%と半数を超えており、「まあそう思う」の33.3%を加えると99.0%と、ほぼ全員が肯定的な意見であった。そして、「授業のつながりや身につく力などは授業中に伝えている」「学習支援計画書(シラバス)は分かりやすい」「授業、学習支援の充実が大学生活の充実につながると思う」「授業のつながりなどはシラバスで説明している」の4項目でも肯定的な意見が9割を超えていた。一方、「同科目で異教員でも成績評価は統一されている」と「同科目で異教員でも授業方法は統一されている」は肯定的な意見が8割弱であり、やや自己評価は低かった。
- 年度別比較を見ると、すべての項目が前回は上回っていた。特に「授業のつながりなどはシラバスで説明している」は前回は9.0ポイント上回って過去最高に近い自己評価となっていた。他に「自主的に学習したい学生には環境が整っている」「授業のつながりや身につく力などは授業中に伝えている」「理解不足の学生へのサポート体制はしっかりしている」も過去最高となった。

■教員の授業および学習支援の自己評価



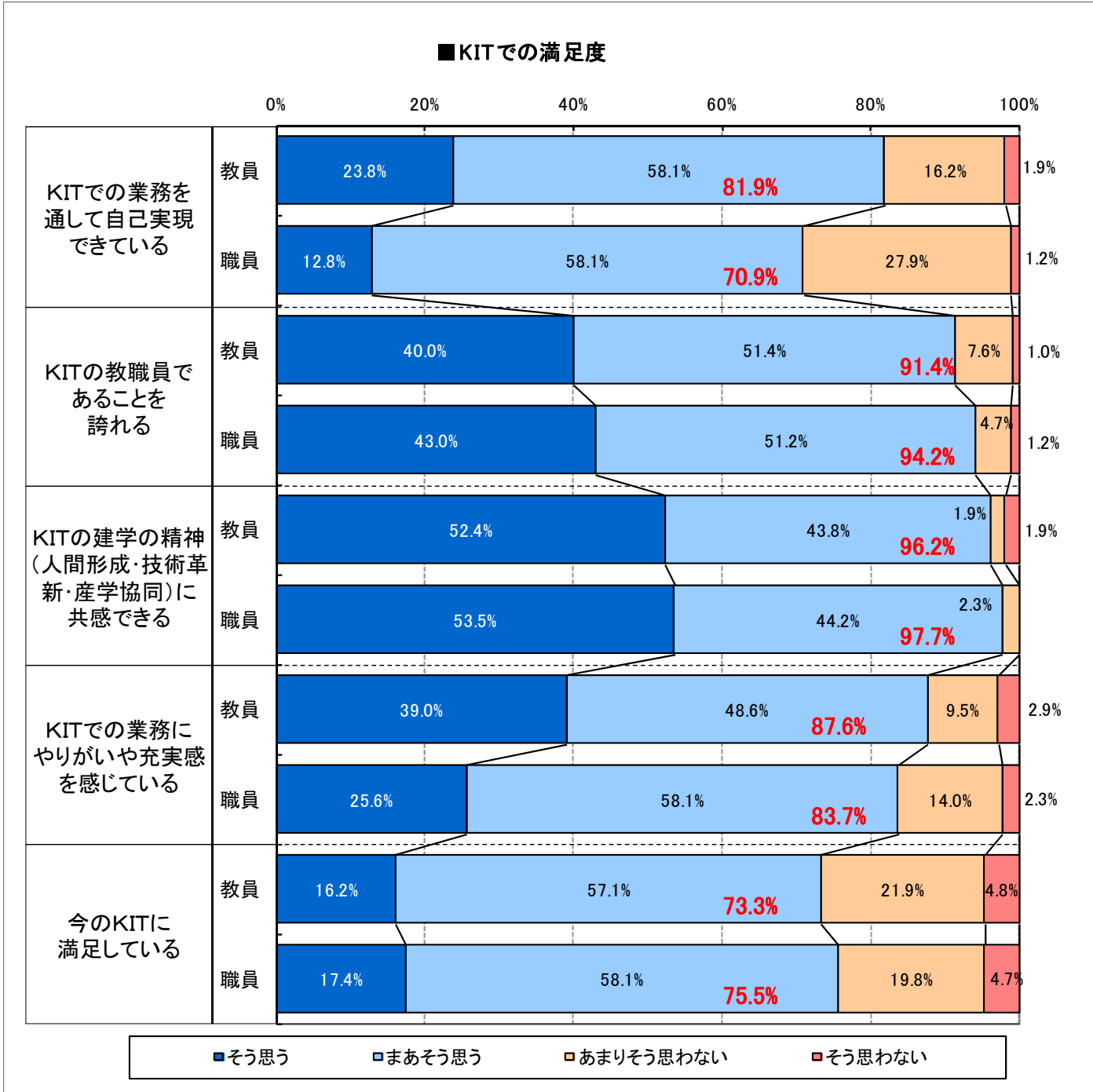
■教員の授業および学習支援の自己評価 年度別比較



<14-4> KITでの満足度

■KITでの満足度

- 最初に「今のKITに満足している」を見たところ、「教員」では「そう思う」が16.2%、「まあそう思う」が57.1%であり、合計すると73.3%がKITに満足と答えていた。そして、「職員」では「そう思う」が17.4%、「まあそう思う」が58.1%で合計すると75.5%であり、「教員」より2.3ポイント高かった。
- 「教員」「職員」ともに肯定的な意見が最も多かったのは「KITの建学の精神に共感できる」であり、「教員」は96.2%、「職員」は97.7%であった。続いて、「KITの教職員であることを誇れる」は「教員」が91.4%、「職員」が94.2%で、いずれもほとんどが肯定的な意見になっていた。
- 一方、肯定的な意見が少なめであったのは「KITでの業務を通して自己実現できている」であり、肯定的な意見は「教員」で81.9%、「職員」で70.9%であり、特に「職員」の低さが目立っていた。



継続的な改善活動のために!

在学生・卒業生・教職員

2018 KIT総合アンケート調査結果[報告書]

■発行日	平成30年11月1日
■発行者	学校法人 金沢工業大学
■調査票設計・分析	有限会社 アイ・ポイント
■編集	金沢工業大学企画部CS室

無断複製厳禁